

# 第20回 日本神経理学療法学会

The 20th Conference of the Japanese Society of Neurological Physical Therapy

## 学術大会



### 我々は何者か、どこに向かうのか

～決別と融和、そして創発へ～

### プログラム・抄録集

会期

2022年10月15日(土)～10月16日(日)

会場

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

大会長

森岡 周

(畿央大学大学院健康科学研究科 主任・教授)

臨床から研究・開発までシームレスな”企業内”研究所

# エイジングサイエンスラボ

SENSTYLE Aging Science Laboratory

## 開設!!

現所属では**研究番号**が発行できず  
**競争資金**へチャレンジできない

大学との**両立**や  
**研究と収入**のバランスが難しい

企業等の**マッチング先**を  
探しているんだけど…

手軽に**サンプル**を確保できる  
**フィールド**がない



### 開設にあたって

代表取締役 国中優治

研究所の開設は私の以前からの想いでもあり、働く環境に臨床研究フィールドを備え、特に若手理学療法士にチャンス場を設けることが夢でした。研究者番号の発行や科研費取得などは大学院や教育機関に属することで得られるものですが、最近の間口が広がり弊社のような民間企業でも研究所登録(文科省認可)が可能となりました。弊社の強みは1000名以上のクライアントを対象とするフィールドと研究職としての職務、さらには資金を科研費に頼らなくても研究を継続可能なことです。これらの条件は研究者にとってアドバンテージと考えており、私もかつて大学院に所属し研究や教育に携わっていたのでマスターやドクターを修了した理学療法士の切実なニーズと捉えております。早速、研究所のシゴトとして医療介護現場のDX化やセンシング技術による業務効率化やセキュリティカメラを活用した動作解析などデバイスやシステムの開発を大手企業様と進めております。研究者としての採用も随時行っておりますのでご興味のある方は門を叩いてください。最後にこの研究所構想のアイデアをくださった森岡周教授に感謝いたします。



## 医療・介護研究者の問題解決のため (株)SENSTYLE が研究所を新設しました。

### ✔ サンプルフィールドに近い

脳卒中リハビリセンターや有料老人ホーム併設のため、高齢者を中心としたデータ収集が可能です。

### ✔ 研究者番号が発行可能

当研究所は、文部科学省科学研究費助成事業指定研究機関です。条件がそろえば研究者登録が可能となり、各種競争資金(科研費、A-STEP等)へ応募することができます。

### ✔ 研究と雇用のバランスが取りやすい

脳卒中リハビリセンターや高齢者有料ホームなど、グループ企業での雇用をベースに研究が展開できます。

### ✔ 各種企業とマッチングを検討できる

自社実績(スプリットベルトトレッドミル・挙動感知システム等)を基に研究成果やアイデアを用い、連携企業や教育機関とのマッチングを検討できます。

【(株)SENSTYLE エイジングサイエンスラボ】

文部科学省科学研究費助成事業指定研究機関番号:97403

### グループ企業



改善&回復 歩行リハビリセンター

- ・ホコル健軍 〒860-0911熊本市東区健軍1-37-6.1F
- ・ホコル琴平 〒860-0813熊本市中央区琴平2-6-44.1F
- ・ホコル福岡 〒816-0902大野城市乙金3-23-1  
☎0120-949-856【共通フリーダイヤル】



- ・本部 〒860-0813熊本市中央区琴平2-6-44.3F
- ・サテライト 〒862-0911熊本市東区健軍1-37-6.2F  
☎0120-987-392【共通フリーダイヤル】



- ・ウォークラン健軍 〒862-0911熊本市東区健軍1-37-6.2F  
☎096-234-8088
- ・ウォークラン福岡 〒816-0902大野城市乙金3-23-1  
☎096-586-6636



- ・メディケア癒やし京町台 〒860-0088熊本市西区津浦町4-13  
☎096-273-7610
- ・メディケア癒やし今宿 〒861-0167福岡市西区今宿3-6-16  
☎092-806-1019



- ・グッドファイブ熊本 〒860-0813熊本市中央区琴平2-6-44  
☎096-374-8778
- ・グッドファイブ福岡 〒819-0373福岡市西区周船寺1-1-32-102  
☎092-407-8292



- ・ラポアレ熊本 〒862-0971熊本市中央区大江4-2-1  
☎096-327-9810
- ・ラポアレ放デイ 〒862-0963熊本市南区出仲間9-2-15  
☎096-285-4662
- ・ラポアレ福岡 〒861-0902大野城市乙金3-23-1  
☎092-586-6554



- 〒862-0963熊本市南区出仲間9-2-15  
☎096-285-4654



- 〒860-0088熊本市西区津浦町4-13.4F  
☎096-273-7652



- 〒862-0911熊本市東区健軍1-37-6.2F  
☎096-234-6661



# 臨床現場に定量的な歩行評価を



## 検査

動作分析検査



## 評価

歩行機能のスコアリング



## 研究

データ取得・分析・活用



# AYUMI EYE

medical

販売名：歩行解析デバイス AYUMI EYE medical  
製造販売届出番号：20B3X10015000001  
一般的名称：歩行分析計  
種別：機械器具(24)  
医療機器分類：一般医療機器

## 診療報酬算定可能

平衡機能検査 動作分析検査/250点



- ☑ 優れた装着性と操作性
- ☑ 加速度算出方法に関するプログラム等10種以上の特許
- ☑ 収集データを分析しながら、日々順次アップデート

EHA  
WASEDA

株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団

TEL : 03-5447-5470

E-mail : ayumi\_s@waseda-e-life.co.jp

AYUMI EYE  
ホームページ



## 大会長挨拶

第20回日本神経理学療法学会学術大会大会長

**森岡 周**

(畿央大学大学院健康科学研究科主任・教授、  
同ニューロリハビリテーション研究センター長)



1965年「理学療法士及び作業療法士法」が制定され理学療法が定義されました。この定義では、理学療法の目的は「基本動作能力の回復」、対象は「身体に障害がある者」、そして方法は「運動療法あるいは物理療法」と明記されています。時代は令和へと移り変わり、対象疾患・障害は多様化し、方法はテクノロジーの進化に伴い、もはや上記の定義にはおさまりにきれではありません。

本大会テーマには「我々は何者か、どこに向かうのか - 決別と融和、そして創発へ -」を掲げさせて頂きました。これはゴッガンの絵画「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか (ボストン美術館蔵)」に対するオマージュです。この絵画は人間の一生を比喻して描かれたものですが、神経理学療法は「どこから来て、どこに向かうのか」、そして、そもそもそれは「何者なのか」、これらの問いに対して、本大会では議論したいと考えています。

また、サブタイトルには「決別と融和、そして創発へ」を掲げました。私達人間は、しばしば原点回帰しつつ、成長しているかを内省します。成長は時に不連続性を伴います。それゆえ、一度培ってきたものをリセットし、時折、決別するタイミングが求められます。神経理学療法では、これまで流行のようにして理論・手技が輸入・開発されてきたものの、それがどのような病態に適応し、どのようなことに限界があるかといった明確な議論がないまま、信念対立の果て、あるものは廃れ、あるものは残り続け、今日に至っています。そもそも、これらの目的は「神経障害の人々を救う」ことであつたはずで、「我々は何者か」、今一度そのスタンスを本大会で確認し、「我々はどこに向かうのか」について融和を図りつつ、共有意思決定する場にしたいと考えています。異なる意見を学術大会という同じテーブルで表出し、新たな知を創発するプラットフォームの実現を目指します。

このような趣意に基づく記念すべき第20回大会では、参加者の皆様と大阪の地で「なぜ神経理学療法があるのか？」を再確認したいと考えています。本大会は次の10年に向けたプログラム構成になっていると自負しています。本大会での集いが端緒となって、未来を担う一人でも多くの会員の研究・臨床が今後飛躍することを心から願っています。

是非とも大阪で熱いディスカッションをしましょう！



# 日程表

## 第1日目 2022年10月15日 (土)

	第1会場 (5階、大ホール)	第2会場 (5階、小ホール)	第3会場 (10階、会議室1004-1007)	第4会場 (10階、会議室1008)	第5会場 (10階、会議室1009)	第6会場 (12階、特別会議場)
8:00▶						
9:00▶	受付 (8:30~)					
10:00▶			9:20-10:00 ブラックファーストセミナー1 オージー技研 (株) 下肢運動障害に対する 電気刺激療法の活用 生野 公貴	9:20-10:00 ブラックファーストセミナー2 リハテックリンクス (株) 高齢者における予防理学療法・フレイルの理解 山田 実	9:20-10:00 ブラックファーストセミナー3 フィンガルリンク (株) 歩行学習支援ロボット Orthobot® (オルソボット) による遊脚誘導 大畑 光司	
	10:10-10:20 開会式 10:20-10:50 <b>アーカイブ有</b> 大会長講演 我々はどこから来たのか、どうあるべきなのか 講師：森岡 周 司会：網本 和					
11:00▶	11:00-11:50 <b>アーカイブ有</b> 特別講演 I 身体内・外環境に対する 多感覚統合と運動の新視点： 自己の存在について考える 講師：乾 敏郎 司会：大畑 光司	11:00-11:50 <b>アーカイブ有</b> 共催シンポジウム I 非侵襲脳刺激と理学療法展開 —低強度経頭蓋電気刺激を中心に— 講師：金子 文成・石黒 幸治 座長：大西 秀明・松田 雅弘		11:00-11:50 口述 1 脳損傷 介入研究 座長：青木 修・倉山 太一	11:00-11:50 口述 2 脳損傷 予後予測 座長：武井 圭一・太田 幸子	
12:00▶			12:00-12:40 ランチョンセミナー1 (株) gene 脳卒中・神経難病の生活期を見据えた急性期・ 回復期の関わり・生活期からの提言と感謝・ 張本 浩平	12:00-12:40 ランチョンセミナー2 (株) テック技販 / (株) クリアクト 各種障害・疾患にみる立位姿勢 障害/姿勢制御の多様性 河島 則夫	12:00-12:40 ランチョンセミナー3 パシフィックサプライ (株) 姿勢制御システムと器具療法—地方器具の重要性に ついて—/セントラルKAFOサービスの活用の観 吉尾 雅春・安部 陽子	12:00-12:40 ランチョンセミナー4 (株) Senstyle 歩行の複雑性の再獲得 樋口 真広
13:00▶	13:00-13:50 <b>アーカイブ有</b> 特別講演 II 臨床意思決定におけるエビデンス 情報の活用スタンダード 講師：中山 健夫 司会：藤本 修平	12:50-13:50 <b>アーカイブ有</b> 共催シンポジウム II 病態に基づく新たなテクノロジー による神経理学療法の新展開 講師：小山 総市朗・野島 一平・ 高橋 容子・安田 和弘 座長：小山 総市朗・松田 雅弘	12:50-13:50 公募シンポジウム I 「脊髄損傷・再生医療」 脊髄損傷に対する再生医療と 理学療法 講師：佐々木 雄一・ 愛知 諒・ 大川原 洋樹 オーガナイザー：愛知 諒	12:50-13:50 口述 3 神経筋疾患1 座長：尾谷 寛隆・松本 直人	12:50-13:50 口述 4 基礎1 座長：諸橋 勇・橘 香織	12:50-13:50 口述 セレクション 1 座長：浅井 仁・犬飼 康人
14:00▶	14:00-15:00 公募シンポジウム II 「歩行」 脳卒中片麻痺患者の歩行 リハビリテーション変革 講師：関口 雄介・ 柳花 隆昭・ 大脇 大 オーガナイザー：関口 雄介	14:00-15:00 <b>アーカイブ有</b> 共催シンポジウム III 脳卒中患者の入院と生活期を繋 ぐリアルワールドエビデンスの 創出に向けて 講師：石垣 智也・野田 正徳・ 尾川 達也 座長：牧迫 飛雄馬・野添 匡史	14:00-15:00 公募シンポジウム III 「脊髄小脳変性症」 脊髄小脳変性症の理学療法を 一歩進めるために我々が為すべき事は何か 講師：松本 明好・ 板東 杏太・ 近藤 夕鈴・ 菊地 豊 オーガナイザー：松本 明好・ 菊地 豊	14:00-14:50 口述 5 症例報告・研究 座長：八谷 瑞紀・橋立 博幸	14:00-15:00 口述 6 脳損傷 バランス 座長：杉本 論・塩崎 智之	14:00-15:00 口述 セレクション 2 座長：池田 由美・高見 彰淑
15:00▶	15:10-16:10 公募シンポジウム IV 「運動障害」 神経ネットワークから読み解く 運動障害 講師：野島 一平・ 山口 智史・ 中村 潤二 オーガナイザー：山口 智史	15:10-16:10 公募シンポジウム V 「身体活動量」 脳卒中者の活動・参加につなげ る身体活動量マネジメント 講師：木村 康介・ 小毛 一彰・ 金居 督之 オーガナイザー：金居 督之	15:20-16:50 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 I 「歩行障害 I」 講師：岡田 洋平・阿部 浩明・ 久保 宏紀	15:20-16:50 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 III 「高次脳機能障害 I」 講師：信迫 悟志・大村 優慈・ 酒井 克也	15:20-16:50 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 V 「協調運動障害・ 姿勢バランス障害 I」 講師：松本 明好・玉利 誠・ 植田 耕造	15:20-16:50 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 VII 「運動麻痺 I」 講師：犬飼 康人・板東 杏太・ 高橋 容子
16:00▶	16:20-17:20 公募シンポジウム VII 「運動・姿勢制御」 運動・姿勢制御研究において 神経理学療法が果たす役割と 今後の進むべき道 講師：冨田 洋介・ 進矢 正宏・ 萬井 太規 オーガナイザー：冨田 洋介	16:20-17:20 公募シンポジウム VII 「中枢性疼痛」 中枢性疼痛の脳内メカニズムと リハビリテーション 講師：長坂 和明・ 井川 祐樹・ 大住 倫弘 オーガナイザー：大鶴 直史	17:00-18:30 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 II 「歩行障害 II」 講師：関口 雄介・室井 大佑・ 久保田 雅史	17:00-18:30 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 IV 「高次脳機能障害 II」 講師：高村 優作・辻本 直秀・ 深田 和浩	17:00-18:30 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 VI 「協調運動障害・ 姿勢バランス障害 II」 講師：菊地 豊・武田 賢太・ 藤野 雄次	17:00-18:30 <b>アーカイブ有</b> 教育講演 VIII 「運動麻痺 II」 講師：上原 信太郎・山口 智史・ 中村 潤二
17:00▶	17:30-18:30 特別企画 決別と融和：脳卒中理学療法 コンソーシアムは可能か パネリスト：大槻 暁・園田 義顕・ 舟波 真一 指定発言：竹林 崇・京極 真 司会：奥埜 博之・生野 公貴	17:30-18:30 公募シンポジウム VIII 「パーキンソン病」 パーキンソン病診療の近未来へ のロードマップ 講師：岡田 洋平・ 澤田 誠・ 成田 雅 オーガナイザー：岡田 洋平・ 澤田 誠				
18:00▶						
19:00▶						

第1日目 2022年10月15日 (土)

展示会場 (10階)	ポスター会場1 (10階、会議室1001-1003)					ポスター会場2 (12階、会議室1202)		
8:00▶								
9:00▶	ポスター貼付 (9:00-12:00)							
10:00▶								
11:00▶								
12:00▶								
13:00▶	12:50-13:40 ポスターセレクション1 座長：金子 文成・ 木山 良二	12:50-13:50 ポスター1 脳損傷 高次脳機能障害 座長：田村 正樹・ 西村 清陽	12:50-13:50 ポスター2 脳損傷 歩行1 座長：前川 遼太・ 福本 悠樹	12:50-13:50 ポスター3 脳損傷 急性期1 座長：兒玉 隆之・ 國枝 洋太	12:50-13:50 ポスター4 脳損傷 回復期1 座長：宮原 拓也・ 外器 光平	12:50-13:50 ポスター5 脳損傷 物理療法1 座長：鈴木 栄三郎・ 原田 和宏	12:50-13:50 ポスター6 脳損傷 バランス1 座長：駒形 純也・ 伊藤 亮浩	
14:00▶	14:00-15:00 企業プレゼンテーション	14:00-15:00 ポスターセレクション2 座長：高村 浩司・ 星野 高志	14:00-15:00 ポスター7 脊髄障害1 座長：村山 尊司・ 樋口 大輔	14:00-15:00 ポスター8 神経筋疾患 急性期 座長：中川 義嗣・ 西川 裕一	14:00-15:00 ポスター9 基礎 座長：浦川 将・ 北地 雄	14:00-15:00 ポスター10 脳損傷 回復期2 座長：邑口 英雄・ 阿部 紀之	14:00-15:00 ポスター11 脳損傷 生活期1 座長：森 憲一・ 木下 篤	14:00-15:00 ポスター12 脳損傷 測定・評価1 座長：中川 慧・ 宮田 一弘
15:00▶	e ポスター ※ e ポスターの質疑応答は 10月7日~14日の間に Slack を用いています。	15:10-16:10 ポスター13 発達障害 座長：藤本 智久・ 畑中 良太	15:10-16:10 ポスター14 神経筋疾患 回復期 座長：堀本 佳誉・ 北野 晃祐	15:10-16:10 ポスター15 脳損傷 装具・ロボット1 座長：飯田 修平・ 河尻 雄輝	15:10-16:10 ポスター16 脳損傷 回復期3 座長：大古 拓史・ 濱田 裕幸	15:10-16:10 ポスター17 脳損傷 歩行2 座長：荻原 啓文・ 村上 忠洋	15:10-16:10 ポスター18 脳損傷 予後予測1 座長：佐藤 博史・ 大坪 尚典	
16:00▶		16:20-17:20 ポスター19 脊髄障害 急性期・評価 座長：節岡 祐輔・ 有地 祐人	16:20-17:20 ポスター20 神経筋疾患 座長：岩部 達也・ 菊地 和人	16:20-17:20 ポスター21 脳損傷 急性期2 座長：山内 康太・ 河尻 博幸	16:20-17:20 ポスター22 脳損傷 回復期4 座長：森井 裕太・ 瑞慶覧 誠	16:20-17:20 ポスター23 脳損傷 歩行3 座長：北谷 亮輔・ 大田 瑞穂	16:20-17:20 ポスター24 脳損傷 歩行・ロボット1 座長：平田 恵介・ 有末 伊織	
17:00▶		ポスター撤去						
18:00▶								
19:00▶								



第2日目 2022年10月16日 (日)

	第1会場 (5階、大ホール)	第2会場 (5階、小ホール)	第3会場 (10階、会議室1004-1007)	第4会場 (10階、会議室1008)	第5会場 (10階、会議室1009)	第6会場 (12階、特別会議場)
8:00						
	受付 (8:15~)					
9:00	9:00-9:50 <b>【アーカイブ有】</b> 特別講演Ⅲ 脳・脊髄損傷後の機能回復過程 における超適応 講師：伊佐 正 司会：内山 靖	9:00-9:50 <b>□述7</b> 脳損傷 歩行 座長：中山 恭秀・伊藤 和寛	9:00-10:00 <b>公募シンポジウムⅩ</b> 「半側空間無視」 [半側空間無視に対するアプローチ —その理論と臨床—] 講師：高村 優作・ 本村 和也・ 深田 和浩 オーガナイザー：深田 和浩・ 渡辺 学	9:00-10:00 <b>□述8</b> 基礎2 座長：中西 智也・米田 浩久	9:00-10:00 <b>□述9</b> 脳損傷 回復期 座長：松崎 哲治・村上 賢一	9:00-9:50 <b>□述10</b> 脳損傷 歩行/装具・ロボット1 座長：平野 明日香・島野 克朗
10:00	10:00-12:00 <b>【アーカイブ有】</b> 共催シンポジウムⅣ 筋シナジーと歩行 講師：関 和彦・ 船戸 徹郎・ 高草木 薫・ 千葉 龍介・ 水田 直道 指定発言：大畑 光司 座長：安 琪 オーガナイザー：内藤 栄一	10:00-12:00 <b>【アーカイブ有】</b> 共催シンポジウムⅤ 身体性変容から生きにくさを探る 講師：大久保 暢子・酒井 郁子・ 片岡 保憲・宮脇 裕・ 大住 倫弘・田中 彰吾 座長：信迫 浩志・江草 典政	10:10-11:00 <b>□述11</b> 前庭迷路系 座長：白田 滋・畑迫 茂樹	10:10-11:00 <b>□述12</b> 神経筋疾患2 座長：山本 幸夫・上出 直人	10:10-11:00 <b>□述13</b> 脳損傷 症例報告・研究1 座長：大田 尾浩・嘉戸 直樹	10:10-11:00 <b>□述14</b> 脳損傷 測定評価1 座長：鈴木 俊明・徳久 謙太郎
11:00			11:10-12:00 <b>□述15</b> 上肢機能 座長：柳野 浩司・田中 秀明	11:10-12:00 <b>□述16</b> 神経筋疾患3 座長：菊本 東陽・木内 隆裕	11:10-12:00 <b>英語1</b> 座長：森下 元賀・野添 匡史	11:10-12:00 <b>□述17</b> 脳損傷 測定評価2 座長：奥田 裕・斎藤 琴子
12:00			12:10-12:50 <b>ランチョンセミナー5</b> (株) gene 神経理学療法に活かす疼痛の知識 松原 真子	12:10-12:50 <b>ランチョンセミナー6</b> (株)ホーマイオン研究所 / アルケア(株) 拘縮のメカニズムと治療戦略 沖田 実	12:10-12:50 <b>ランチョンセミナー7</b> (株)メルティンMMI / 住友ファーマ(株) 脳卒中上肢機能障害に対する 新しいリハビリテーション治療 藤原 俊之	12:10-12:50 <b>ランチョンセミナー8</b> 藤倉化成(株) 装具療法革命 吉尾 雅春・三井 和幸・ 山本 澄子・増田 知子
13:00	13:00-14:00 <b>公募シンポジウムⅩ</b> 「急性期」 脳卒中の急性期で本当に やるべき理学療法って何？ 講師：徳田 和宏・ 藤野 雄次・ 野添 匡史 オーガナイザー：野添 匡史	13:00-14:40 <b>【アーカイブ有】</b> 共催シンポジウムⅥ 運動学習と機能回復 講師：今水 寛・ 井澤 淳・ 筒井 健一郎・ 上原 信太郎 指定発言：玉利 誠 座長：近藤 敏之 オーガナイザー：内藤 栄一	13:00-14:00 <b>□述18</b> 脊髄障害 座長：長谷川 隆史・山本 直樹	13:00-14:00 <b>□述19</b> 脳損傷 症例報告・研究2 座長：潮見 泰蔵・権藤 要	13:00-13:40 <b>英語2</b> 座長：内山 靖・渡辺 学	13:00-14:10 <b>□述21</b> 脳損傷 歩行/装具・ロボット2 座長：島津 尚子・春名 弘一
14:00	14:10-15:20 <b>【アーカイブ有】</b> 基幹シンポジウム 我々は何者か？ [Neurological PT] とは 講師：高村 優作・藤井 慎太郎 河島 則天 座長：河島 則天・生野 公貴				13:45-14:15 <b>□述20</b> 発達障害 座長：儀間 裕貴	
15:00	15:20-15:30 <b>表彰式</b> 15:30-16:00 <b>【アーカイブ有】</b> クロージングシンポジウム 我々はどこに向かうのか 座長：森岡 周					
16:00	16:00-16:10 <b>次期大会長挨拶</b> 16:10-16:20 <b>閉会式</b>	講師：野添 匡史・ 山口 智史・ 深田 和浩・ 松本 明好				
17:00						
18:00						
19:00						

第2日目 2022年10月16日 (日)

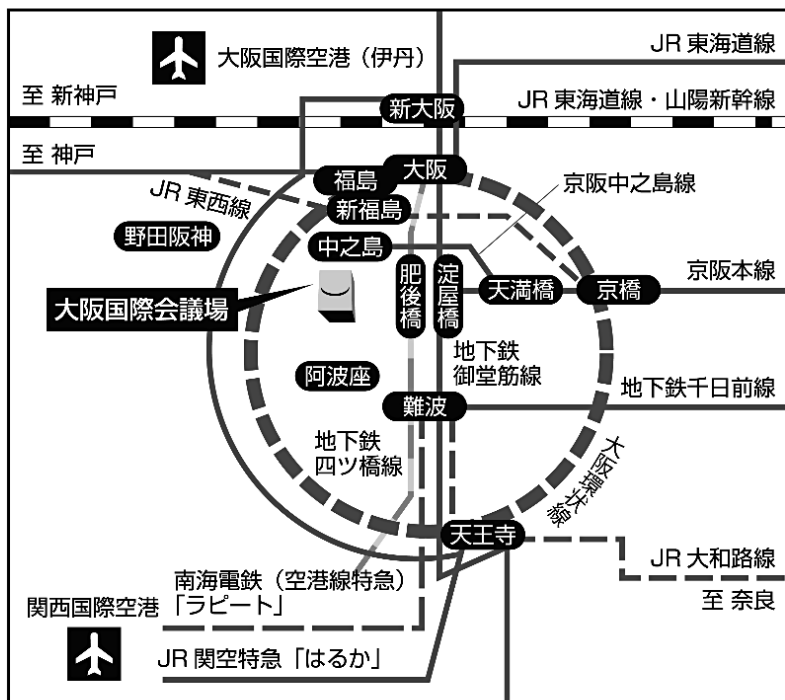
展示会場 (10階)	ポスター会場1 (10階、会議室1001-1003)				ポスター会場2 (12階、会議室1202)	
8:00▶	ポスター貼付 (8:15-9:00)					
9:00▶	9:00-10:00 <b>ポスター25</b> 脳損傷 装具・ロボット2 座長：中條 雄太・桑原 嵩幸	9:00-10:00 <b>ポスター26</b> 神経筋疾患 測定・評価 座長：佐藤 和命・杉 輝夫	9:00-10:00 <b>ポスター27</b> 脳損傷 バランス2 座長：塙 大樹・北山 哲也	9:00-10:00 <b>ポスター28</b> 脳損傷 回復期5 座長：冨田 憲・奥田 正作	9:00-10:00 <b>ポスター29</b> 脳損傷 測定・評価2 座長：山本 哲・藤田 和樹	9:00-10:00 <b>ポスター30</b> 脳損傷 急性期3 座長：山形 哲行・大谷 武司
10:00▶	10:00-11:00 <b>ポスター31</b> 脊髄障害2 座長：北出 一平・清水 健	10:00-11:00 <b>ポスター32</b> 神経筋疾患 バランス 座長：谷内 涼馬・元村 隆弘	10:00-11:00 <b>ポスター33</b> 脳損傷 急性期4 座長：山本 洋司・守屋 正道	10:00-11:00 <b>ポスター34</b> 脳損傷 回復期6 座長：田村 哲也・松野 悟之	10:00-11:00 <b>ポスター35</b> 脳損傷 歩行・ロボット2 座長：渡邊 家泰・渡邊 大貴	10:00-11:00 <b>ポスター36</b> 脳損傷 生活期2 座長：片山 脩・乾 哲也
11:00▶	11:00-12:00 <b>ポスター37</b> 脳損傷 急性期5 座長：鎌田 将星・吉村 恵三	11:00-12:00 <b>ポスター38</b> 神経筋疾患 症例 座長：坂本 宗樹・遠藤 博	11:00-12:00 <b>ポスター39</b> 脳損傷 物理療法2 座長：岡元 信弥・佐々木 翔太	11:00-12:00 <b>ポスター40</b> 脳損傷 回復期7 座長：古賀 優之・湯浅 明子	11:00-12:00 <b>ポスター41</b> 脳損傷 歩行・ADL 座長：荒井 沙織・谷野 元一	11:00-12:00 <b>ポスター42</b> 脳損傷 歩行4 座長：松澤 雄太・石黒 正樹
12:00▶	12:10-12:50 企業プレゼンテーション					
13:00▶	13:00-14:00 <b>ポスター43</b> 脊髄障害 回復期 座長：延本 尚也・藤縄 光留	13:00-14:00 <b>ポスター44</b> 脳損傷 予後予測2 座長：平塚 健太・友田 秀紀	13:00-14:00 <b>ポスター45</b> 脳損傷 歩行5 座長：鮎川 将之・川崎 亘		13:00-14:00 <b>ポスター46</b> 脳損傷 測定・評価3 座長：谷本 正智・中野 英樹	13:00-14:00 <b>ポスター47</b> 脳損傷 装具・ロボット3 座長：松居 和寛・島袋 公史
14:00▶	ポスター撤去					
15:00▶	ポスター撤去					
16:00▶	ポスター撤去					
17:00▶	ポスター撤去					
18:00▶	ポスター撤去					
19:00▶	ポスター撤去					



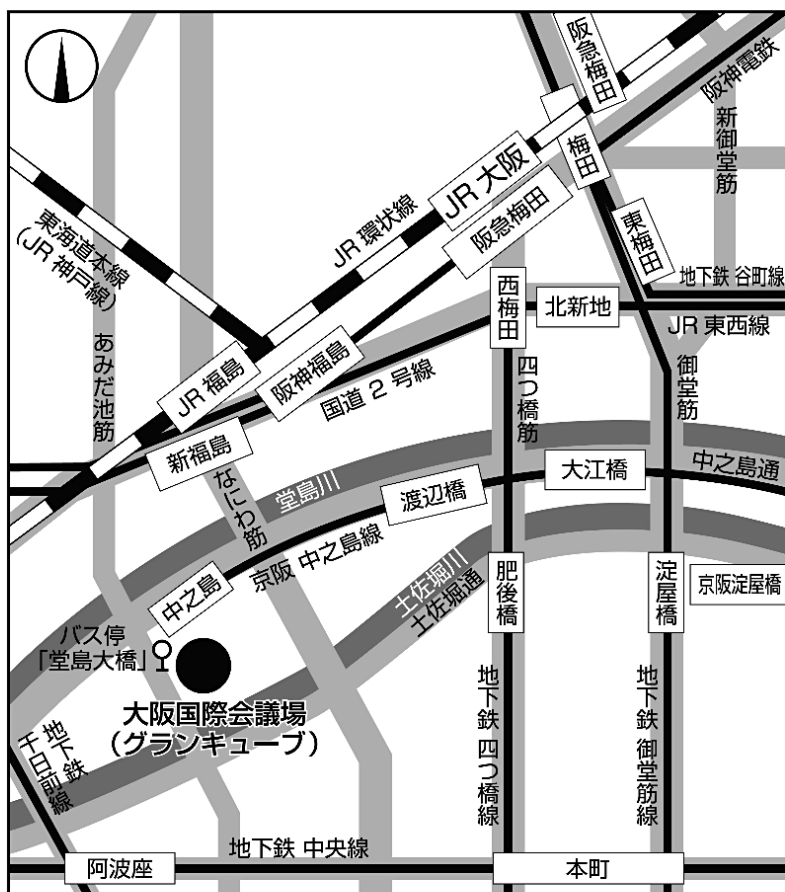
# 会場案内

## ■会場までのアクセス

大阪国際会議場（グランキューブ） 〒 530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3番51号  
 TEL：06-4803-5555（代表） FAX：06-4803-5620



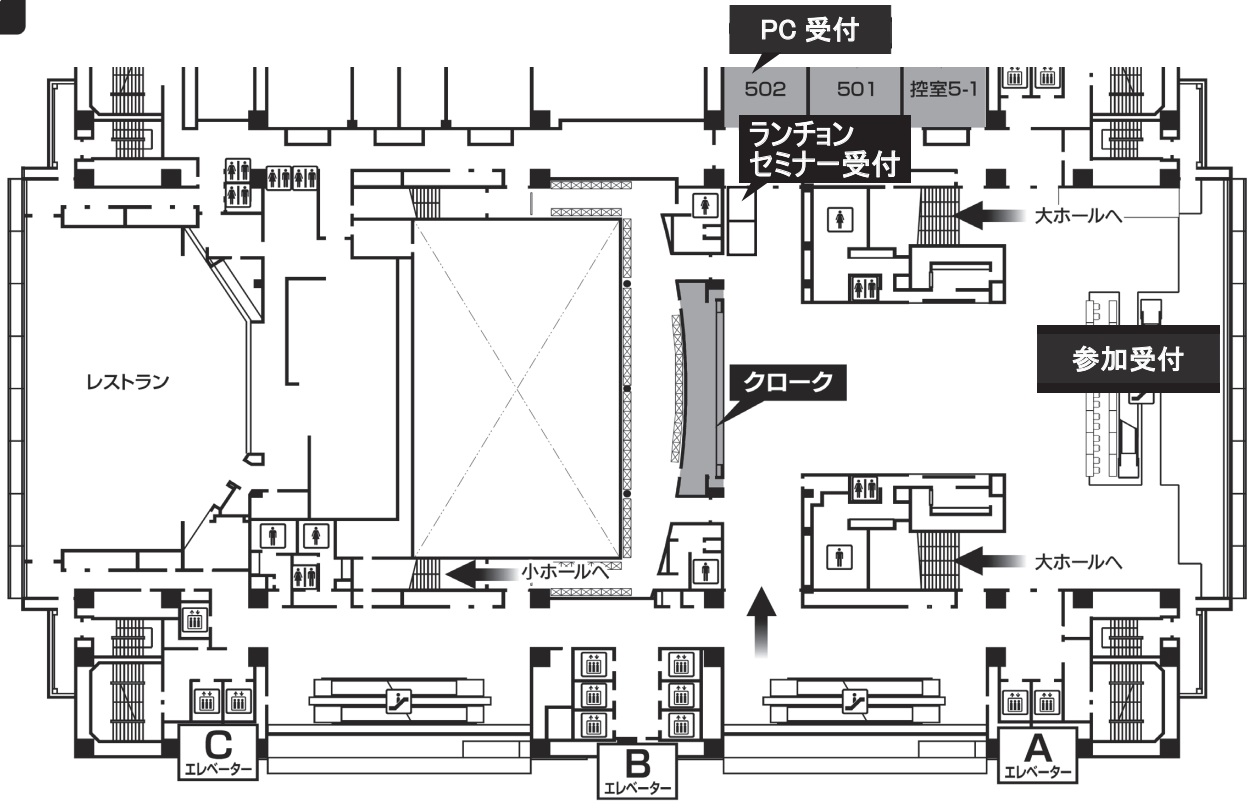
- 関西国際空港からJR大阪駅
  - JR 関空快速でJR「大阪駅」まで約65分
  - 空港リムジンバスでJR「大阪駅」まで約60分
- 大阪国際空港（伊丹）からJR大阪駅・梅田周辺
  - 空港リムジンバスでJR「大阪駅」まで約30分
  - 大阪モノレールで「蛍池駅」まで約3分、阪急宝塚線に乗り換え「阪急梅田駅」まで約14分
- 新幹線（新大阪駅）からJR大阪駅
  - JR 東海道本線でJR「大阪駅」まで約4分
- JR大阪駅・梅田周辺から大阪国際会議場
  - JR「大阪駅」からタクシーで約10分
  - 市バス【53系統船津橋行き】または【55系統鶴真理四丁目行き】で約15分「堂島大橋」バス停下車すぐ
  - リーガロイヤルホテルシャトルバスで約10～15分



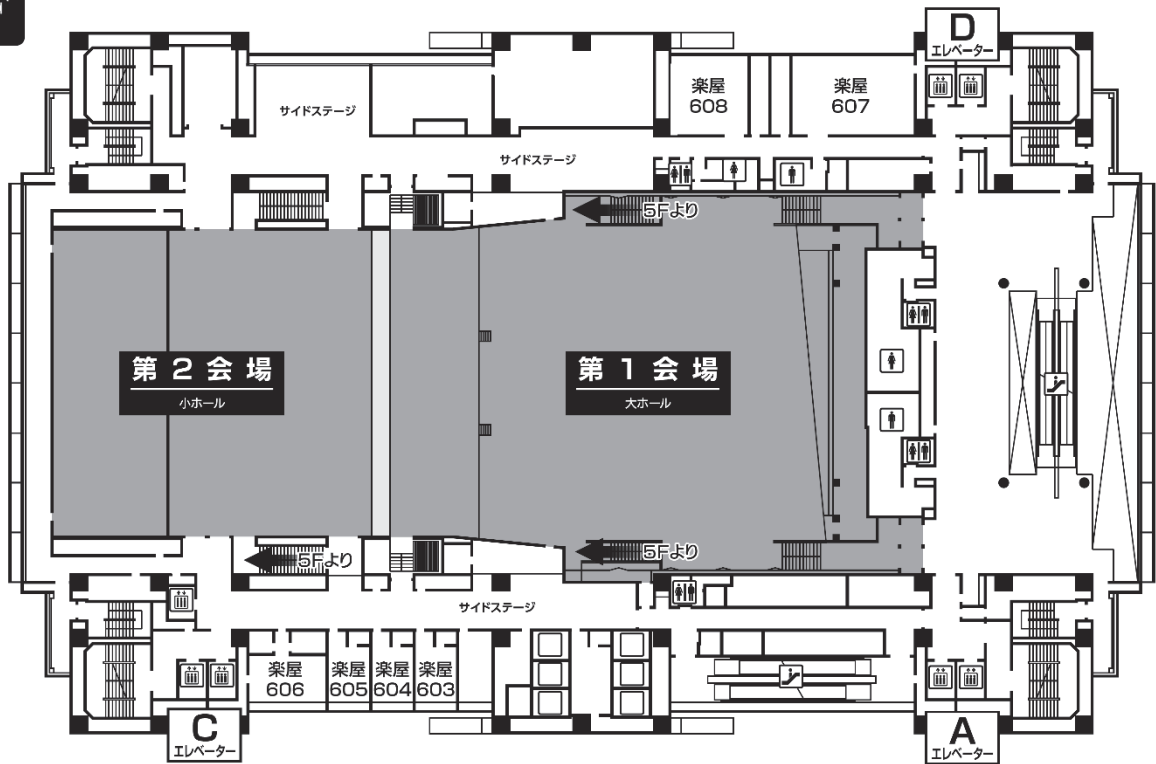
- 大阪国際会議場 周辺アクセス
  - 京阪電車中之島線「中之島駅」2番出口すぐ
  - JR東西線「新福島駅」2番出口から徒歩約10分
  - 阪神電鉄「福島駅」3番出口から徒歩約10分
  - JR環状線「福島駅」から徒歩約12分

■会場案内図

5F

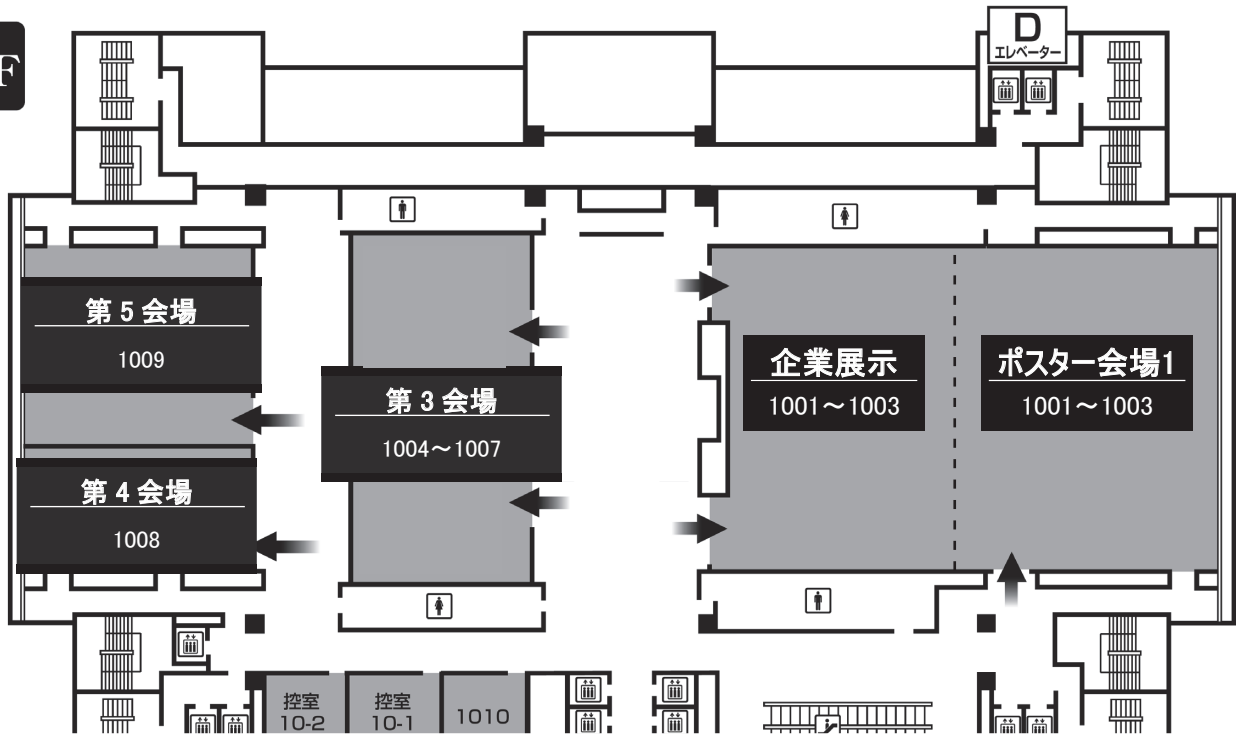


6F

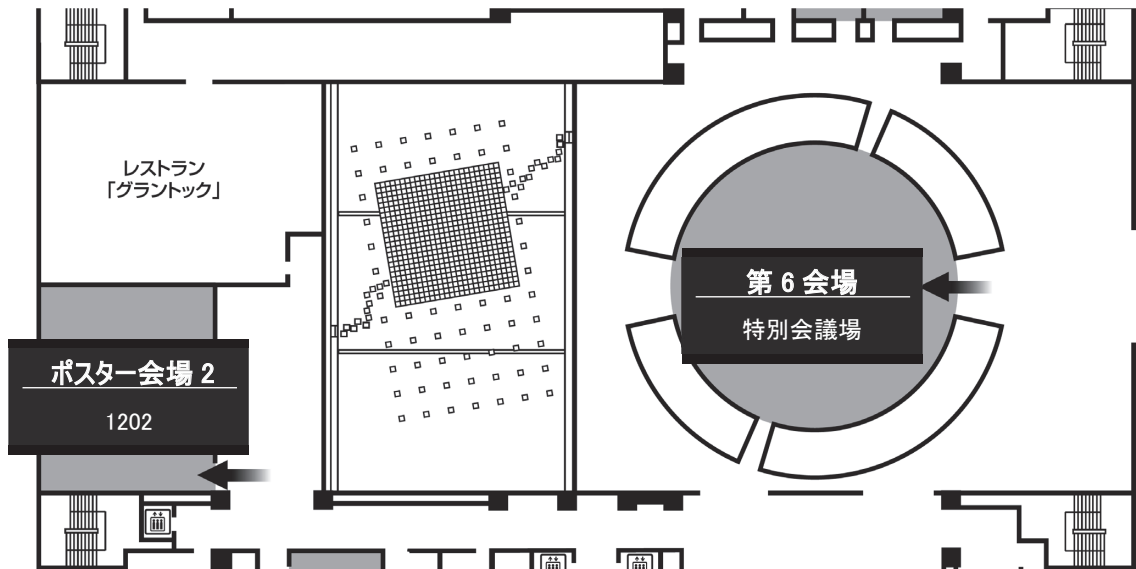




10F



12F



# ご参加の皆様へ

## 1) 感染症対策について

ご来場頂く皆様は、下記をご熟読のうえ、ご協力をお願いいたします。

来場前には、ご自身で体調の異常がないか確認し、以下の項目で、1つでも「はい」が該当する場合は、来場をお控えください。

- ①新型コロナウイルスに感染し、現在隔離期間中である
- ② 37.5 度以上の発熱がある
- ③咳、咽頭痛、強いだるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がある
- ④嗅覚異常や味覚異常がある
- ⑤同居家族に上記②③④の症状がある
- ⑥新型コロナウイルス感染者と濃厚接触がある

- ・ 入場時は、入り口で必ず手指の消毒をしてください。
- ・ 会場入場の際には、サージカルマスク（不織布）をご着用ください。（ウレタンマスクや布マスクは禁止といたします）
- ・ 会話時にはマスクを着用してください。
- ・ 会場が混み合う場合には、係の者が動線を指示する場合がございますので、誘導へのご協力をお願いいたします。
- ・ 混み合う場所での会話は極力お控えください。
- ・ 食事中の会話の自粛（黙食の徹底）をお願いいたします。
- ・ 会場にはクロークを準備しておりますが、手荷物は宿泊先に預けるなど、できる限り自己管理にご協力をお願いいたします。
- ・ 会場にて万が一体調が悪くなった場合、速やかにお近くのスタッフにお声がけください。
- ・ 感染者発生時には、政府機関や自治体の要請により、個人情報を開示することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

## 2) 参加受付

### 1. 受付時間・場所

日時：10月15日（土）8：30～18：00

10月16日（日）8：15～14：30

場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）5階 ホワイエ

### 2. 参加費

【日本理学療法士協会 会員】

事前参加登録

専門会員 A・B	9,000 円
一般会員・協会会員	10,000 円

当日参加登録

専門会員 A・B	11,000 円
一般会員・協会会員	12,000 円

【日本理学療法士協会 非会員】（理学療法士、他職種、学生）

非会員 理学療法士	22,000 円
非会員 他職種	14,000 円
非会員 学生	2,000 円

※非会員は、事前・当日参加登録が同額です。

※理学療法士免許を保有される方で日本理学療法士協会会員でない場合は非会員（理学療法士）となります。

※学生とは、医療系養成校在学者を指します。理学療法士免許を保有される方は、編入学部生・大学院生にかかわらず学生の扱いにはなりません。会員でない学生理学療法士の方は、非会員（理学療法士）となります。

※領収書：会員は協会マイページからダウンロードしてください。非会員、他職種、学生は振込控をもって領収書とさせていただきます。

### 3) 受付方法

#### 1. 場所・日時について

日時：10月15日（土）8：30～17：30

10月16日（日）8：15～14：30

場所：5階フロア 総合受付

#### 2. 事前参加登録をされた方

##### A. 専門会員 A・一般会員・日本理学療法士協会会員の方

<事前準備のお願い>

「[会員専用マイページアプリ](#)」のダウンロードをお願いします。



※マイページにログインするときにログインIDとパスワードが改めて必要になることがありますのでご確認ください。

<学会当日>

以下の方法で受付のQRコードを読み取ってください（下図を参照）。

その後、設置してあるネームプレート・参加証をお取りいただき、記入台でご記入ください。



“参加受付”と“履修登録”の反映

##### B. 専門会員 B・学生・非会員の方

<事前準備のお願い>

「[Peatix アプリ](#)」のダウンロードを行い、「[Peatix 事前参加登録チケット](#)」のご準備をお願いします。

※ [Peatix チケット確認方法はこちら](#)



<学会当日>

「事前参加登録受付」にて Peatix を使用した受付を行いますので、受付にてチケット QR の提示をお願いします。受付スタッフが読み取らせていただいた後、設置してあるネームプレート・参加証をとり、記入台でご記入ください。

### 3. 当日参加登録をされる方

以下から、参加登録および決済をお願い致します。

現金のお取り扱いはいたしませんのでご了承ください。

#### A. 専門会員 A・一般会員・日本理学療法士協会会員の方

以下の「会員専用マイページアプリ（推奨）」あるいは「会員カード」を用いて受付を行います。

※マイページにログインするときにログインIDとパスワードが改めて必要になることがありますのでご確認ください。

<会員専用マイページアプリをご使用の場合>

「会員専用マイページアプリ」のダウンロードをお願いします。



以下の方法で受付の QR コードを読み取ってください（下図を参照）。

その後、設置してあるネームプレート・参加証をとり、記入台でご記入ください。



“参加受付”と“履修登録”の反映

#### B. 専門会員 B・学生・非会員

「Peatix アプリ」のダウンロードを行い、「Peatix 当日参加登録チケット」のご準備をお願いします。

※ Peatix チケット確認方法は[こちら](#)



Peatix を使用した受付を行いますので、受付にてチケット QR の提示をお願いします。受付スタッフが読み取らせていただいた後、設置してあるネームプレート・参加証をとり、記入台でご記入ください。

※参加証には、ご所属、お名前を各自ご記入の上、はっきりと分かるように着用してください。

※参加証のない方の入場はお断りいたします。



※参加証（ネームカード）の再発行は一切行いませんので、会期中は紛失などされませんよう大切に请使用くださいようお願い申し上げます。

#### 4) 生涯学習制度 履修申請

日本理学療法士協会マイページ⇒「生涯学習管理」⇒「セミナー検索・申し込み」の順にクリックし、「セミナー番号」欄に「102011」と入力して検索してください。

※履修目的について、申し込み時に登録理学療法士更新ポイント、認定/専門理学療法士更新点数どちらで申し込みするかを選択する必要があります。申し込みの際は、お間違いの無いようお願いいたします。

セミナー番号：102011

登録理学療法士更新：カリキュラムコード 区分6 74.中枢神経疾患 15.5ポイント

認定/専門理学療法士更新：学術大会（学会参加） 15.5点

※アーカイブ視聴のみでは、ポイント・点数の取得は出来ません。

※座長・演題登録者も事前参加登録が必要です。

#### 5) ランチョンセミナー、ブレックファーストセミナーについて

各セミナーでは会場における整理券の配布を行わず、チケット申し込みサイト（Peatix）での事前受付を承ります。第20回日本神経理学療法学会ホームページ（<http://jsnpt20.umin.jp/registration.html>）より事前申し込みを行い、当日会場へ受付完了メールのコピーや掲示できる端末（スマートフォン・携帯電話・タブレット）をお持ち込みください。

#### 6) 表彰式、次期大会長挨拶

本大会の学術賞受賞者に対する表彰及び次期大会長挨拶を行います。

##### 【表彰式】

日時 10月16日（日）15時20分～15時30分

会場 第1会場

##### 【次期大会長挨拶】

日時 10月16日（日）16時00分～16時10分

会場 第1会場

#### 7) クローク

場 所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪） 5階 ホワイエ

受付時間：10月15日（土）8：30～学術大会終了まで

10月16日（日）8：15～学術大会終了まで

#### 8) 企業展示

日時：10月15日（土）11：00～18：00

10月16日（日）9：00～16：00

場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪） 10階 会議室 1001-1003

#### 9) 休憩スペース

日時：10月15日（土）9：00～18：00

10月16日（日）9：00～16：00

場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪） 10階 会議室 1001-1003

## 10) Wi-Fi

会場内 Wi-Fi がご使用頂けます。

ID：FREE-OICC

パスワード：grandcube

## 11) 子育て世代で本学術大会のご参加を検討されている皆様へ

本学術大会では、感染状況の見通しを立てることが困難であることから、託児所の設置を断念せざる得ませんでした。しかし、子育て世代の皆様には出来る限り学術大会にご参加していただきたいという大会長の意向から、準備委員で協議を重ねた結果、以下のように取り決めました。

- ・子連れでのご参加を歓迎いたします。（\*監督責任は保護者の方をお願いします。）
- ・各会場の出入り口に近い場所に、子連れの方の優先座席を設ける予定です。
- ・多目的トイレ（ベビーシート付き）は、地下1階、3階、4階、5階（メインホールホワイエ内）、6階（メインホールホワイエ内）、8階（メインホールホワイエ内）、10階、11階、12階にあります。
- ・4階には授乳室があります。ご利用の場合は、授乳室入口脇の内線電話で防災センターまでお知らせください。係員が部屋を開錠いたします。利用時間は8：00～21：00です。（給湯器は設置していません）
- ・ベビーカーの貸し出しサービスをご希望の方は、1階総合案内にて手続きを行ってください。
- ・配偶者やご両親・ベビーシッターなど、お子様のお世話をするための同伴者の参加費は無料とします。同伴者専用のネームホルダーをご準備しますので、受付にてお声掛けください。
- ・小中高生のお子様の参加も無料とします。専用のネームホルダーをご準備しますので、受付にてお声掛けください。是非、療法士の素晴らしい世界を体験してもらってください。
- ・託児所をご希望の方は、隣接施設のリーガロイヤルホテル内の託児所をご自身で契約していただくことも可能です。（[http://www.littlemate.co.jp/baby\\_room.html](http://www.littlemate.co.jp/baby_room.html)）
- ・感染拡大を防ぐために、発熱や咳・鼻水などの感冒症状のあるお子様や同伴者、学級閉鎖を含む濃厚接触者に該当された方のご参加はお控えください。

## 12) その他

- ・会場内では、携帯電話をマナーモードに設定ください。
- ・会長の許可の無い掲示・展示・印刷物の配布・録音・写真撮影・ビデオ撮影はお断りしております。

## 13) オンデマンド配信視聴方法

会期後に、詳しいご案内を学術大会ホームページ（<http://jsnpt20.umin.jp/>）に掲載いたします。

## 一般演題の座長、演者の皆様へ

### ■発表内容・時間

【口述発表】（セレクション、一般演題、英語）

セレクション演題	発表7分、質疑応答5分
一般演題、英語演題	発表7分、質疑応答3分

各口述セッション（セレクション、一般演題、英語）の配分時間は以下の通りとなっています。

口述セレクション1・2	5演題 × 12分（発表7分、質疑応答5分）の60分間
口述1、2、5、7、10、11、12、13、14、15、16、17 英語セッション1	5演題 × 10分（発表7分、質疑応答3分）の50分間
口述3、4、6、8、9、18、19	6演題 × 10分（発表7分、質疑応答3分）の60分間
口述20	3演題 × 10分（発表7分、質疑応答3分）の30分間
口述21	7演題 × 10分（発表7分、質疑応答3分）の70分間
英語セッション2	4演題 × 10分（発表7分、質疑応答3分）の40分間

【ポスター発表】（セレクション、一般演題）

個別の発表時間は設けません。指定のセッション時間にポスター前に立っていただき、座長と聴衆者とフリーディスカッションをお願い致します。セッション時間中は、座長の指示に従ってください。セッション終了時間まで、自身のポスター周辺に待機して下さい。指定のセッション時間以外は、ポスターは終日貼付して頂きます。一般演題については1日目と2日目で貼り替えが行われます。セレクション演題については貼り替えを行わず、2日間貼付して頂きます。

【eポスター】（オンライン）

eポスターでの発表は、パスワード管理されたwebページでポスター提示をしていただきます。ディスカッションはSlackを用いて行います。なお、eポスターでの発表を選択された方も、現地での学会参加が可能です。現地参加が可能となった方は、eポスターを掲示可能なモニターを用意しておりますのでご利用ください。ただし、決まった発表時間はございませんのでご了承ください。なお、eポスターでの発表の場合も、現地発表と同様に、筆頭演者には演題発表に関する点数が付与されます。ただし、学会参加に関するポイント・点数は現地参加された方のみが付与されますのでご了承ください。

質疑応答期間（Slack）：10月7日（金）～14日（金）

### ■座長の皆さまへ

1) 口述演題（セレクション、一般演題、英語）の座長の皆さまへのご案内

【受付からご担当セッション開始までのご案内】

- 各口述セッション（セレクション、一般演題、英語）の配分時間は上記の通りとなっております。ご自身のご担当セッションの配分時間をご確認ください。
- 事前に本大会への参加登録をお願いいたします。当日ご来場の際に、参加受付時に座長である旨をお伝えください。なお、受付場所は、5階にございます。  
※その他、事前参加登録、当日受付の方法、会場レイアウトについては、大会HPでご確認ください。  
※受付時間につきましては、ご担当セッションの30分前までに受付をしてください。  
※2日目の座長の先生は2日目に座長受付を行ってください。
- 不測の事態にて座長の職務が遂行不可能であると判断された場合には、速やかに受付までご連絡ください。

【口述演題におけるご進行案内】

- 演題数の少ない口述20以外のセッションは、座長が2名ずつ選出されております。  
※不測の事態にて座長1名の職務が遂行不可能となった場合には、代理は立てず、1名で座長の職務を務めて頂きますので、よろしくお願ひいたします。
- セッション開始10分前までに「次座長席」にご着席ください。

- ・ご担当いただくセッションの進行につきましては、上記の時間配分をご確認いただき、時間内に終えていただけるようお願いいたします。
- ・発表時間は、計時回線システム（タイマーでランプが点灯）で通知されます。
- ・発表終了時間となりましたら、速やかに質疑応答にお移りいただきますようお願いいたします（セレクションの質疑応答5分、一般演題と英語演題の質疑応答3分）。
- ・発表の内容が抄録と大幅に異なる場合には、その場でご指摘いただくとともに、建設的な指導でセッションを進行していただきますようお願いいたします。

## 2) ポスター演題（セレクション、一般演題）の座長の皆さまへのご案内

### 【受付からご担当セッション開始までのご案内】

- ・全てのポスターセッション（ポスターセレクション1と2、一般演題1～47）のセッション時間は60分間となっております。
- ・事前に本大会への参加登録をお願いいたします。当日ご来場の際に、参加受付時に座長である旨をお伝えください。なお、受付場所は、ご担当セッションの階（10階、12階）にございます。  
※事前参加登録、当日受付の方法、会場レイアウトについては、大会HPをご確認ください。  
※受付時間につきましては、ご担当セッションの30分前までに受付をしてください。  
※2日目の座長の先生は2日目に座長受付を行ってください。
- ・不測の事態にて座長の職務が遂行不可能であるとご判断された場合には、速やかに受付までご連絡ください。

### 【ポスター演題におけるご進行案内】

- ・全てのポスターセッションは、セッション1つにつき、座長が2名ずつ選出されております。  
※不測の事態にて座長1名の職務が遂行不可能となった場合には、代理は立てず、1名で座長の職務を務めて頂きますので、よろしくをお願いいたします。
- ・セッション開始前までにご担当セッションの場にお越しください。
- ・個別の発表時間は設けません。指定のセッション開始時間になりましたら、ご担当のセッションのポスターを周って頂き、演者および聴衆者とのフリーディスカッションをお願いいたします。
- ・運営側によるセッション開始と終了の案内はございません。セッション内での進行に関しましては座長に一任いたします。セッション終了時間までフリーディスカッションを促していただくようお願いいたします。また、セッション終了時間までは、演者にポスター周囲にて待機するように案内していただきますようお願いいたします。加えて、必ず予定時間内に終了いただきますようお願いいたします（60分間）。
- ・発表の内容が抄録と大幅に異なる場合には、その場でご指摘いただくとともに、建設的な指導でセッションを進行していただきますようお願いいたします。
- ・セッション開始までにポスターの貼り付けが行われていない、またはセッションの時間に演者が現れなかった場合は、セッション終了後に大会本部までご連絡下さい。

## ■口述発表（セレクション、一般演題、英語）にてご発表の皆さまへのご案内

### 1) PC 受付

場所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪） 5階 502

- ・参加受付後、PC 受付（5階）にて当日の発表データの確認と共にデータの提出をしていただきます。USB記録媒体にて持参していただきますよう宜しくお願いいたします。確認および提出の締め切り時間は、各セッションによって異なります。下記をご確認ください。



## 【データ提出時間】

10月15日（1日目）にご発表の演題について

口述1、2	8：30～10：10
口述3～6、口述セレクション1、2	9：00～12：10

10月16日（2日目）にご発表の演題について

口述7～10	10月15日（1日目）の12：40～17：00
口述11～14	10月15日（1日目）の12：40～17：00、 10月16日（2日目）の8：40～9：30
口述15～21、英語1、2	10月15日（1日目）の12：40～17：00、 10月16日（2日目）の8：40～10：30

※混雑した場合は先の時間帯のセッションの方を優先させていただく場合があります。

※2日目の方は可能な限り1日目に登録をお願いします。

- ・PC受付では、データ修正や編集を行うことはできませんのでご了承ください。
- ・ご提出するスライドのファイル名は「演題番号：氏名」としてください。  
例)「O-001：氏名」、「E-001：氏名」など  
※なお、USB記録媒体は事前にウイルスチェックを行ってください。
- ・お預かりしたデータは、運営側が発表会場に準備しておりますパソコンのデスクトップに保存します。ご発表時には、ご自身のデータを立ち上げ、その後、進行していただきますようお願いいたします。  
なお、学術大会終了後に保存したデータは削除いたします。
- ・不測の事態に備えて、必ずバックアップデータをご持参ください。
- ・事務局で用意するPCの仕様は下記となります。  
OS：Windows    アプリケーション：PowerPoint 2019
- ・発表データはWindows PowerPointで作成し、USBフラッシュメモリに保存してお持ちください。
- ・作成されたPowerPointのバージョンをお伺いいたしますので、わかるようにしておいてください。
- ・フォントはOS標準で装備されているものを使用してください。
- ・一部Office365のみで使える特殊なアニメーションは使用できません。PC受付にて動作確認をお願いします。
- ・データでのお持ち込みの場合はWindowsで作成したデータに限定します。Macintoshでデータを作成された場合は、ご自身のパソコンをお持ち込みください。
- ・発表データの送り・戻しの操作は演台にてご自身でお願いいたします。

### ※PCお持ち込みの際の注意点

- ・外部ディスプレイ出力が可能であることを必ずご確認ください。
- ・外部ディスプレイ接続のための、変換コネクタをご持参ください。
- ・バッテリー切れを防ぐため、必ず電源アダプターをご持参ください。
- ・スムーズな進行をするために「発表者ツール」の使用はお控えください。
- ・発表原稿が必要な方は、あらかじめプリントアウトをお持ちください。会場でのプリントアウトは対応しておりません。
- ・PC受付のパソコンは台数が限られております。受付パソコンを使用した長時間データ修正はご遠慮ください。学会場ではレイアウト修正のみとし、データ修正等は事前に済ませてから学会場へお越しください。

### 2) 発表時のご案内

- ・セッション開始時より発表会場で待機いただくようお願いいたします。ご自身の発表10分前には「次演者席」にご着席ください。  
※セッション最初の発表者の方はセッション開始前に演台へご登壇ください。
- ・発表時間は超過しないようお願いします。
- ・演者変更がある場合は発表時に自己申告してください。
- ・発表者ツールは使用できませんのでご注意ください。
- ・演台には、手元灯、ポインター、リモートプレゼンセットを準備しています。
- ・発表時間は、計時回線システム（タイマーでランプが点灯）で通知されます。終了の合図（ランプの点灯）がありましたら速やかにご発表を終え、質疑応答に備えてください。

## ■ポスター発表（セレクション、一般演題）にてご発表の皆さまへのご案内

1) 事前に本大会への参加登録をお願いいたします。当日ご来場の際には、5階にて参加受付を行ってください。

※事前参加登録、当日受付の方法、会場レイアウトについては、大会ホームページをご確認ください。

2) 参加受付の後、下記指定の時間内にポスター会場にて、ポスターの貼付をお願いいたします。貼付用の備品はポスター会場に用意しております。また、発表後も、指定の時間内にポスターの撤去をお願いいたします。なお、ポスター貼付および撤去時間につきましては以下の通りです。

### ■ポスター貼付時間

1日目 9：00～12：00

2日目 8：15～9：00

### ■ポスター撤去時間

1日目 17：40～18：30

2日目 15：00～16：10

※なお、指定時間を超えても撤去されない場合は、運営側にて廃棄いたします。

※ポスターセレクションに選出されている演題については、1日目と2日目で貼り替えは行わず2日間貼付した状態で維持して頂きます。

※ポスターセレクション以外の演題については、1日目と2日目で貼り替えを行いますので、貼付日時をお間違えないようお願いいたします。

3) 発表時のご案内

- ・セッション開始時よりご自身のポスター周辺にて待機いただくようお願いいたします。
- ・個別の発表時間は設けません。
- ・セッション開始時間になりましたら、セッション終了時間まで、自身のポスター前で座長と聴衆者とフリーディスカッションをお願いいたします。
- ・セッション時間中は、座長の指示に従ってください。

## ■eポスター発表（オンライン）

学術大会ホームページ (<http://jsnpt20.umin.jp/presenters.html>) に掲載している「eポスター作成手順」を元に、デジタルポスターのデータを作成し、事前にメールでご案内しているアップロードURLに期限までに登録を行ってください。10月7日（金）よりオンデマンド配信とSlackを用いた質疑応答を開始いたします。発表者は、随時Slackを確認し届いた質問にご回答ください。

## ■発表時の利益相反（COI）開示のお願い

利益相反（COI）の有無に関わらず、すべての発表ではその情報開示をお願いいたします。タイトルスライドの次のスライドで「COIの開示」を行ってください。

提示するスライドの見本は学術大会ホームページ「座長・発表者へのご案内」からダウンロードください。  
(<http://jsnpt20.umin.jp/presenters.html>)

# プログラム

## 【第1日目】

10月15日（土）10：20～10：50 大会長講演 第1会場

司会 網本 和（東京都立大学 人間健康科学研究科）

我々はどこから来たのか、どうあるべきなのか

畿央大学大学院 健康科学研究科 森岡 周

10月15日（土）11：00～11：50 特別講演Ⅰ 第1会場

司会 大畑 光司（京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻）

身体内・外環境に対する多感覚統合と運動の新視点：自己の存在について考える

追手門学院大学 特別顧問・京都大学 名誉教授 乾 敏郎

10月15日（土）13：00～13：50 特別講演Ⅱ 第1会場

司会 藤本 修平（静岡社会健康医学大学院大学）

臨床意思決定におけるエビデンス情報の活用スタンダード

京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 中山 健夫

10月15日（土）14：00～15：00 公募シンポジウムⅡ 第1会場

オーガナイザー 関口 雄介（東北大学病院 リハビリテーション部）

脳卒中片麻痺患者の歩行リハビリテーション変革

脳卒中片麻痺患者の歩行リハビリテーション変革

東北大学病院 リハビリテーション部 関口 雄介

社会実装を目的としたリハビリテーション機器開発の考え方

東京大学医学部附属病院 トランスレーショナルリサーチセンター バイオデザイン部門 柿花 隆昭

脳卒中患者のデータ駆動型歩行評価システムの開発と展望

東北大学大学院 工学研究科ロボティクス専攻ロボットシステム講座ニューロロボティクス分野 大脇 大

10月15日（土）15：10～16：10 公募シンポジウムⅣ 第1会場

オーガナイザー 山口 智史（順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科）

神経ネットワークから読み解く運動障害

神経筋ネットワーク解析に基づく評価と介入の創発に向けて

信州大学 医学部 保健学科 野嵜 一平

筋シナジー解析によるパーキンソン病の下肢運動障害の理解

順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 山口 智史

神経ネットワークに基づく脳卒中後の痙縮運動障害の検討

西大和リハビリテーション病院 中村 潤二

オーガナイザー 富田 洋介（高崎健康福祉大学 保健医療学部 理学療法学科）

運動・姿勢制御研究において神経理学療法が果たす役割と今後の進むべき道  
－運動・姿勢制御研究に基づくメカニズム解明と臨床実践－

運動・姿勢制御研究の臨床応用① 立位リーチ動作  
高崎健康福祉大学 保健医療学部 理学療法学科 富田 洋介

運動・姿勢制御研究の臨床応用② 障害物跨ぎ動作  
広島大学 大学院 人間社会科学研究所 進矢 正宏

運動・姿勢制御研究の臨床応用③ 歩行開始動作  
大分大学 福祉健康科学部 萬井 太規

座長 奥埜 博之（摂南総合病院 リハビリテーション科）  
生野 公貴（西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部）

決別と融和：脳卒中理学療法コンソーシアムは可能か

パネリスト 日本ボバース研究会 大槻 暁

認知神経リハビリテーション学会 園田 義顕

BiNI COMPLEX JAPAN 舟波 真一

指定発言 大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 竹林 崇

吉備国際大学 保健医療福祉学部 京極 真

座長 大西 秀明（新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部）  
松田 雅弘（順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科）

非侵襲脳刺激と理学療法展開 —低強度経頭蓋電気刺激を中心に—

非侵襲脳刺激の指針と理学療法関連研究  
東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 金子 文成

低強度経頭蓋電気刺激と理学療法展開 ～過去・現在そして未来へ～  
富山大学附属病院 リハビリテーション部 石黒 幸治



10月15日（土）12：50～13：50 共催シンポジウムⅡ 第2会場  
(日本支援工学理学療法学会・日本物理療法学会 / 研究会共催)

座長 小山 総市朗 (藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科)  
松田 雅弘 (順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科)

病態に基づく新たなテクノロジーによる神経理学療法の新展開

- 病態に基づく理学療法のロボット活用  
藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 小山 総市朗
- 非侵襲脳刺激によるテララーメイド歩行介入  
信州大学 医学部保健学科 理学療法専攻 野嶋 一平
- 末梢神経電気刺激や経皮的脊髄電気刺激による病態に応じたニューロモデュレーション  
順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 高橋 容子
- 半側空間無視の3次元的病態解析を可能とする没入型VR技術の研究開発  
東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・  
早稲田大学 理工学術院総合研究所 研究院 安田 和弘

10月15日（土）14：00～15：00 共催シンポジウムⅢ (日本地域理学療法学会共催) 第2会場

座長 牧迫飛雄馬 (鹿児島大学 医学部 保健学科 理学療法専攻)  
野添 匡史 (甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科)

脳卒中患者の入院と生活期を繋ぐリアルワールドエビデンスの創出に向けて  
- データベース構築に必要なアウトカム評価の課題と展望 -

- 脳卒中患者の入院と生活期を繋ぐリアルワールドエビデンスの必要性  
名古屋学院大学リハビリテーション学部 理学療法学科 石垣 智也
- データベース構築に必要なアウトカム評価の課題と展望 ～神経理学療法の立場から～  
関西医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 脇田 正徳
- データベース構築に必要なアウトカム評価の課題と展望 ～地域理学療法の立場から～  
西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 尾川 達也

10月15日（土）15：10～16：10 公募シンポジウムⅤ 第2会場

オーガナイザー 金居 督之 (甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科)

脳卒中者の活動・参加につなげる身体活動量マネジメント

- 脳卒中者における身体活動量の評価とその課題  
関東学院大学 理工学部健康・スポーツ計測コース 木村 鷹介
- 身体活動に対する脳卒中者のモチベーションをいかにして高めるか？  
信州大学 医学部 保健学科 小宅 一彰
- 脳卒中者の身体活動促進方策のトレンド  
甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科 金居 督之

オーガナイザー 大鶴 直史（新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科）

中枢性疼痛の脳内メカニズムとリハビリテーション

脳卒中後疼痛の発症メカニズムと神経モジュレーションによる除痛機序の解明  
- 動物モデルを用いた研究 -

新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 長坂 和明

脳卒中後疼痛の表現型における病態分析 - 異常感覚と損傷領域の特徴 -

畿央大学大学院 健康科学研究科 井川 祐樹

脳卒中後疼痛における臨床評価の最適化とリハビリテーションの検討

畿央大学大学院 健康科学研究科 大住 倫弘

オーガナイザー 岡田 洋平（畿央大学大学院 健康科学研究科・畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター）  
澤田 誠（国立病院機構鳥取医療センター）

パーキンソン病診療の近未来へのロードマップ

パーキンソン病の理学療法の現状と今後の展望  
～当事者にとってより望ましい理学療法の発展に向けて～

畿央大学大学院 健康科学研究科・畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター 岡田 洋平

パーキンソン病患者の歩行障害研究における課題と可能性

国立病院機構鳥取医療センター 澤田 誠

パーキンソン病患者の Unmet Rehabilitation Needs に対する理学療法介入の現状と今後の展開

北海道脳神経内科病院 リハビリテーション部 成田 雅

司会 山口 智史（順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科）

下肢運動障害に対する電気刺激療法の活用

西大和リハビリテーション病院 生野 公貴

司会 張本 浩平（株式会社 gene）

脳卒中・神経難病の生活期を見据えた急性期・回復期の関わり  
- 生活期からの提言と感謝 -

株式会社 gene 張本 浩平

オーガナイザー 愛知 諒（国立障害者リハビリテーションセンター病院）

脊髄損傷に対する再生医療と理学療法

骨髄間葉系幹細胞を用いた亜急性期脊髄再生医療

－現状と課題と理学療法士が持つべき視点－

札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部 佐々木 雄一

嗅粘膜細胞移植を用いた慢性期脊髄再生医療－評価・介入のアップデート－

国立障害者リハビリテーションセンター病院 愛知 諒

iPS細胞を用いた脊髄再生医療－リハビリテーションプロトコルの必要性－

慶應義塾大学 医学部 整形外科教室 大川原 洋樹

オーガナイザー 松木 明好（四條畷学園大学 リハビリテーション学部）

菊地 豊（脳血管研究所美原記念病院）

脊髄小脳変性症の理学療法を一步進めるために我々が為すべき事は何か

脊髄小脳変性症症例への運動等の介入効果に関するレビュー

四條畷学園大学 リハビリテーション学部 松木 明好

希少疾患における介入研究デザイン（サンプルサイズの壁をいかにして越えるか）

国立精神・神経医療研究センター 板東 杏太

脊髄小脳変性症の運動障害評価における問題点と我々が取り組むべき課題

国立精神・神経医療研究センター 近藤 夕騎

歩行障害 I

歩行を実現する神経メカニズム

畿央大学大学院 健康科学研究科 岡田 洋平

歩行障害に関連する脳領域の画像形態

福島県立医科大学 保健科学部 理学療法学科 阿部 浩明

歩行評価の種類と特徴

伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部 久保 宏紀

歩行障害 II

歩行障害の臨床症状とメカニズム－運動制御編

東北大学病院 リハビリテーション部 関口 雄介

歩行障害の臨床症状とメカニズム－認知制御編

千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科 理学療法専攻 室井 大佑

歩行障害に対する理学療法ガイドライン

金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 リハビリテーション科学領域 理学療法科学講座 久保田 雅史

10月15日（土）9：20～10：00      ブレックファーストセミナー 2（リハテックリンクス株式会社共催）      第4会場

司会      小野 玲（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 身体活動研究部）

高齢者における予防理学療法 - フレイルの理解 -

筑波大学 山田 実

10月15日（土）11：00～11：50      口述1 脳損傷 介入研究      第4会場（10階、会議室1008）

座長      青木 修（四條畷学園大学 リハビリテーション学部）  
倉山 太一（植草学園大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）

O-011      回復期病棟における脳卒中後に運動失調を呈する患者へのリハビリテーション効果の検討  
～SAM-S～  
丸木記念福祉メディカルセンター リハビリテーション科 山崎 雄一郎

O-012      軽症脳梗塞患者に対する座位行動の減少を促すアプローチ後とフォローアップまでの効果：  
ランダム化比較試験  
総合病院 聖隷三方原病院 リハビリテーション部 芦澤 遼太

O-013      Pusher 現象を呈した脳卒中患者に対する KAFO と BWSOT を用いた歩行練習の効果の検証  
～ケースシリーズ研究～  
大川原脳神経外科病院 リハビリテーション部 岩本 美佐

O-014      回復期脳卒中者に対する隙間通過トレーニングは歩行中の障害物回避能力を改善させる  
～ランダム化比較試験～  
千葉県立保健医療大学 健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻・  
東京都立大学 人間健康科学研究科 ヘルスプロモーションサイエンス学域 室井 大佑

O-015      小脳性運動失調症を呈した症例に対する split-belt treadmill 歩行練習の効果：  
ケースシリーズ研究  
社会医療法人近森会 近森リハビリテーション病院 理学療法科 明神 早甫

10月15日（土）12：00～12：40      ランチョンセミナー 2（株式会社テック技販 / 株式会社クレークト共催）      第4会場

各種障害・疾患にみる立位姿勢障害／姿勢制御の多様性  
～計測データから得る情報をいかにしてリハビリテーションに活かすか～

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 河島 則天



座長	尾谷 寛隆（大阪刀根山医療センター リハビリテーション科） 松本 直人（東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科）		
O-021	呼吸不全を呈した筋萎縮性側索硬化症患者に対し Lung insufflation capacity トレーニングを実施した一例	社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 脳卒中脳神経リハ科	鹿川 彰文
O-022	ワクチン接種後に発症した偽性アテトーゼを主とするギランバレー症候群の治療経過：症例報告	一般社団法人 多摩緑成会 緑成会病院 リハビリテーション部	小川 大輝
O-023	危険認知が低下するパーキンソン患者に対する転倒認識の向上を目的とした介入	医療法人溪仁会 札幌西円山病院 理学療法科	松岡 寛樹
O-024	筋萎縮性側索硬化症患者の歩行予後に関連する要因の検討	JA 長野厚生連佐久総合病院 理学療法科・弘前大学大学院 保健学研究科	宮下 貴弘
O-025	パーキンソン病患者に対する起居動作練習 －寝返り相、起き上がり相の動作時間に及ぼす影響－	須崎くろしお病院 リハビリテーション部・高知大学大学院 医学専攻	中山 智晴
O-026	脊髄小脳失調症症例の長期経過観察 －静止立位時の重心制御に着目して－	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 運動機能系障害研究部 神経筋機能障害研究室	武田 賢太

座長	八谷 瑞紀（西九州大学 リハビリテーション学部） 橋立 博幸（杏林大学 保健学部理学療法学科）		
O-033	機能的神経障害例に対する理学療法経験・機能因に対する神経理学療法の意義について	公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 神経難病リハビリテーション課	森 武志
O-034	仮想現実技術を用いた脳再プログラミング療法が進行期パーキンソン病の歩行及び上肢機能の改善に及ぼす効果	株式会社 mediVR mediVR リハビリテーションセンター	仲上 恭子
O-035	痛みにより出現した身体認識能力の低下および半側空間無視を改善させる新しい試み：症例報告	福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部	平川 善之
O-036	両側水平眼球運動制限と輻輳反射消失を併発した急性期橋出血症例への眼球運動療法の経験	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 リハビリテーション科	三谷 祐史
O-037	身体機能の誤認識を呈し跨ぎ動作の安定性低下を認めた脳卒中後症例に対する運動観察療法の試み	横浜なみきリハビリテーション病院 リハビリテーション科	松本 侑也

高次脳機能障害Ⅰ			
	高次脳機能を可能にする神経メカニズム	畿央大学大学院 健康科学研究科	信迫 悟志
	高次脳機能障害に関連する脳領域の画像形態	湘南医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科	大村 優慈
	高次脳機能障害の評価と特徴	千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	酒井 克也

10月15日（土）17：00～18：30	教育講演Ⅳ	第4会場
----------------------	-------	------

高次脳機能障害Ⅱ

- 半側空間無視・注意障害の臨床症状とメカニズム  
 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 神経筋機能障害研究室 高村 優作
- 姿勢定位障害の臨床症状とメカニズム  
 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 辻本 直秀
- 高次脳機能障害と治療ガイドライン  
 埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター／リハビリ訓練室 深田 和浩

10月15日（土）9：20～10：00	ブレックファーストセミナー 3（フィンガルリンク株式会社共催）	第5会場
---------------------	---------------------------------	------

司会 吉尾 雅春（千里リハビリテーション病院）

歩行学習支援ロボット Orthobot<sup>®</sup>（オルソロボット）による遊脚誘導  
 京都大学 大畑 光司

10月15日（土）11：00～11：50	口述2 脳損傷 予後予測	第5会場（10階、会議室1009）
----------------------	--------------	-------------------

座長 武井 圭一（東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 理学療法学科）  
 太田 幸子（国立循環器病研究センター 循環器病リハビリテーション部）

- O-016 急性期脳卒中片麻痺患者における退院時の歩行速度に影響を与える因子の検討  
 順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科 小松 慎弥
- O-017 急性期脳梗塞患者における大脳白質病変が退院時の動作能力に及ぼす影響  
 -多施設共同前向き観察研究-  
 埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター・  
 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 井上 真秀
- O-018 発症1ヶ月時点で歩行非自立の脳卒中片麻痺患者における歩行自立予測モデルの開発  
 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション療法部・  
 信州大学 総合医理工学研究所 福元 裕人
- O-019 脳卒中患者の運動耐容能は再入院に影響を及ぼすか - 軽症例における運動負荷試験の検討 -  
 秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 鈴木 智士
- O-020 加賀脳卒中地域連携パスの急性期最終データに基づく回復期リハ終了時の運動 FIM 合計点  
 と在棟日数の予測  
 金沢市立病院 リハビリテーション室 大坪 尚典

10月15日（土）12：00～12：40	ランチオンセミナー 3（パシフィックサブライ株式会社共催）	第5会場
----------------------	-------------------------------	------

司会 大垣 昌之（社会医療法人愛仁会 愛仁会本部リハビリテーション  
 社会医療法人愛仁会 尼崎だいもつ病院 リハ技術部）

姿勢制御システムと装具療法 -処方装具の重要性について-  
 千里リハビリテーション病院 吉尾 雅春

セントラル KAFO サービスの活用の実際  
 札幌白石記念病院 安部 陽子

座長 諸橋 勇(青森県立保健大学 健康科学部 理学療法学科)  
橋 香織(茨城県立医療大学 保健医療学部理学療法学科)

- O-027 認知的な運動機能拡張の反復による運動機能改善と即時的な運動イメージ想起能力変化との関連  
慶應義塾大学 医学部リハビリテーション医学教室・  
東京都立大学 人間健康科学研究科理学療法科学域・  
神奈川県立保健福祉大学大学院 保健福祉学研究科 岡和田 愛実
- O-028 内部モデルの再学習を目的としたVRによるEMG-BFB  
-プロトタイプによる健常者での筋電図学的検討-  
大阪大学大学院 基礎工学研究科 松居 和寛
- O-029 慢性期脳卒中者における最高酸素摂取量と総ヘモグロビン量の関係  
那智勝浦町立温泉病院 リハビリテーションセンター 荒木 昇平
- O-030 回復期脳卒中患者における骨格筋の量的・質的指標とPhase angleとの関連  
秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部・秋田大学大学院 医学系研究科保健学専攻 丸山 元暉
- O-031 脳卒中患者における重力・身体軸方向知覚の特性-身体傾斜時に着目して-  
追手門学院大学 心理学部心理学科人工知能・認知科学専攻 谷 恵介
- O-032 慣性センサ式運動解析装置による位置座標データの妥当性の検討  
京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻 経塚 愛以

座長 杉本 諭(東京国際大学 医療健康学部理学療法学科)  
塩崎 智之(奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科教室)

- O-038 脳卒中患者における予測的姿勢制御に関連する評価指標の活用性に関する検討  
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 理学療法室 齋藤 祐希
- O-039 橋梗塞症例における発症初期から歩行自立までの立位姿勢制御の経過  
医療法人孟仁会摂南総合病院 リハビリテーション科・  
畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室 赤口 諒
- O-040 脳卒中患者における重心前方移動立位時の下肢筋間コヒーレンス  
信州大学大学院 総合医理工学研究科・  
東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部 山中 英士
- O-041 小脳の損傷部位により異なる回復経過を示したLateropulsion症例  
公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 回復期リハビリテーション課 小泉 直樹
- O-042 急性期脳卒中患者における遅延視覚フィードバックを用いた動的座位練習が座位バランスに及ぼす効果  
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 長谷川 大地
- O-043 橋出血により遷延したLateropulsionを呈し歩行獲得に難渋した症例  
Lateropulsion 遷延要因考察と早期装具療法  
札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 網頭 弘晃

## 協調運動障害・姿勢バランス障害 I

協調運動・姿勢バランスを調整する神経メカニズム

四條畷学園大学 リハビリテーション学部 理学療法専攻 松木 明好

協調運動障害・姿勢バランス障害に関連する脳領域の画像形態

令和健康科学大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 玉利 誠

姿勢バランスの評価の種類と特徴

独立行政法人 地域医療機能推進機構 滋賀病院 リハビリテーション部 植田 耕造

## 協調運動障害・姿勢バランス障害 II

協調運動障害の臨床症状とメカニズム

脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部 神経難病リハビリテーション課 菊地 豊

姿勢バランス障害の臨床症状とメカニズム

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 神経筋機能障害研究室 武田 賢太

姿勢バランス障害に対する理学療法ガイドライン

順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 藤野 雄次

司会 丸山 倫司（帝京大学 福岡医療技術学部 理学療法学科）

歩行の複雑性の再獲得：視覚運動制御の視点から

東京都立大学 樋口 貴広

座長

浅井 仁（金沢大学 医薬保健研究域保健学系リハビリテーション科学領域）

犬飼 康人（新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 理学療法学分野 准教授）

O-001 急性期脳卒中患者において発症早期の Ambulation Independence Measure は早期歩行獲得の可否を予測する

順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科 山崎 皓太

O-002 脳卒中後疼痛における痛みの性質とリハビリテーション予後

JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部 浦上 慎司

O-003 脳卒中患者の不整地歩行の特徴 ―生体力学的パラメータと神経筋制御の変化―

畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室・奈良県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション科 乾 康浩

O-004 急性期くも膜下出血例の早期離床は高齢者や重症例においても歩行獲得の要因となるか：多機関共同、後向き研究

埼玉医科大学総合医療センター リハビリテーション部 鈴木 翔太

O-005 底屈制動付短下肢装具により歩幅非対称性が改善する片麻痺歩行の特徴

―機械学習による特徴量抽出―

関西医科大学 リハビリテーション学部・関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 森 公彦

座長 池田 由美（東京都立大学 健康福祉学部 理学療法学科）  
高見 彰淑（弘前大学大学院 保健学研究科総合リハビリテーション科学領域）

- O-006 Rasch 分析を用いた Trunk Assessment Scale for Spinal Cord Injury (TASS) の構造的妥当性について  
茨城県立医療大学大学院 保健医療科学研究科博士後期課程 佐藤 弘樹
- O-007 Cerebellar cognitive affective syndrome scale 日本語版 (CCAS - J) の信頼性検証  
国立精神・神経医療研究センター病院 身体リハビリテーション部 加藤 太郎
- O-008 脊髄疾患における観察的歩行評価 Spinal Cord Injury Functional Ambulation Inventory の信頼性の検討  
茨城県立医療大学付属病院 リハビリテーション部理学療法科・茨城県立医療大学 保健医療科学研究科保健医療科学専攻 草野 凌
- O-009 外傷性脊髄損傷者の日常生活動作向上に効果的な理学療法の探索的研究  
総合せき損センター 中央リハビリテーション部 古賀 隆一郎
- O-010 視聴覚刺激の空間的一致／不一致が健常者と半側空間無視患者の視線移動に及ぼす影響  
医療法人仁医会あいちリハビリテーション病院 リハケア部 平松 良規

## 運動麻痺Ⅰ

- 運動を発現する神経メカニズム  
新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 理学療法学分野 犬飼 康人
- 運動障害に関連する脳領域の画像形態  
国立精神・神経医療研究センター病院 身体リハビリテーション部 板東 杏太
- 運動機能・筋緊張の評価の種類と特徴  
順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 高橋 容子

## 運動麻痺Ⅱ

- 運動麻痺の臨床症状とメカニズム  
藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 上原 信太郎
- 痙縮の臨床症状とそのメカニズム  
順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 山口 智史
- 運動障害・痙縮に対する理学療法ガイドライン  
西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 中村 潤二



座長	金子 文成（東京都立大学 人間健康科学研究科 理学療法科学域 准教授） 木山 良二（鹿児島大学 医学部保健学科理学療法専攻）
P-001	空間的注意に関連するヒト白質神経線維束ネットワーク 千葉大学 医学研究院 機能形態学 實石 達也
P-002	回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中者における歩行自立範囲と身体活動量の 関連性 富岡地域医療企業団 公立七日市病院 リハビリテーション部・ 群馬大学大学院 保健学研究科 小林 壮太
P-003	亜急性期入院軽症脳卒中患者の退院時の6分間歩行距離による退院6ヶ月後の地域での歩行 能力の予測判別の検証 沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション部門・群馬大学大学院 保健学研究科 五十嵐 達也
P-004	体幹の肢位が半側空間無視の注意の解放障害に与える影響 埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター・ 東京都立大学大学院 人間健康化学研究科 志田 航平

座長	田村 正樹（岡山医療専門職大学 健康科学部理学療法学科） 西村 清陽（公益財団法人河野臨牀医学研究所附属品川リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 リハビリテーション課）
P-010	左 MCA 領域の脳梗塞により右片麻痺と身体パラフレニアを呈した一症例 兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部 植村 美季
P-011	階段昇降動作が困難であった半側空間無視症例に対する段差ステップ練習の効果の検証： 症例報告 横浜なみきリハビリテーション病院 リハビリテーション科 菅沼 拳二
P-012	介入に難渋した右半球症状を随伴する2症例 神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科 森迫 千晶
P-013	「前頭葉症状を呈した CCAS のリハビリテーション介入を経験した1症例」 ～スケジュール表の治療効果の検討～ 丸木記念福祉メディカルセンター リハビリテーション科 上島 在泰
P-014	「部屋の位置がわからない」という現象を呈した急性期脳梗塞の一症例 阪和記念病院 リハビリテーション部 仲川 美月
P-015	奥行き知覚低下およびオブティックフローの問題から階段降段が困難となった一症例 京都岡本記念病院 リハビリテーション科 志方 淳
P-016	注意機能障害に対して Virtual Reality を使用した課題難易度調整が自発性および注意機能 に奏功した1例 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 濱嶋 真弘
P-017	注意の解放が困難であった重度左半側空間無視を呈した症例の食事動作獲得に向けて 愛宕病院 リハビリテーション部 岡本 尚樹

座長	前川 遼太 (医療法人 恒仁会 近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター) 福本 悠樹 (関西医療大学 保健医療学部 理学療法学科)	
P-018	脳卒中片麻痺患者における遊脚期歩行パターン別の身体機能・歩行特性 鶴飼リハビリテーション病院 リハビリテーション部	山田 将成
P-019	internal focus of attention に基づく言語指示が回復期脳卒中者の歩行に及ぼす即時的影響 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部	鈴木 堯之
P-020	麻痺側立脚後期の股関節伸展誘導とウォークエイド®の併用によって歩行速度が改善した 脳出血の1症例 日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科・ 日本医科大学大学院 医学研究科 リハビリテーション学分野	佐々 直紀
P-021	脳卒中片麻痺患者の歩行の運動学的分析 湘南慶育病院 リハビリテーション部	肥田 直人
P-022	脳卒中患者の歩行能力と歩行時の体幹の動態～介助期と自立期の立脚初期に着目して～ 誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部	田邊 紗織
P-023	脳卒中患者の歩行獲得に必要な下肢運動機能の検討 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター	福本 拓見
P-024	多方向からの視覚的 Feed Back を利用したことで Latero Pulsion が改善に至った Wallenberg 症候群の一症例 洛西シミズ病院 回復期リハビリテーション病棟 リハビリテーション科	永井 楓

座長	兒玉 隆之 (京都橘大学 健康科学部理学療法学科) 國枝 洋太 (順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科)	
P-025	脳卒中急性期患者におけるリハビリテーション年間実施量と Activity daily of living (ADL) 改善との関連性 国立病院機構本部 総合研究センター 診療情報分析部・ 東京医科歯科大学 歯学総合研究科 医療情報政策分野	谷 拓朗
P-026	左延髄外側梗塞により Body Lateropulsion を呈した症例 社会医療法人 JMA 海老名総合病院 リハビリテーション科	小川 智貴
P-027	遷延化した Lateropulsion に対し、足底での硬度識別課題と重錘を用いた動作練習が有効 だった症例 秀和総合病院 リハビリテーション科	根津 利也
P-028	上肢優位の運動麻痺を認め歩行障害を呈した脳卒中患者に対して麻痺側肩甲帯に着目した 一症例 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 リハビリテーション科	藤原 裕貴
P-029	脳卒中経鼻胃管栄養実施患者における、24時間頭位挙上30度管理での効果 一肺炎と褥瘡予防へのアプローチ 富山県立中央病院 リハビリテーション科	舟橋 圭佑
P-030	急性期脳卒中症例の座位機能と座圧分布及び体幹筋活動との関係 福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部	井上 大聖
P-031	自覚的視性垂直位の偏位は急性期脳卒中患者の lateropulsion 合併と関連する 国立循環器病研究センター 脳血管リハビリテーション科	鎌田 将星
P-032	過換気が頭位変化時の脳循環反応に与える影響 門真介護医療院 リハビリテーション科・森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部	團野 祐輔

座長	宮原 拓也（上尾中央医療専門学校 教育部理学療法学科） 外館 洗平（函館市医師会看護リハビリテーション学院 教務部）	
P-033	Bihemispheric-tDCS が亜急性期脳卒中患者の上肢機能および皮質脊髄路興奮性に及ぼす影響： 症例研究	宝塚リハビリテーション病院 療法部 芝 貴裕
P-034	回復期右視床梗塞患者に対する脳波 BCI システム iNems の効果検討	京都博愛会病院 リハビリテーション科 村上 貴士
P-035	脳卒中患者への教示内容の違いが立ち上がり動作に及ぼす影響に関する検討 一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター リハビリテーション部・ 弘前大学大学院 保健学研究科 小田桐 侖	
P-036	脳卒中患者における回復期リハビリテーション病棟退院直後の身体活動量の特性と周辺 環境の関係	千里中央病院 リハビリテーション科 吉田 啓志
P-037	脳卒中後上肢麻痺に対し回復期より修正 CI 療法を実施し10ヶ月に渡り回復を辿った一症例	永寿総合病院柳橋分院 リハビリテーション科 廣澤 沙理唯
P-038	自宅退院後に転倒・骨折した脳梗塞患者の理学療法経験について 医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院 リハビリテーション部 山本 舞花	
P-039	回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者における筋力・筋量を踏まえた廃用性萎縮の 検討	社会医療法人 春回会 長崎北病院 総合リハビリテーション部 濱崎 航大
P-040	回復期脳卒中者における入棟後1週間の身体活動量が退院時の自立歩行に及ぼす影響 JCHO 東京新宿メディカルセンター リハビリテーション室 鈴木 佳樹	

座長	高村 浩司（健康科学大学健康科学部 理学療法学科） 星野 高志（医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科）	
P-005	脳卒中者における維持期リハビリテーション実施頻度の費用対効果分析 －増分費用効果比を用いた検証－	株式会社豊通オールライフ ヘルスケア事業部・ 株式会社豊通オールライフ AViC THE PHYSIO STUDIO 荒井 一樹
P-006	脳性麻痺におけるレーヴン色彩マトリックス検査のエラー分析	日本バプテスト病院 リハビリテーション科 浅野 大喜
P-007	異なる計測・解析原理による歩行計測システムの精度相互検証 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所運動機能系障害研究部 志水 宏太郎	
P-008	Duchenne 型筋ジストロフィー患者の電動車椅子レバー操作向上に対する検討	順天堂大学 保健医療学部 小出 菜摘
P-009	日常生活におけるすくみ足の誘発状況に基づいたパーキンソン病患者のステージ分類 佛教大学 保健医療技術学部理学療法学科 石井 光昭	

座長	村山 尊司（千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション療法部） 樋口 大輔（高崎健康福祉大学 保健医療学部理学療法学科）
P-054	慢性期脊髄損傷患者に対する mediVR カグラの効果 株式会社 mediVR リハビリテーション科 北野 雅之
P-055	脊髄梗塞症例の降段動作について認知運動課題で改善した一例 JA とりで総合医療センター リハビリテーション部 遠藤 博
P-056	重症視神経脊髄炎患者の機能回復を多職種とこまめに情報共有して「している ADL」へと繋げた症例 神戸市立医療センター中央市民病院 リハビリテーション技術部 理学療法士 林 美徳
P-057	高位頸髄損傷により四肢麻痺を呈した症例に対しスマート家電を含む環境制御装置を導入した経験 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 機能訓練部 河田 雄輝
P-058	脊髄障害に特異的な ADL 指標 SCIM で評価した慢性期脊髄損傷患者の ADL の変化—FIM との比較— J-Workout 株式会社 リサーチセンター 安田 優樹

座長	中川 義嗣（筑波大学附属病院水戸地域教育センター・水戸協同病院 リハビリテーション部） 西川 裕一（金沢大学 理工研究域フロンティア工学系）
P-059	Creutzfeldt-Jakob 病患者に対し誤嚥リスクに着目した理学療法介入の一例 国際医療福祉大学三田病院 リハビリテーション室 立花 祥吾
P-060	多発血管炎性肉芽腫症による重度の末梢神経障害に対する理学療法の介入について 医療法人社団永生会南多摩病院 リハビリテーション科 田井 啓太
P-061	呼吸筋型 ALS 患者に対して、早期から理学療法を行い目標であった自宅退院と一部の社会復帰に繋がった一症例 総合病院 国保旭中央病院 リハビリテーション科 遠藤 響
P-062	多発性筋炎の合併が疑われた浸潤性胸腺腫合併重症筋無力症クラーゼ症例に対する理学療法介入 兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部 菅野 恭平
P-063	視床下核刺激療法後に生活の質の低下を認めたパーキンソン病の一症例 順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科 関口 朋子
P-064	COVID-19により入院したパーキンソン病患者の特性に関する調査 順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室・順天堂大学 保健医療学部 北原 エリ子
P-065	クラーゼに至った高齢重症筋無力症患者に漸増的レジスタンストレーニングを実施し自宅退院となった症例 一宮市立市民病院 リハビリテーション科 竹田 昇平
P-066	ステロイド治療した EGPA 患者に対し適切な栄養管理と理学療法介入により身体機能を維持・改善できた症例 総合病院 国保旭中央病院 リハビリテーション科 関 優

座長	浦川 将 (広島大学 医系科学研究科運動器機能医科学) 北地 雄 (総合東京病院 リハビリテーション科)
P-067	拡散テンソル画像を用いた皮質脊髄路の評価と歩行自立度との関連における予備的研究 平成記念病院 リハビリテーション課 脇本 謙吾
P-068	身体知覚異常と特異的に関連する痛みの性質分類および疼痛表現 -一般化線形モデル分析を用いて- 京都橋大学 健康科学部理学療法学科・畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター 重藤 隼人
P-069	拡散テンソル画像の解析関心領域法と TSA の再現性の比較 - ICC と Bland - Altman 分析による検証 - 医療法人社団友愛会 岩砂訪問看護ステーション 川尻 将太
P-070	視床病変5症例における中枢性脳卒中後疼痛の特徴の違い -体性感覚機能の特徴と脳画像解析- 畿央大学大学院 健康科学研究科・西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 井川 祐樹
P-071	健常成人における咬合状態と歩行中の左右動揺との関連 巨樹の会 明生リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小林 宏輔
P-072	若年健常男性における頸下浸水温熱を併用した持久力運動が血清 BDNF 濃度に与える影響 星城大学 リハビリテーション学部 大古 拓史
P-073	運動イメージの時間的要素は転倒に影響する 土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科 竹林 秀晃

座長	邑口 英雄 (日高病院 回復期リハビリ室) 阿部 紀之 (千葉大学 予防医学センター)
P-074	脳卒中患者の起立動作時の加速度と脳卒中機能障害評価との関連 一般社団法人巨樹の会赤羽リハビリテーション病院 リハビリテーション科 大熊 健士
P-075	脳卒中患者の起き上がり動作の介助量を軽減する理学療法の時間配分 九州看護福祉大学 看護福祉学部リハビリテーション学科 吉田 勇一
P-076	脳卒中患者の上肢運動機能と使用頻度の傾向; Segment 回帰分析を用いた統計的探索研究 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所 平山 幸一郎
P-077	脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作における手すりの有無が加速度に与える影響 赤羽リハビリテーション病院 リハビリテーション科 吉田 優斗
P-078	回復期脳卒中片麻痺患者の Rate of Force Development と最大筋力の関連性 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 伊藤 翼
P-079	半側空間無視や Pusher 現象を呈した超高齢脳卒中患者に対する起立台を用いた立位練習の 効果 中通リハビリテーション病院 リハビリテーション部 近藤 諒平
P-080	重度注意障害に対する課題難易度・環境設定と併せて歩行練習を実施した脳卒中患者: 症例報告 山形済生病院 リハビリテーション部 関口 航
P-081	脳梗塞後の失語症患者に対し、視覚的フィードバックを用いて座位姿勢が改善した一症例 タムス浦安病院 リハビリテーション科 薄井 慎也



座長 藤本 智久（姫路赤十字病院 リハビリテーション科）  
 畑中 良太（大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科  
 理学療法学専攻）

- P-097 特別支援学校知的障害部門に通学する小学部児童の運動能力と日常生活活動動作能力の関係  
 金沢子ども医療福祉センター リハビリテーション科 遠藤 壮馬
- P-098 延髄領域の神経生理学的知見を基にリハビリテーションモデルを構築し、病的吃逆の寛解  
 に至った症例の報告  
 やまびこ医療福祉センター リハビリテーション部・鹿児島大学院 保健学研究科 矢野 望夢
- P-099 神経発達症児におけるタブレット PC を用いた運筆動作評価  
 - 基線の形状にもとづいた検討 -  
 医療法人社団のびた みくりキッズくりにつく・こどもとかぞくのサポートルーム KNOT・  
 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 菊地 謙
- P-100 放課後等デイサービスに通う神経発達障害児の運動器に関する保健調査  
 リハビリ訪問看護ステーション東大阪 丹野 謙次
- P-101 歩行困難な重症肢体不自由児に対するサドル付き歩行器の使用が歩行に与える影響  
 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 長森 由依

座長 堀本 佳誉（千葉県立保健医療大学 健康学部リハビリテーション学科理学療法学専攻）  
 北野 晃祐（村上華林堂病院 事務部）

- P-102 視神経脊髄炎症例に対する立位、歩行練習の影響  
 - 単一症例における疼痛、身体機能の経次的変化 -  
 大浜第二病院 リハビリテーション科 島袋 啓
- P-103 運動負荷量の設定に難渋した、機能低下に対し焦燥感を抱く筋萎縮性側索硬化症疑いの  
 一症例  
 医療法人溪仁会 札幌西円山病院 リハビリテーション部 小島 めぐみ
- P-104 神経回復過程に合わせた理学療法により基本動作全介助から歩行器歩行を獲得した重症  
 CIDP の一例  
 関西電力病院 リハビリテーション部 渡瀬 涼
- P-105 Bickerstaff 型脳幹脳炎により意識障害及び四肢麻痺を呈した症例に対する回復期理学療法  
 経験  
 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター  
 リハビリテーション療法部成人療法課理学療法科 四柳 翔太
- P-106 ADL における倦怠感に着目し 座位での上肢リーチ動作獲得を目指したステロイドミオパ  
 チー患者の症例報告  
 医療法人寿山会 法人リハビリテーション部 我孫子 美咲
- P-107 大脳基底核変性症と診断された一症例 QOL の向上を目指して  
 イムス佐原リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小林 直貴
- P-108 低活動のパーキンソン病患者への目標設定と自己管理促進に基づいた介入が生活空間の  
 拡大に繋がった一症例  
 敬愛会 新田原聖母病院 通所リハビリテーション 嶺 愛優人

座長	飯田 修平（帝京平成大学 健康メディカル学部理学療法学科） 河田 雄輝（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 機能訓練部）		
P-109	急性期からウエルウォーク WW-1000を用いて歩行練習量の増加を図った重度片麻痺症例の理学療法経験	トヨタ記念病院 リハビリテーション科	本川 剛志
P-110	装具班導入が当院理学療法士に与えた影響～第一報・現状の課題と今後の取り組み～ JA 神奈川県厚生農業組合連合会 伊勢原協同病院 リハビリテーション室		浅場 翔太
P-111	当院における長下肢装具作製に向けた取り組み ～装具回診の振り返り～ にしくまもと病院 セラピスト課		新名 祐介
P-112	測定機能付自力運動訓練装置 mediVR カグラを用いた運動療法により失調歩行が改善した延髄梗塞の一症例	サンテ溝上病院 リハビリテーション科	田中 孝樹
P-113	重度変形性膝関節症および心不全を併存した脳梗塞患者に対し HAL を用いて歩行自立度の改善を得た一症例	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部	鈴木 雄太
P-114	上肢麻痺が重度な片麻痺症例に対する懸垂型上肢装具が立位体重移動能力に与える影響 —症例報告—	埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター	千葉 祐也
P-115	脳卒中患者に対する長下肢装具療法の研究論文の系統的レビュー： エビデンス構築のためになすべき研究は何か	日本医療大学 保健医療学部	小林 英司

座長	大古 拓史（星城大学 リハビリテーション学部） 濱田 裕幸（東京大学 工学系研究科 精密工学専攻）		
P-116	Pusher 現象と座位における側方重心移動に必要な体幹機能との関係性に着目した治療の一事例	イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 リハビリテーション科	海藤 公太郎
P-117	右延髄外側から第一頸髄にかけての広範囲な脊髄梗塞者に課題難易度を調整し歩行再建を図った症例	西宮協立リハビリテーション病院 リハビリテーション部	藤原 佑樹
P-118	重度運動失調および姿勢制御障害を呈した脳幹出血症例に対する運動学習戦略と介入経過	千里リハビリテーション病院 セラピー部	黒田 歩
P-119	回復期片麻痺患者病棟内歩行自立時における Mini-BESTest の有用性の検討	刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科	伊藤 正典
P-120	非麻痺側下腿義足での BAD 症例 不整地での釣り動作獲得に向け非麻痺側の伸展活動に注目した介入	戸田中央リハビリテーション病院 リハビリテーション科	高儀 隼
P-121	歩行非自立の回復期脳卒中者における軽強度身体活動パターンの特性	埼玉医科大学 保健医療学部 理学療法学科	清水 夏生
P-122	脳卒中片麻痺患者の体幹機能評価と歩行中の骨盤の動きについて	令和リハビリテーション病院 リハビリテーション科	戸田 浩平
P-123	Lateropulsion を呈した延髄外側梗塞患者に対する足底部触圧覚刺激の有効性	市立吹田市民病院 リハビリテーション科	松本 浩希

座長	師岡 祐輔（埼玉医科大学 保健医療学部） 有地 祐人（総合せき損センター 中央リハビリテーション部）		
P-137	感染性脊椎炎による麻痺が歩行能力、ADL に与える影響	金沢大学附属病院 リハビリテーション部・金沢大学 整形外科	黒川 由貴
P-138	術後急性期からの自転車エルゴメーター運動と免荷式歩行器歩行により歩行機能改善を認めた胸髄症の1例	千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション部	高瀬 慶太
P-139	COVID-19感染後に原因不明の脊髄炎を発症しウイルス感染との関連が疑われた症例	奈良県総合医療センター リハビリテーション部	佐藤 剛介
P-140	脊髄損傷者に対する体幹機能評価尺度（Trunk Assessment Scale for Spinal Cord Injury：TASS）の信頼性の検討	神奈川県リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科	山本 敬
P-141	頸髄症の痙性歩行には痙性運動障害が関連している	千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション部	但木 亮介
P-142	特殊な感覚性運動失調を認めた頸髄髄内腫瘍と胸髄硬膜外脊髄腫瘍の2手術例	千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション部・千葉大学大学院医学研究院 整形外科学	深田 亮
P-143	二重標識水法を用いたリハビリテーション病院入院中の脊髄障がい者の消費エネルギー量	茨城県立医療大学付属病院 リハビリテーション部 理学療法科	古関 一則

座長	岩部 達也（学校法人東日本学園 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 理学療法学科） 菊地 和人（学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院 理学療法学科）		
P-144	重症ギラン・バレー症候群の運動機能と歩行能力の長期経過	国立病院機構東名古屋病院 リハビリテーション科	松田 直美
P-145	歩行予後不良であった重症ギランバレー症候群患者のリハビリテーション経過	岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所	桂 祐一
P-146	部分免荷トレッドミル歩行がパーキンソン病患者の歩行の非対称性に与える影響	医療法人名圭会介護老人保健施設ケアタウンゆゆう リハビリテーション部	早乙女 雄紀
P-147	パーキンソン病患者に対する closed-loop 脳刺激介入の即時的効果	信州大学 医学部保健学科	野寫 一平
P-148	長期介入が予測されたギラン・バレー症候群に対し、身体的、精神的サポートに着眼し介入した理学療法経過	順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科	斉藤 哲平
P-149	パーキンソン病患者に対する経頭蓋直流電気刺激療法の効果をニューロメラニンから検証する試み	富山大学附属病院 リハビリテーション部	石黒 幸治
P-150	パーキンソン病の運動症状に対する外来理学療法の効果と影響因子	西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部	寺澤 雄太
P-151	めまい平衡障害患者における異なる感覚情報下の立位姿勢制御能力に関連する要因の検討	長野保健医療大学 保健科学部・目白大学耳科学研究所クリニック 耳鼻咽喉科	荻原 啓文

座長	山内 康太（製鉄記念八幡病院 リハビリテーション部） 河尻 博幸（愛知医科大学病院 リハビリテーション部）	
P-152	アパシーを有し Stroke Care Unit 退室後顕著に機能改善が停滞した症例 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部 佐々木 翔太	
P-153	環境や介入課題の工夫により介助量が軽減した、半側空間無視と注意障害を認めた左片麻痺 症例 堺市立総合医療センター リハビリテーション技術科 堀 常太郎	
P-154	後下小脳動脈領域梗塞により著明かつ回復が遅延した Lateropulsion を呈した症例 那覇市立病院 医療技術部リハビリテーション室 高良 光	
P-155	急性期延髄外側梗塞に伴い lateropulsion を呈した症例 - 体性感覚情報による姿勢定位 再学習の試み - 岡山市立市民病院 リハビリテーションセンター 家村 太	
P-156	脳幹梗塞により Body Lateropulsion を呈した症例における立位足圧中心の位置および 側方移動速度の特徴 福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部・ 新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究課 渡邊 拓	

座長	森井 裕太（関西医科大学くずは病院 リハビリテーション科） 瑞慶覧 誠（馬場記念病院 リハビリテーション部）	
P-157	脳梗塞後の患者に対する課題指向型練習と電気刺激を併用した介入の効果 ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 大城 拓真	
P-158	足部の体性感覚に着目した介入により著明な内反尖足と歩行能力が改善した一症例 医療法人孟仁会摂南総合病院 リハビリテーション科 浦野 寛太	
P-159	痙縮リスクの高い亜急性期脳卒中患者に対するボツリヌス療法の効果：症例報告 済生会山形済生病院 リハビリテーション部 渡邊 慎吾	
P-160	脳卒中片麻痺患者に対する機能的電気刺激とトレッドミル歩行練習の併用の試み： 単一症例報告 近森リハビリテーション病院 理学療法科 照井 あゆみ	
P-161	視床出血患者に装具療法で段階的カットダウンし歩行再建出来た一症例 ～システム論的アプローチの視点～ 勤医協中央病院 リハビリテーション部 浅野 雄斗	
P-162	脳卒中重度運動麻痺患者に対する、目標達成に向けた他職種との協力 戸田中央リハビリテーション病院 リハビリテーション科 高 英玉	
P-163	脳卒中後片麻痺患者の下肢機能と歩行能力に乖離を認めた1症例 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所 森田 将行	
P-164	脳卒中片麻痺患者が総腓骨神経麻痺となり IVES+ で歩行訓練が有用であった一症例 タムス浦安病院 リハビリテーション科 滝川 樹野	

座長 鈴木 栄三郎 (公立大学法人 山形県立保健医療大学 保健医療学部 理学療法学科)  
原田 和宏 (吉備国際大学 大学院保健科学研究科)

- P-041 脳卒中急性期における上肢運動麻痺に対する経頭蓋直流電気刺激と末梢神経電気刺激併用の効果  
金沢大学 医薬保健研究域保健学系・福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部 久保田 雅史
- P-042 ハムストリングスに痙縮を伴った脳卒中一症例に対する経皮的電気刺激の効果  
-操作交代デザインによる検討-  
友誼会総合病院 リハビリテーション科 野網 一貴
- P-043 運動誘発電位の有無が回復期脳卒中片麻痺患者における高頻度反復性経頭蓋磁気刺激の治療成績に及ぼす影響  
苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション科 新井 萌
- P-044 脳卒中後重度表在覚鈍麻を呈した症例に対する TENS 併用歩行練習の効果  
-立位バランスに着目-  
村田病院 リハビリテーション 山岡 竜也
- P-045 機能的電気刺激を併用した歩行練習が脳卒中患者の歩容と歩行能力に及ぼす影響  
-ABA デザインによる検討-  
名古屋市総合リハビリテーションセンター 理学療法科 伊藤 寛之

座長 駒形 純也 (健康科学大学 健康科学部理学療法学科)  
伊藤 克浩 (山梨リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

- P-046 terson 症候群により視覚フィードバックを用いることができなかった Lateropulsion 症例  
県立広島病院 リハビリテーション科 内堀 靖忠
- P-047 右延髄硬塞により Lateropulsion を呈した症例 Gaze Stability Exercises (GSE) の効果の検証  
復康会 沼津リハビリテーション病院 リハビリテーション課 山内 信吾
- P-048 Perturbation-based Balance Training により反応的姿勢制御に改善がみられた亜急性期脳卒中患者一症例  
JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部 福本 匠吾
- P-049 頭頸部の身体知覚変容を呈しためまい平衡機能低下症例に対する身体知覚課題の効果  
公益財団法人健和会 大手町リハビリテーション病院 リハビリテーション部 長野 弘枝
- P-050 Body lateropulsion に対する体性感覚情報に重みづけをした姿勢制御練習の影響  
-シングルケースデザイン-  
西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 西前 拓馬
- P-051 既往に悪性リンパ腫治療後の感覚障害を有する脳卒中患者に対して Wii を使用した運動療法を実施した1症例  
岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター 木村 龍葵
- P-052 視床出血後に感覚性運動失調を呈した症例の姿勢制御に対する介入経験  
-固有感覚の識別練習を用いて-  
医療法人 孟仁会 摂南総合病院 リハビリテーション科 下手 大生
- P-053 直流前庭電気刺激が Wallenberg 症候群を呈した脳卒中患者の立位および歩行に及ぼす即時的影響：症例研究  
宝塚リハビリテーション病院 療法部 親川 なつみ



座長	森 憲一（おもて整形外科骨粗鬆症クリニック リハビリテーション部） 木下 篤（社会医療法人さくら会さくら会病院 リハビリテーション科）		
P-082	脳卒中後遺症者の心理的な障害適応に関する回顧的インタビューからの考察 医療法人孟仁会 摂南総合病院 リハビリテーション科	池田 勇太	
P-083	地域在住の脳卒中後遺症者における身体活動量と歩行機能および心身機能の関連 札幌医科大学 保健医療学部理学療法学科	田代 英之	
P-084	慢性期脳卒中患者に対する mCI 療法の動作時筋緊張と副次的効果に関するシングルケース デザイン 三加茂田中病院 リハビリテーションサービス課	近藤 葉平	
P-085	脳卒中患者における退院後1年間の身体活動蓄積の変化について 常葉大学 静岡理学療法学科	中野 渉	
P-086	くも膜下出血、右側頭葉皮質下出血後に歩行失調を呈した一症例 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部	松村 彩子	
P-087	生活期脳卒中片麻痺症例に対するノルディック・ウォークの導入 －実用的な屋外歩行獲得へ－ 札幌白石記念病院 リハビリテーション技術室	安部 陽子	
P-088	介助者と歩行量に着目し短下肢装具の足継手調整を行った生活期の一症例 ケアヴィラ宝塚 療法部	森井 麻貴	
P-089	生活期脳卒中患者の主観的健康感に影響を与える要因 金沢赤十字病院 リハビリテーション科	内山 圭太	

座長	中川 慧（広島大学 医系科学研究科） 宮田 一弘（茨城県立医療大学 保健医療学部理学療法学科）		
P-090	脳卒中後疼痛患者の痛みと温度感覚障害に対するサーマルグリル錯覚を用いた検証 畿央大学大学院 健康科学研究科・医療法人孟仁会摂南総合病院 リハビリテーション科	松田 総一郎	
P-091	重度体性感覚障害を呈した左視床出血例に対する2種類の深部感覚評価の経験 虎の門病院 リハビリテーション部	加藤 将暉	
P-092	脳血管障害患者における新たな上肢到達動作の評価方法の構築及び聴覚フィードバックを 用いた介入方法の検討 茨城県立医療大学 理学療法学科	山本 哲	
P-093	中枢性めまい症例に対する眼振評価の試み－視線分析を用いた前庭リハビリの効果判定－ 川口脳神経外科リハビリクリニック リハビリテーション科	平田 康介	
P-094	巧緻運動における対側上肢の拘束が半球間抑制に与える影響 東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部	南 航大	
P-095	加速度センサを用いた上肢機能の運動学的・時間的変動性の評価方法の検討 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部	岩切 満梨乃	
P-096	脳卒中片麻痺患者の運動イメージと運動実行との誤差は認知機能と運動機能に関与する 千葉県立保健医療大学 健康科学部	酒井 克也	

座長	荻原 啓文 (長野保健医療大学 保健科学部リハビリテーション学科理学療法専攻) 村上 忠洋 (城見整形外科クリニック しろみ通所リハビリテーション)	
P-124	身体図式の構築により、歩行能力の向上に至った症例	学研都市病院 リハビリテーション科 東野 一成
P-125	回復期片麻痺患者の病棟内杖歩行自立の決定木による判定基準 ~外的妥当性の検証~	刈谷豊田総合病院 リハビリテーション科 星野 高志
P-126	脳卒中患者の長下肢装具を用いた歩行トレーニングが皮質および皮質下からの下降性出力に及ぼす影響	宝塚リハビリテーション病院 療法部 蓮井 成仁
P-127	脳卒中片麻痺患者に GS Knee を使用し歩行機能の改善を図った症例	戸田中央リハビリテーション病院 リハビリテーション科 濱中 拓哉
P-128	歩行練習と併用した一次運動野および小脳への経頭蓋直流電気刺激が重症脳卒中患者の下肢筋活動に及ぼす影響	宝塚リハビリテーション病院 療法部 堀 めぐみ
P-129	重度下肢運動麻痺を呈した前大脳動脈領域梗塞症例の歩行自立に至るまでの詳細な歩行分析の経過: 症例報告	西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部・畿央大学大学院 健康科学研究科 内沢 秀和
P-130	遊脚期に麻痺側股関節屈筋代償を呈した症例における T-Support <sup>®</sup> を使用した股関節機能への効果検証	宝塚リハビリテーション病院 療法部 合田 陸斗

座長	佐藤 惇史 (医療創生大学 健康医療科学部) 大坪 尚典 (金沢市立病院 リハビリテーション室)	
P-131	Branch atheromatous disease と上肢機能予後に関連する要因の検討	医療法人錦秀会 阪和記念病院 リハビリテーション部 徳田 和宏
P-132	急性期 Branch atheromatous disease 患者の歩行予後予測因子について	横浜総合病院 リハビリテーション科 真下 健人
P-133	rt-PA 静注療法および脳血内治療後の急性期脳梗塞患者に対する自宅退院に関連する因子の検討	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 リハビリテーション部 原山 永世
P-134	脳卒中患者における皮質脊髄路と運動機能の関係 ~発症から1週間以内の DTI と急性期病棟退棟時の SIAS の関係~	大垣徳洲会病院 リハビリテーション科 加藤 竜馬
P-135	回復期脳卒中患者における歩行自立度の予後予測 ~ Trunk Impairment Scale を用いたカットオフ値の検討~	季美の森リハビリテーション病院 リハビリテーション療法科・ 順天堂大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学 石渡 正浩
P-136	脳卒中患者の歩行自立度予後予測モデル (EPOS model) の外的妥当性の検証 - 過去起点コホート研究	JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部 福本 匠吾

座長	北谷 亮輔 (新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部理学療法学科) 大田 瑞穂 (誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部)	
P-165	脳卒中片麻痺患者に対し、免荷式歩行リフトを使用した歩行練習により歩行能力が向上した症例	金沢赤十字病院 リハビリテーション科 高橋 一輝
P-166	麻痺側上肢スイングを誘導した歩行練習により歩行速度および上肢スイング幅の改善を認めた脳卒中例	千里リハビリテーション病院 セラピー部 上野 奨太
P-167	左視床、被殻の混合型出血により治療が難渋した症例	千里リハビリテーション病院 セラピー部 武部 優希
P-168	脳卒中片麻痺患者における腓腹筋の筋機能と Push Off 時の下肢筋活動の関連	令和リハビリテーション病院 リハビリテーション科 安藤 明日加
P-169	仮想現実 (VR) 技術による脳再プログラミング療法が慢性期脳出血患者に与える効果について	株式会社 mediVR リハビリテーション科 鳥飼 悠基
P-170	Stiff knee gait の発生機序は膝関節伸展筋の活動性によって異なる	福井医療大学 保健医療学研究科 藤田 和樹
P-171	歩行可能な痙直型片麻痺脳性麻痺児の SDR 前後における表在・深部感覚と粗大運動能力との関連	沖縄中部療育医療センター リハビリテーション課 又吉 喬野

座長	平田 恵介 (東京家政大学 健康科学部リハビリテーション学科理学療法専攻) 有末 伊織 (関西福祉科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻)	
P-172	歩行学習支援ロボット Orthobot <sup>®</sup> が脳卒中患者の麻痺側遊脚期における下肢関節運動と筋活動に及ぼす影響	医療法人尚和会 宝塚リハビリテーション病院 療法部 福田 映美
P-173	歩行補助ロボットの段階的な選定・調整により歩容の改善を認めた脳卒中片麻痺患者の経験	東海記念病院 リハビリテーション部 吉原 稜
P-174	歩行学習支援ロボット Orthobot <sup>®</sup> の使用が脳卒中片麻痺者の立脚期の膝関節過伸展に及ぼす影響	宝塚リハビリテーション病院 療法部 岡本 涼太郎
P-175	ウェルウォーク (WW-2000) は従来の理学療法介入よりも片麻痺患者の歩行能力を改善させるか?	花川病院 リハビリテーション部 丹波 祐哉
P-176	ウェルウォークの歩行利得が低値で留まった症例の特徴～開始属性と荷重分布について～	西宮協立リハビリテーション病院 リハビリテーション部 遠原 聖矢
P-177	脳卒中一症例に対する足関節ロボットを併用したトレッドミル歩行練習が歩行速度と歩行耐久性に与える影響	学研都市病院 学研都市病院 リハビリテーション科・ ATR 脳情報通信総合研究所 ブレインロボットインターフェース研究所 新明 俊英
P-178	地域在住脳損傷後患者における歩行の対称性に短下肢装具が与える影響	京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻 宮田 裕輔
P-179	失調症患者の歩行障害への Honda Walking Assist 導入における即時効果	大分リハビリテーション病院 リハビリテーション部 川井 康平

【第2日目】

10月16日（日）9：00～9：50 特別講演Ⅲ 第1会場

司会 内山 靖（名古屋大学大学院 医学系研究科）

脳・脊髄損傷後の機能回復過程における超適応

京都大学大学院 医学研究科 高次脳科学講座 伊佐 正

10月16日（日）10：00～12：00 共催シンポジウムⅣ（新学術科研費「超適応」共催） 第1会場

座長 安 琪（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻）

オーガナイザー 内藤 栄一（未来 ICT 研究所 脳情報通信融合研究センター 脳情報通信融合研究室）

筋シナジーと歩行

筋シナジー及びその制御の神経機構

国立精神・神経医療研究センター神経研究所 モデル動物開発研究部 関 和彦

脳卒中回復評価動作の筋シナジー解析

電気通信大学大学院 機械知能システム学専攻 船戸 徹郎

歩行時の姿勢維持反応はどのように生成されるのか？

旭川医科大学医学部 生理学講座 神経機能分野 高草木 薫

計算機モデルにおける歩行の筋シナジー

旭川医科大学医学部 生理学講座 神経機能分野 千葉 龍介

脳卒中者の歩行障害と筋シナジー

日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科 水田 直道

指定発言 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 大畑 光司

10月16日（日）13：00～14：00 公募シンポジウムⅩ 第1会場

オーガナイザー 野添 匡史（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科）

脳卒中中の急性期で本当にやるべき理学療法って何？

急性期脳卒中後の上肢麻痺に対する取り組みとその検討

阪和記念病院 リハビリテーション部 徳田 和宏

急性期脳卒中後の Pusher 現象に対する治療とその考え方

順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 藤野 雄次

急性期脳卒中におけるサルコペニア・フレイル・低栄養のとらえ方

甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科 野添 匡史

座長 河島 則天（国立障害者リハビリテーションセンター研究所 神経筋機能障害研究室）  
生野 公貴（西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部）

我々は何者か？「Neurological PT」とは

行動データの分析に基づく神経症状の要因・病態構造の把握 -半側空間無視を事例として-  
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 神経筋機能障害研究室 高村 優作

従来の評価手法・データ分析プロセス再考による障害の特徴づけ  
-重心動揺計測を事例として-  
西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 藤井慎太郎

データベースからの情報抽出と臨床現場への還元・応用プロセス  
-歩行動作解析を事例として-  
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 神経筋機能障害研究室 河島 則天

座長 森岡 周（大会長・畿央大学大学院 健康科学研究科）

我々はどこに向かうのか

甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科 野添 匡史

順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 山口 智史

埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター／リハビリ訓練室 深田 和浩

四條畷学園大学 リハビリテーション学部 理学療法専攻 松木 明好

座長 中山 恭秀（東京慈恵会医科大学 リハビリテーション医学講座）  
伊藤 和寛（鈴鹿医療科学大学 リハビリテーション学科理学療法専攻）

O-044 片麻痺歩行特有の麻痺肢制動力の改善に有用な歩行特徴  
関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 藤原 花恋

O-045 立脚期後半に制動力が生じる片麻痺歩行の特徴  
関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 篠原 司

O-046 回復期脳卒中患者の実生活環境における歩行の冗長性の特徴  
畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター 西 祐樹

O-047 脳卒中患者の歩行における筋シナジー併合の下降性神経メカニズム  
日本福祉大学 健康科学部・畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター 水田 直道

O-048 歩行中に反張膝を呈する回復期脳卒中患者の歩行時筋活動の検討  
東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部 村越 夏未



座長 信迫 悟志（畿央大学大学院 健康科学研究科）  
江草 典政（島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部）

## 身体性変容から生きにくさを探る

脳卒中上肢麻痺患者の生きにくさに対する看護ケア  
聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ニューロサイエンス看護学 大久保暢子

回復期にある脳卒中患者の生きにくさの様相とケア  
千葉大学大学院 看護学研究院 酒井 郁子

身体性の変容は社会における営みを変容させる  
日本高次脳機能障害友の会 片岡 保憲

“私が運動を制御している”と感じられることの意義とは？  
国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人間拡張研究センター  
共創場デザイン研究チーム 宮脇 裕

無いはずの手に経験する痛みへ接近する  
畿央大学大学院 健康科学研究科 大住 倫弘

身体性とナラティブから考える「生きにくさ」  
東海大学 文化社会学部・文明研究所 田中 彰吾

座長 近藤 敏之（東京農工大学 工学研究院 先端情報科学部門）  
オーガナイザー 内藤 栄一（未来ICT研究所 脳情報通信融合研究センター 脳情報通信融合研究室）

## 運動学習と機能回復

運動学習と運動主体感  
東京大学大学院 人文社会系研究科 今水 寛

身体構造の認識に基づく運動学習は運動指令のばらつきによって促進する  
筑波大学 システム情報系 井澤 淳

意欲とパフォーマンス  
東北大学大学院 生命科学研究科 筒井 健一郎

上肢到達運動から見る脳卒中後の運動機能回復  
藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 上原 信太郎

指定発言 令和健康科学大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 玉利 誠

オーガナイザー 深田 和浩（埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター）  
渡辺 学（北里大学メディカルセンター リハビリテーションセンター）

## 半側空間無視に対するアプローチ—その理論と臨床—

半側空間無視の症候と回復過程の統合的理解に向けて  
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 高村 優作

半側空間無視の治療における現状と課題  
国家公務員共済組合連合会三宿病院 リハビリテーション科 本村 和也

半側空間無視に対する治療の臨床展開  
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 深田 和浩

10月16日（日）10：10～11：00 口述11 前庭迷路系 第3会場（10階、会議室1004-1007）

座長	白田 滋（群馬大学 大学院保健学研究科） 畑迫 茂樹（中部リハビリテーション専門学校）
O-066	片側末梢前庭障害症例の前庭脊髄路興奮性と平衡障害の関係性についての予備的検討 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 塩崎 智之
O-067	Noisy Galvanic Vestibular Stimulation が身体制御反応に及ぼす影響：探索的研究 福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科 光武 翼
O-068	急性期前庭障害に対する前庭リハビリテーションの効果 ～システムティックレビュー・メタアナリシス～ 群馬パース大学 リハビリテーション学部・ 目白大学耳科学研究所クリニック 耳鼻咽喉科 加茂 智彦
O-069	小脳への低頻度反復経頭蓋磁気刺激が直立姿勢動揺と視覚誘導性姿勢制御学習に及ぼす影響 四條畷学園大学 リハビリテーション学部 松木 明好
O-070	トレッドミル歩行の Sensory Conflict による身体動揺に対する体性感覚および前庭覚の影響 令和健康科学大学 リハビリテーション学部理学療法学科 岡 真一郎

10月16日（日）11：10～12：00 口述15 脳損傷 上肢機能 第3会場（10階、会議室1004-1007）

座長	椰野 浩司（関西福祉科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻） 田中 秀明（社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 リハビリテーションセンター 理学療法課）
O-086	神経筋電気刺激を併用した手指用ロボット療法により課題指向型アプローチよりも手指 運動機能が改善した一例 社会医療法人北斗 北斗病院 リハビリテーション部 理学療法科 高橋 良輔
O-087	慢性期脳卒中後疼痛患者における痛みの特徴と上肢機能との関連性 川口脳神経外科リハビリクリニック リハビリテーション科 壹岐 伸弥
O-088	急性期脳卒中患者の麻痺側上肢の亜脱臼と筋厚の変化 小田原市立病院 リハビリテーション室・新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 齋藤 寛代
O-089	急性脳梗塞患者に対する機械的血栓回収療法後の上下肢機能における追跡調査 阪和記念病院 リハビリテーション部 吉田 修樹
O-090	回復期脳卒中患者の重度片麻痺上肢に対する高頻度反復的経頭蓋磁気刺激が上肢運動麻痺 に与える経時的変化 苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 中村 恒太

10月16日（日）12：10～12：50 ランチョンセミナー 5（株式会社 gene 共催） 第3会場

司会	張本 浩平（株式会社 gene）
	神経理学療法に活かす疼痛の知識 神戸学院大学 松原 貴子

- 座長 長谷川 隆史（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻）  
山本 直樹（兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部）
- 
- O-101 慢性期脊髄損傷者に対する骨髄間葉系幹細胞投与とリハビリテーションによる損傷髄節尾側への機能拡張  
国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室・国立障害者リハビリテーションセンター研究所 運動機能系障害研究部 愛知 諒
- O-102 脊髄損傷後の日常生活動作における経時変化とその特異性  
総合せき損センター 中央リハビリテーション部 有地 祐人
- O-103 受傷後早期の不全頸髄損傷者に対する神経筋電気刺激の効果  
埼玉医科大学 保健医療学部理学療法学科 師岡 祐輔
- O-104 母趾位置覚検査は胸椎疾患手術例の歩行機能回復を予測できる：前向きコホート研究  
千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション部 桑田 麻由子
- O-105 ティルトアップ時にめまい、気分不良、呼吸困難の自覚症状を訴えた外傷性頸髄不全損傷者の一症例  
JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部 坂井 玄弥
- O-106 慢性期不全対麻痺者に単関節 HAL<sup>®</sup> を用い即時的に歩行能力が向上した一例  
- 膝伸筋群の痙縮抑制を目的に -  
神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション部理学療法科・神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション工学研究室 古屋 美紀

- 座長 中西 智也（東京大学大学院総合文化研究科 大学院総合文化研究科）  
米田 浩久（関西医療大学 保健医療学部 臨床理学療法学教室）
- 
- O-049 脳卒中片麻痺患者の歩行速度に影響する運動力学的因子の損傷側間の違い  
東北大学病院 リハビリテーション部・東北大学大学院 医学系研究科 関口 雄介
- O-050 脳卒中片麻痺者の麻痺側歩幅と運動学的特徴  
社会福祉法人 農協共済中伊豆リハビリテーションセンター リハビリテーション部 理学療法科 鈴木 森大
- O-051 脳卒中片麻痺者における Late Breaking Force を決定する運動学的要因とパターンの検討  
令和健康科学大学 リハビリテーション学部・東洋大学大学院 ライフデザイン学研究所人間環境デザイン専攻 大田 瑞穂
- O-052 離殿を繰り返して起立達成する脳卒中片麻痺者の骨盤・胸郭の前額面・水平面の運動学的特性  
昭和大学 保健医療学部 理学療法学科・昭和大学 藤が丘リハビリテーション病院 本島 直之
- O-053 経頭蓋直流電気刺激が脳卒中患者の歩行制御に及ぼす影響；  
遊脚期の下肢関節角度と筋活動パターンに着目して  
宝塚リハビリテーション病院 療法部 大西 空
- O-054 回復期初発脳卒中片麻痺者におけるトレッドミル歩行の歩容の経時的变化  
藤田医科大学 七栗記念病院 リハビリテーション部 堅田 理紗子

10月16日(日) 10:10~11:00 口述12 神経筋疾患2 第4会場(10階、会議室1008)

座長	山本 幸夫(大阪刀根山医療センター リハビリテーション科) 上出 直人(北里大学 医療衛生学部)	
O-071	脊髄小脳失調症における Balance Evaluation Systems Test 各セクションの Keyform 開発 国立精神・神経医療研究センター病院 身体リハビリテーション部	近藤 夕騎
O-072	脊髄小脳変性症における歩行不安定性の検証 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 神経難病リハビリテーション課・ 畿央大学大学院 健康科学研究科	奥田 悠太
O-073	筋エコー評価は、炎症性筋疾患患者に対する運動負荷量のよりよい指標になる可能性がある 静岡県立総合病院 リハビリテーション科	澤井 翔太
O-074	脊髄小脳変性症患者における立位姿勢制御特性の検討 北海道脳神経内科病院 リハビリテーション部	坂野 康介
O-075	クラスター分析を用いた脊髄小脳変性症患者の集中リハビリテーション効果特性の分類: 後方視的研究 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 身体リハビリテーション部	板東 杏太

10月16日(日) 11:10~12:00 口述16 神経筋疾患3 第4会場(10階、会議室1008)

座長	菊本 東陽(埼玉県立大学 保健医療福祉学部理学療法学科) 木内 隆裕(森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科)	
O-091	パーキンソン病患者における筋力の左右差と転倒の関連性 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 リハビリテーション科	浦 慎太郎
O-092	歩行車が在宅パーキンソン病者の歩行パラメーターに与える影響 佛教大学 保健医療技術学部 理学療法学科	奥山 紘平
O-093	脳深部刺激療法後パーキンソン病患者の転倒と運動症状の関連性 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 リハビリテーション部	坂井 登志高
O-094	パーキンソン病患者の起居動作能力低下の関連要因の解明 北海道脳神経内科病院 リハビリテーション部・畿央大学大学院 健康科学研究科	成田 雅
O-095	5つの運動機能領域からみた側屈姿勢を呈するパーキンソン病患者の歩行特性 —主観的視性垂直との関連 医療法人北祐会 北海道脳神経内科病院 リハビリテーション部	太田 経介

10月16日(日) 12:10~12:50 ランチョンセミナー 6 第4会場  
(株式会社ホームイオン研究所 / アルケア株式会社共催)

司会	久保田 雅史(金沢大学医薬保健研究域保健学系)	
	拘縮のメカニズムと治療戦略	長崎大学 沖田 実

- 座長 潮見 泰蔵(帝京科学大学 医療科学部東京理学療法学科)  
権藤 要(独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院 リハビリテーション室)
- 
- O-107 回復期脳卒中者における入院中の身体活動量と退院後の生活活動範囲の乖離に関連する要因  
関東学院大学 理工学部・奉優会 枝川高齢者在宅サービスセンター 木村 鷹介
- O-108 重度失語症と高次脳機能障害を呈したくも膜下出血患者における介入の工夫  
-ストレスコントロールに着目して-  
岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・  
岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所 廣田 泰成
- O-109 左橋梗塞後に体幹失調を主としたバランス障害を呈した症例への経頭蓋直流電気刺激を併用した介入報告  
藍の都脳神経外科病院 リハビリテーション部 佐藤 祥太
- O-110 小脳への経頭蓋直流電気刺激が小脳性失調患者の歩行および姿勢動揺に与える影響：  
症例研究  
宝塚リハビリテーション病院 療法部・  
畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション研究室 佐藤 悠樹
- O-111 脳膿瘍術後下肢運動麻痺に対する課題志向型練習と随意介助型電気刺激の併用による筋力  
への影響：症例報告  
西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部 浜本 謙吾
- O-112 歩行非自立の回復期脳卒中者における身体活動量の類型化と入院1か月後の歩行自立の関連  
甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 金居 督之

- 座長 松崎 哲治(麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科)  
村上 賢一(東北文化学園大学 医療福祉学部)
- 
- O-055 半側空間無視及びPusher 現象を伴った症例の重症度別回復過程とADL自立度に関する研究  
森山脳神経センター病院 リハビリテーション科・東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 加藤 優一
- O-056 回復期テント下脳血管障害患者における退院時歩行能力とMini-BESTestとの関連性  
~多施設共同研究 SAM-S~  
埼玉石心会病院 リハビリテーション部 小林 陽平
- O-057 回復期脳卒中患者におけるリハビリテーションへのモチベーションと日常生活活動能力  
改善の関連性  
筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群・  
総合東京病院 リハビリテーション科 石田 晋ノ介
- O-058 回復期リハビリテーション病棟における認知機能低下を呈した脳卒中患者のADL改善に  
影響する要因の検討  
岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・  
岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所 桑原 裕也
- O-059 回復期リハビリテーション病院にて長下肢装具を作製した脳卒中患者の歩行獲得状況  
千里リハビリテーション病院 セラピー部 村田 宏之
- O-060 亜急性期脳卒中患者における動的座位バランスの遂行不可項目による歩行自立度の差異  
JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部 松本 拓也



座長 大田 尾浩(西九州大学 リハビリテーション学部)  
嘉戸 直樹(神戸リハビリテーション福祉専門学校 理学療法学科)

- O-076 レンズ核線条体動脈閉塞における進行性運動麻痺と初回離床介入との関係について  
上尾中央総合病院 診療技術部 リハビリテーション技術科 福田 京佑
- O-077 脳腫瘍摘出術後患者の退院後生活における身体活動量・IADLの実態と、入院期リハビリテーション評価との関連  
神應透析クリニック リハビリテーション・信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 大澤 竜司
- O-078 抑うつ症状を有した左片麻痺症例に対して段階的な目標設定により歩行能力・転倒頻度が改善した1症例  
平成立石病院 リハビリテーション科 岡田 進太郎
- O-079 開頭脳腫瘍摘出術が身体症状と運動機能に及ぼす影響  
信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部 大野 智貴
- O-080 脳卒中患者における自宅退院後の身体活動量の変化とその関連要因  
—ケースシリーズスタディによる予備的検討—  
社会医療法人さくら会 さくら会病院 リハビリテーション科 木下 篤

座長 森下 元賀(吉備国際大学 保健医療福祉学部理学療法学科)  
野添 匡史(甲南女子大学)

- E-01 Effects of dynamic equilibrium gait training in idiopathic normal pressure hydrocephalus:  
A randomized controlled trial  
Yasutaka Nikaido,  
Clinical Department of Rehabilitation, Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital
- E-02 Factors influencing the condition at discharge in acute phase of stroke  
-the importance of early mobilization-  
Yoshinori Naito, Rehabilitation center, Toyohashi Municipal Hospital
- E-03 Gait characteristics of patients with increased paretic propulsion during robot  
-assisted ankle gait training-Analysis using machine learning-  
Takayuki Kuwabara, Rehabilitation Medicine, Graduate School of Medicine, Kansai Medical University  
Department of Rehabilitation Medicine, Kansai Medical University Hospital
- E-04 Alteration of late stance braking forces in hemiplegic gait by powerful exoskeletal ankle  
robot  
Naoto Mano,  
Department of Physical medicine and rehabilitation, Graduate School of Kansai Medical University  
Department of Physical medicine and rehabilitation, Kansai Medical University Hospital
- E-05 Effects of Dual-task Interference on Standing balance and Attentional function in Stroke  
- A case study -  
Michiko Harazono, Medical corporation Sonodakai Takenotsuka noshinkei rehabilitation hospital  
Graduate school of health sciences, Tokyo Metropolitan University

司会 山口 智史(順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科)

脳卒中上肢機能障害に対する新しいリハビリテーション治療

順天堂大学 藤原 俊之

座長	渡辺 学（北里大学メディカルセンター リハビリテーションセンター） 内山 靖（名古屋大学 大学院医学系研究科）
E-06	Effects of visual-motor illusion on the ankle joint of the paralyzed side in stroke in relation to the sense of embodiment. Junpei Tanabe, Department of Rehabilitation, Hiroshima Cosmopolitan University Graduate School of Human Health Sciences, Tokyo Metropolitan University
E-07	Relationship between stimulus-driven attention and activities of daily living in mild unilateral spatial neglect. Kazuya Motomura, Department of Rehabilitation, Mishuku Hospital
E-08	Prevalence and factors affecting recovery from lateropulsion for hemispheric stroke in early acute phase-multicenter observational study- Kazuhiro Fukata, Saitama Medical University International Medical Center
E-09	Analysis for Determinants of Activities of Daily Living in Post-Stroke with Pusher: A Retrospective Cohort Study Kota Sawa, Department of Physical Therapy, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University Department of physiotherapy, Graduate School of Human Health Science, Tokyo Metropolitan University

座長	儀間 裕貴（東京都立大学 健康福祉学部）
O-113	行為 - 結果規則性の知覚感度の発達変化 畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター 信迫 悟志
O-114	Edinburgh Visual Gait Score を用いた脳性麻痺患者の異常歩行に影響する歩行時の要因と基準値 福島県立医科大学 保健科学部理学療法学科 楠本 泰士
O-115	歩行可能な脳性麻痺患者における選択的股関節筋解離術後の年齢別の歩行パターンの変化—Pilot study— 中川の郷療育センター リハビリテーション課 脇 遼太郎

座長	平野 明日香（藤田医科大学病院 リハビリテーション部） 島野 克朗（国立循環器病研究センター 循環器病リハビリテーション部）
O-061	ウエルウォーク WW-2000の異常歩行検知システムで算出されるパラメータの基準関連妥当性 藤田医科大学病院 リハビリテーション部 井元 大介
O-062	外骨格型歩行ロボットが脳卒中患者の歩行制御および皮質活動に及ぼす影響：症例研究 宝塚リハビリテーション病院 療法部 比嘉 康敬
O-063	脳卒中重症者に対するウエルウォークを用いた歩行練習は移乗動作能力を改善させる 熊本機能病院 総合リハビリテーション部 桑原 萌
O-064	ウエルウォークを用いた歩行練習は pusher 現象の早期改善に貢献できるか？ -多施設共同無作為割付試験- 第3報 潤和会記念病院 リハビリテーション療法部 上野 信吾
O-065	重度片麻痺患者に対する長下肢装具とウエルウォーク歩行時の筋活動の比較 善常会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 渡邊 大志

座長	鈴木 俊明（関西医療大学大学院 保健医療学研究科） 徳久 謙太郎（友誼会総合病院 リハビリテーション科）
O-081	回復期脳卒中患者における歩行自立度改善に対する6分間歩行距離の Minimal Clinically Important Difference 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部・関西医科大学 客員研究員 久保 宏紀
O-082	脳卒中患者に対する改訂 Trunk impairment scale(TIS) 日本語版の信頼性の検討 東京国際大学 医療健康学部理学療法学科 杉本 諭
O-083	亜急性期脳卒中患者における Gait Assessment and Intervention Tool の信頼性の検討 —パイロット研究— 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部 三枝 信吾
O-084	Coma Recovery Scale-Revised と Glasgow Coma Scale による意識障害の重症度分類はどの程度一致するか 浜松医療センター リハビリテーション技術科 北野 貴之
O-085	脳血管障害例における Function in sitting test の特性の検討 東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション部 矢田 拓也

座長	奥田 裕（帝京科学大学 東京理学療法学科） 斉藤 琴子（湘南医療大学 リハビリテーション学科理学療法専攻）
O-096	脳卒中片麻痺患者におけるスマートフォンを用いた予測的姿勢制御の定量的評価 介護老人保健施設ケアタウンゆうゆう リハビリテーション部・東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 大沼 亮
O-097	脳卒中症例の物体把持時の運動出力発揮・制御特性 —諸評価変数と運動麻痺・感覚障害の関連性に着目して— 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室 赤口 諒
O-098	慢性期脳卒中片麻痺者の身体活動量が脳の構造と機能結合に及ぼす影響 千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション治療部 小針 友義
O-099	歩行解析における慣性式センサの矢状面角度の妥当性 京都大学大学院 医学研究科人間健康科学系専攻 筒井 康平
O-100	回復期脳卒中患者における上肢活動量の時空間特性 —加速度計を用いた特徴分類— 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部・畿央大学 大学院健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室 南川 勇二

司会	吉尾 雅春（千里リハビリテーション病院）
装具療法革命	千里リハビリテーション病院 吉尾 雅春 東京電機大学 三井 和幸 国際医療福祉大学 山本 澄子 千里リハビリテーション病院 増田 知子

座長	島津 尚子（公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部リハビリテーション学科） 春名 弘一（北海道科学大学 保健医療学部理学療法学科）	
O-116	脳卒中後片麻痺歩行のPF モジュールのタイプによって短下肢装具の効果は異なる 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科・関西医科大学大学院 医学研究科	中條 雄太
O-117	足関節ロボット歩行練習において麻痺側推進力を増加させる底屈アシストタイミングの検討 関西医科大学大学院 医学研究科リハビリテーション医学・ 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科	桑原 嵩幸
O-118	Quantified Paralysis Performance Assessment(QPPA) を用いた脳卒中片麻痺患者の身体 機能と装具使用の関係 藤田医科大学七栗記念病院 リハビリテーション部	佐藤 佑樹
O-119	底屈制動付き短下肢装具が脳卒中患者の歩行時における麻痺側下肢関節角度と下腿角速度 に及ぼす影響 岡波総合病院 リハビリテーション科	中尾 章吾
O-120	長下肢装具を用いた全介助歩行とスイッチング機能付機能的電気刺激の併用効果 医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院 リハビリテーション部	吉田 大地
O-121	脳卒中片麻痺患者の長下肢装具を用いた介助歩行の距離決定に影響を及ぼす因子の検証 宝塚リハビリテーション病院 療法部	中谷 知生
O-122	背屈抵抗機構を備えた新しい足関節装具は脳損傷後片麻痺患者の歩行時の空間的非対称性 を改善するのか？ 東北大学大学院 医学系研究科	本田 啓太

座長	中條 雄太（関西医科大学附属病院 リハビリテーション科） 桑原 嵩幸（関西医科大学附属病院 リハビリテーション科）	
P-180	院内備品・左右兼用長下肢装具の改良と2年間の使用実績 とよみ生協病院 リハビリテーション室	長島 淳
P-181	回復期脳卒中患者における活動量を考慮した装具作製 西宮協立リハビリテーション病院 リハビリテーション部	宇渡 竜太郎
P-182	ロボット機構付長下肢装具が回復期脳卒中片麻痺患者の麻痺側遊脚期の膝関節運動に 及ぼす影響 宝塚リハビリテーション病院 療法部	小田垣 夕紀
P-183	力覚提示インターフェースによる運動教示時の脳波と運動学習効果の関係に関する研究 大阪公立大学大学院 工学研究科機械系専攻機械工学分野・ （株）国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所（ATR） ブレインロボットインターフェース研究室	片岡 悠

座長	佐藤 和命（順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室） 杉 輝夫（湘南病院 リハビリテーション室）	
P-184	パーキンソン病の疾患重症度により障害される姿勢制御の要素の検証 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 リハビリテーション科	甲斐 太陽
P-185	慣性センサを用いたパーキンソン病のすくみ足検出方法の検討 埼玉県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部	理学療法科 三井 直人
P-186	血管炎性ニューロパチーに伴う深部感覚障害のIPSを用いた新規評価方法の有用性： a case report 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部・ 大分大学大学院医学系研究科 博士課程医学専攻	片岡 高志
P-187	抗MAG/SGPG抗体陽性ニューロパチーによる振戦の特性を評価し、食事動作自立を 目指した一症例 富山大学附属病院 リハビリテーション部	中田 健史
P-188	長期療養中の神経変性疾患患者における下腿血圧値の有用性について3症例の分析結果から 国立病院機構 兵庫中央病院 リハビリテーション科	寺尾 貴史
P-189	パーキンソン病症例における姿勢制御特性 —異なる姿勢障害の特徴を持つ3症例の対比的考察— 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部・ 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室	藤井 慎太郎
P-190	脊髄小脳変性症に対する集中リハビリテーションの費用効果分析の検討 国立精神・神経医療研究センター 身体リハビリテーション部	有明 陽佑

座長	塙 大樹（人間総合科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 北山 哲也（甲斐リハビリテーションクリニック リハビリテーション部）	
P-191	脳卒中患者における立位時の足圧中心動揺と安定性限界の回復特性について： 3症例の縦断的变化からの検討 東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション科	後藤 凌介
P-192	回復期脳卒中患者における立位制御能の経時的変化：SDA解析と周波数解析を用いた 単一症例研究 東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部・ 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション研究室	立石 貴樹
P-193	慢性期脳卒中患者の静止立位姿勢の特徴 —重心左右偏倚と麻痺側筋活動の動員に着目して— 静岡リハビリテーション病院 理学療法科	天野 浩也
P-194	脳血管障害患者における頭部と下腿の固定の有無が主観的身体垂直に及ぼす影響 埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター	関根 大輔
P-195	健常成人に対する足底での硬度弁別課題中の脳活動の低下は重心動揺の改善と関係する 群馬大学大学院 保健学研究科・老年病研究所附属病院 リハビリテーション部	佐藤 孟水
P-196	延髄梗塞によりlateropulsionを呈した症例に対して意識できる体性感覚を活用し歩行が 安定した症例 愛宕病院 脳神経センター ニューロリハビリテーション部門・ 愛宕病院 リハビリテーション部門	山下 峰明
P-197	静止立位と安定性限界の特徴からみた立位姿勢障害の評価 —脳卒中およびパーキンソン症候群症例の対比的検討— 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部・畿央大学大学院 健康科学研究科	長尾 綾菜



10月16日（日）9：00～10：00      ポスター28 脳損傷 回復期5      ポスター会場1（10階、会議室1001-1003）

座長	富田 憲（藤田医科大学七栗記念病院 リハビリテーション部） 奥田 正作（水無瀬病院 リハビリテーション部）	
P-198	回復期病棟脳卒中患者におけるウェルウォークが移動能力に与える効果 - 傾向スコアマッチング法を用いた検討 - イムス札幌内科リハビリテーション病院 リハビリテーション科	工藤 友治
P-199	回復期脳卒中者における体幹機能と各 ADL 動作の関連性 JCHO 東京新宿メディカルセンター リハビリテーション室	丸山 侑花
P-200	視床出血により感覚性運動失調を呈した一症例：症例報告 康心会 汐見台病院 リハビリテーション科	長嶋 辰弥
P-201	座位で靴を履く際に右上肢にパターン運動が生じた左脳梗塞後の一症例 ～パターン運動が生じる要因に着目して～ 医療法人寿山会 喜馬病院 法人リハビリテーション部	西北 健治
P-202	脳卒中後に自覚的視性垂直位障害を呈した症例への経頭蓋直流電気刺激と直流前庭電気 刺激の試み 宝塚リハビリテーション病院 療法部	松永 綾香

10月16日（日）10：00～11：00      ポスター31 脊髄障害2      ポスター会場1（10階、会議室1001-1003）

座長	北出 一平（福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部） 清水 健（国立障害者リハビリテーションセンター 病院 リハビリテーション部）	
P-219	脊髄損傷者の転倒リスク軽減を目的に、姿勢制御の運動機器を用いた一症例 ～保険適応外施設の取り組み～ J-Workout リサーチセンター	石河 直樹
P-220	頸髄不全損傷者に対する BWSTT が歩行能力に与える影響 - 即時効果に着目した1症例 - 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部	宇野 奨吾
P-221	機能的電気刺激を用いて歩行再建を目指した頸髄不全損傷者一症例の介入報告 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部	田口 周輝
P-222	急速に歩行機能が回復した胸腰椎移行部の外傷性脊髄損傷患者一症例 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部	多久和 良亮
P-223	装具療法と機能的電気刺激療法を併用し、歩行の再獲得を目指した頸髄不全損傷症例 医療法人相生会 新吉塚病院 リハビリテーション科	杉原 郁弥
P-224	脊髄梗塞による不全対麻痺に対し体重免荷型トレッドミルとウェルウォーク WW-1000を用い歩行能力が 改善した一症例 熊本機能病院 総合リハビリテーション部	高宮 安由

座長	谷内 涼馬（独立行政法人国立病院機構広島西医療センター リハビリテーション科） 元村 隆弘（社会医療法人 北九州中央病院 リハビリテーション科）
P-225	訪問リハビリ介入が転倒減少と行動変容に至ったパーキンソニズムを呈した一症例報告 篠田総合病院 リハビリテーション部 山岸 梓
P-226	パーキンソン病患者における軽度前屈姿勢と前後の重心制御能力の関連 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部 理学療法科 清水 健太
P-227	脊髄小脳変性症患者のバランス機能改善に向けた探索的研究：a case report 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部 井上 航平
P-228	パーキンソン病患者の歩行開始動作における予測的姿勢調節の優位側と運動機能の関連について 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部・神戸大学大学院 保健学研究科 永井 厚志
P-229	円滑に歩行できるが足部環境が変化すると姿勢を定位できないパーキンソン病の症例 愛宕病院 脳神経センター ニューロリハビリテーション部門・愛宕病院 リハビリテーション部 沖田 学
P-230	入院中のパーキンソン病患者における日常生活動作能力改善に影響する因子の検討 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科 渡邊 善行

座長	山本 洋司（関西電力病院 リハビリテーション部） 守屋 正道（帝京平成大学 健康医療スポーツ学部）
P-231	運動療法における負荷量の設定の工夫が独歩獲得に結びついた重度大動脈弁狭窄症を合併した左被殻出血症例 社会医療法人 孝仁会 北海道大野記念病院 リハビリテーション部 松田 瑠也
P-232	初回離床時の評価が急性期脳卒中患者の転帰を予測する 船橋市立医療センター リハビリテーション科 堤 正裕
P-233	脳梗塞入院患者における NIHSS を用いた日常生活自立予測の可能性について 医療法人財団健貢会 総合東京病院 リハビリテーション科 松田 直也
P-234	塞栓術と摘出術を施行した小脳動脈奇形症例に対し、医師と連携し術前後から積極的に理学療法介入した経験 名古屋掖済会病院 リハビリテーション部 中尾 弥歩
P-235	歩行予後不良と予測される患者に、急性期の画像情報より早期立位歩行練習を実施し、独歩獲得に至った症例 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 リハビリテーション科 宮本 龍太郎
P-236	急性期 Branch Atheromatous Disease に対して Fugl-meyer assessment を用いた運動機能予後の関連因子の検討 医療法人社団 緑成会 横浜総合病院 リハビリテーション部 小林 勇仁
P-237	COVID-19に脳梗塞を合併した5症例の理学療法経過 京都市立病院 リハビリテーション科 松原 彩香
P-238	膠芽腫摘出術後患者の転帰良好例の特徴 秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 皆方 伸

座長	田村 哲也（千里リハビリテーション病院 セラピー部） 松野 悟之（大阪行岡医療大学 医療学部理学療法学科）
P-239	頭部 CT 画像を用いた voxel-based lesion-symptom mapping 解析の試み 千里リハビリテーション病院 セラピー部 伊藤 直城
P-240	脳梗塞患者の機能的転帰に関連する要因 ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 古謝 帝
P-241	脳卒中患者の自立歩行の獲得に影響を及ぼすうつ症状の検討 愛知県済生会リハビリテーション病院 リハビリテーション科 西田 崇人
P-242	決定木分析による脳梗塞の患者の自立歩行獲得の要因 ちゅうざん病院 臨床教育研究センター 佐藤 圭祐
P-243	脳卒中患者の回復期病棟入院時のバランス能力で屋外歩行に必要な歩行速度の獲得の可否を予測する 北里大学大学院 医療系研究科 山田 隆一郎
P-244	回復期脳卒中患者における疲労感と身体活動量および身体機能との関連—予備的研究— 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部・神戸大学大学院 保健学研究科 槇原 史乃
P-245	回復期リハビリテーション病棟入棟時低栄養は脳卒中患者の非麻痺側機能及び日常生活動作能力に関連する 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所 嘉摩尻 伸

座長	鎌田 将星（国立循環器病研究センター 循環器病リハビリテーション部） 吉村 恵三（公立学校共済組合九州中央病院 医療技術部リハビリ技術科）
P-261	懸架式歩行練習により骨格筋量向上が得られた重度片麻痺症例 ～脳卒中急性期の骨格筋量の推移について～ 社会医療法人厚生会 中部国際医療センター リハビリテーション技術部 荘加 克磨
P-262	急性期の上肢重度片麻痺に対し、超音波診断装置を用いて評価、治療選択を用いた1症例 岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科 藤原 博道
P-263	急性期再開通療法後の転帰先決定に7日目 NIHSS と治療後翌日 FIM 運動項目は相関する 小倉記念病院 リハビリテーション課 吉川 和也
P-264	Claude 症候群を呈した急性期脳卒中患者の経過と理学療法経験 名古屋掖済会病院 リハビリテーション部 齋藤 弘明
P-265	急性期脳梗塞に対する血管内治療後に仮性動脈瘤を合併した一症例 東京都立荏原病院 リハビリテーション科 高橋 忠志
P-266	当院脳卒中患者に対する脳卒中離床プロトコル導入前後の効果に関する検討 伊那中央病院 リハビリテーション技術科 唐澤 卓馬
P-267	離床が遅延した心原性脳塞栓症患者4例の患者特性に関して 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 リハビリテーション科 辻本 実奈美
P-268	ビッカーstaff型脳幹脳炎により運動失調・バランス障害を呈した症例の理学療法経験 上尾中央総合病院 リハビリテーション技術科 石森 翔太

座長	坂本 宗樹（名戸ヶ谷病院 リハビリテーション科） 遠藤 博（JA とりで総合医療センター リハビリテーション部）	
P-269	自宅内での床移動自立を目指した顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー患者の一例 浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部	大畑 さよこ
P-270	社会福祉法人香南会における誤嚥性肺炎罹患と口腔内状態の関係について 社会福祉法人香南会 機能訓練部	太場岡 英利
P-271	ポリオ後症候群と横紋筋融解症合併例に対して仮想現実技術を用いたリハビリテーションが著効した一例 mediVR リハビリテーションセンター リハビリテーション科	田丸 麻子
P-272	足を引きずるような独特な歩行パターンを示した統合失調症患者に対する理学療法の経験 秋津鴻池病院 リハビリテーション部・奈良県立医科大学大学院 医学研究科	石橋 雄介
P-273	ギランバレー症候群後の歩行障害に対する HONDA 歩行アシストの歩行能力向上効果 -AB シングルケースデザイン - 総合東京病院 リハビリテーション科	石田 晋ノ介
P-274	慢性めまい症に対する前庭リハビリテーションの効果（シングルケーススタディ） 富士宮市立病院 診療技術部 リハビリテーション科	佐野 優衣菜
P-275	軸索型ギラン・バレー症候群から ADL 自立後に再発症した症例 東京通信病院 リハビリテーション科	小林 誠

座長	岡元 信弥（名古屋市総合リハビリテーションセンター 理学療法科） 佐々木 翔太（島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部）	
P-276	被殻出血による運動麻痺に対して G-TES 麻痺モードを使用し即時効果が得られた1例 山口県立総合医療センター リハビリテーション科	鹿子木 知之
P-277	右片麻痺患者が腰椎圧迫骨折後の廃用により筋力低下し末梢神経磁気刺激が有用であった一例 タムス浦安病院 リハビリテーション科	樋口 拓哉
P-278	痙縮を有する脳卒中患者に対する拡散型圧力波治療と機能的電気刺激療法の併用による歩行への影響の検討 西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部	新山 実優
P-279	右延髄外側梗塞後の lateropulsion に対し TENS と運動療法の併用により姿勢制御を促した一症例 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部	梶本 一輝
P-280	脳卒中後重度表在覚鈍麻を呈した症例に対する TENS 併用歩行練習の効果 一歩行能力と感覚鈍麻に着目 村田病院 リハビリテーション部	高木 優汰
P-281	回復期脳卒中患者に対する末梢神経電気刺激とバランス練習の併用による効果検証 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所	奥野 博史

座長 古賀 優之（医療法人協和会 協和会病院 理学療法科）  
湯浅 明子（藤田医科大学 医学部）

- P-282 両眼性複視を呈した症例に対する眼球運動練習の亜急性期経過  
岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・  
岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所・  
畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター 測上 健
- P-283 重症脳卒中患者の理学療法中の起立回数に影響を与える因子  
JA 長野厚生連佐久総合病院 理学療法科・信州大学大学院 医学系研究科 四十万 直起
- P-284 回復期脳卒中片麻痺患者に対する分岐鎖アミノ酸摂取を併用した下肢レジスタンストレーニングの効果  
秋田県立循環器・脳脊髄センター 機能訓練部 伊藤 優也
- P-285 脳卒中後の入院中に COVID-19を罹患し、機能障害/能力低下が生じた一症例  
医療法人協和会協和会病院 理学療法科 山本 大貴
- P-286 復職に向けての中長期的な支援体制の構築を目指した若年脳卒中2症例の経過  
岡山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 大島 埴生
- P-287 能動的注意が固有感覚検査に及ぼす影響について  
大浜第一病院 リハビリテーション科 屋富祖 司
- P-288 パーキンソン病を併発する脳卒中後失語症患者に対して疼痛行動観察評価に基づいた理学療法が奏功した一症例  
岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・  
岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所・  
神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所 山田 良

座長 延本 尚也（兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部理学療法科）  
藤縄 光留（神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション部理学療法科）

- P-301 重度視覚障害を有した脊髄性運動失調症患者の介入  
－関節位置・運動覚の知覚を感覚モダリティとした一症例－  
蒲田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 西牧 航駆
- P-302 中心性脊髄損傷者に対する高頻度 rTMS と末梢電気刺激の併用運動療法の効果  
－シングルケーススタディー－  
苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション科 佐藤 諒太
- P-303 当院回復期リハビリテーション病棟における外傷性頸髄損傷者の実績指数の予測  
JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部 宮下 創
- P-304 対麻痺を呈した急性散在性脳脊髄炎患者が独歩獲得に至るまでの回復期リハビリテーションの経過  
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 機能訓練部 長谷川 美紅
- P-305 横断性脊髄炎により対麻痺を呈した症例への理学療法介入  
大原医療センター リハビリテーション科 岸波 千宏
- P-306 回復期脊髄障害患者の目標達成のために～チェックリストを用いて～  
浜松市リハビリテーション病院 リハビリテーション部 村松 伸江



座長	平塚 健太（函館市医師会看護・リハビリテーション学院 理学療法学科） 友田 秀紀（医療法人共和会小倉リハビリテーション病院 臨床サービス部）	
P-307	軽症脳梗塞患者における発症後24時間以内の離床開始と短期機能予後との関連 - 後ろ向きコホート研究 -	一宮市立市民病院 リハビリテーション室 中島 宏樹
P-308	左視床出血により視床性運動失調を呈した一症例の病態解釈と理学療法	亀田総合病院 リハビリテーション室 稲村 泰成
P-309	被殻出血と視床出血における血腫の拡大方向と皮質脊髄路損傷の関係	湘南医療大学 保健医療学部 大村 優慈
P-310	CT 値を用いた皮質脊髄路損傷度評価による下肢機能と歩行の予後予測	医療法人社団和風会 橋本病院 リハビリテーション部 福田 真也
P-311	脳血管疾患患者の複数ある身体機能評価を簡潔にまとめるための取り組み 第二報	福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部 山内 悠路
P-312	急性期脳卒中患者における発症1週間後の10m 歩行の可否は退院時屋外自立歩行と退院先に 関連する	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 リハビリテーション科 武藤 健人
P-313	脳卒中患者の歩行自立度予後予測モデル (TWIST model) の外的妥当性の検証 - 過去起点コホート研究 -	JCHO 滋賀病院 リハビリテーション部・畿央大学大学院 健康科学研究科 植田 耕造

座長	鮎川 将之（山梨リハビリテーション病院 リハビリテーション部理学療法課） 川崎 亘（千鳥橋病院 リハビリテーション技術部）	
P-314	脳卒中重度歩行障害例の長下肢装具下での歩行特徴の変化 - 短下肢装具移行群と長下肢装具離脱困難群の比較 -	順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科・ 順天堂大学大学院 リハビリテーション医学 林 祐介
P-315	臨床現場で使用される長下肢装具を用いた後方介助歩行時の筋活動特性	札幌白石記念病院 リハビリテーション技術室・弘前大学大学院 保健学研究科 佐藤 元哉
P-316	重度脳卒中片麻痺患者の段階的な補高調節における筋電計評価と歩行能力の経過	松山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 中田 衛樹
P-317	Ness L 3 0 0 TM を使用した介入が歩行能力に影響を与えた 脳幹梗塞にて左片麻痺を呈し た一症例	山梨リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法課 大塚 奨悟
P-318	短下肢装具が脳卒中患者の歩行開始動作に与える影響	村田病院 リハビリテーション部 山下 弘晃
P-319	長下肢装具を用いた重度脳卒中患者の介助歩行における理学療法士間の技術的差異の検討	宝塚リハビリテーション病院 療法部 津崎 皓也

座長 山本 哲（茨城県立医療大学 保健医療学部理学療法学科）  
藤田 和樹（福井医療大学大学院 保健医療学研究科）

- P-203 足部感覚トレーニングの設定条件の違いが足底の体性感覚機能へ与える効果の検証  
中部学院大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科・  
東京都立大学大学院 人間健康科学研究科理学療法科学域 菅沼 惇一
- P-204 動作時の半側空間無視に対して Multi-Target Step を用いた評価と治療を行った脳卒中  
片麻痺患者の一症例  
兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部 佐藤 菜月
- P-205 半側空間無視に対する没入型バーチャルリアリティを用いた評価システムの検者内信頼  
性・検者間信頼性検証  
医療法人社団苑田会 苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション科 江見 翔太
- P-206 没入型バーチャルリアリティによる半側空間無視評価システムの最小可検変化量の検討  
苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 川口 俊太郎
- P-207 脳卒中片麻痺症例における感覚鈍麻の安静立位姿勢に及ぼす影響  
－複数の感覚検査を行う意義についての検討－  
中部リハビリテーション専門学校 理学療法学科 柳瀬 由起子
- P-208 亜急性期脳卒中患者における Mini-Balance Evaluation Systems Test の Minimal Clinically  
Important Difference  
藤岡総合病院 リハビリテーション室 田村 俊太郎
- P-209 潜在ランク理論を用いた脳卒中者における Berg Balance Scale のバランス能力ステージの  
検討  
茨城県立医療大学 理学療法学科 宮田 一弘
- P-210 上肢身体認知に対する評価ツール開発とその有用性検証  
京都橘大学 大学院健康科学研究科 池尻 生実

座長	山形 哲行（学校法人日本リハビリテーション学舎 専門学校 社会医学技術学院 理学療法学科） 大谷 武司（安曇野赤十字病院 リハビリテーション科）		
P-211	走行ルール式免荷牽引リフトを用いた介入により筋緊張を増悪させることなく歩行が実施できた症例	社会医療法人 医翔会 札幌白石記念病院 リハビリテーション技術室	北條 朝陽
P-212	急性期脳卒中患者における発症前の低栄養が体幹機能及び下肢筋力の改善に与える影響：前向きコホート研究	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科	野添 匡史
P-213	急性期脳卒中患者に対する発症後早期からの高頻度リハビリテーションの有効性と安全性	関西電力病院 リハビリテーション部	高田 祐輔
P-214	姿勢定位障害を呈する左片麻痺者に対する理学療法介入 ～対称的な姿勢の獲得と非麻痺側下肢への荷重～	社会医療法人JMA 海老名総合病院 リハビリテーション科	川副 泰祐
P-215	股関節の固有受容感覚に焦点を当てた認知神経リハビリテーションは歩行の対称性および規則性を改善する	東京女子医科大学附属足立医療センター リハビリテーション部	後藤 圭介
P-216	長下肢装具を用いて歩行練習を実施することで下肢の痙縮を改善できた一症例	洛和会 音羽病院 リハビリテーション部	木下 優一
P-217	脳動静脈奇形破裂に伴う長期覚醒不良患者に対し覚醒向上を目指した当院での取り組み ～開眼するその時まで～	明芳会イムス三芳総合病院 リハビリテーション科	田草川 智也
P-218	脳室穿破を伴う小脳虫部出血 嘔吐により ADL 拡大に難渋した1例	山口県立総合医療センター リハビリテーション科	岡本 亜香音

座長	渡邊 家泰（土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科） 渡邊 大貴（筑波大学 医学医療系 脳神経外科）	
P-246	慢性脳卒中者の歩行速度に対する Robotics-assisted tilt table training の即時効果： パイロットスタディ	那智勝浦町立温泉病院 リハビリテーションセンター 櫻井 雄太
P-247	身体垂直認知異常のある重度片麻痺例に対する Welwalk の視覚フィードバックの効用	岡山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 浅野 智也
P-248	Honda 製歩行アシストのステップモードにクロスオーバーステップを組み合わせた運動 療法の効果検証	小金井リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小川 洋介
P-249	生活期脳卒中患者に対してウエルウォーク WW-1000を集中的に使用した歩行練習が有効で あった2症例	善常会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 谷垣 真哉
P-250	延髄外側梗塞により Opalski 症候群を呈した症例に対し「ウエルウォーク WW-2000」を 用いた効果	総合リハビリテーションセンター・みどり病院 リハビリテーション部 田巻 督広
P-251	脳梗塞急性期にて免荷式リハビリテーションリフトを使用し、歩行能力が改善した一症例	公立置賜総合病院 リハビリテーション部 小関 渉
P-252	トレッドミル歩行練習を継続して実施した結果、麻痺側の遊脚が改善した左片麻痺の症例	リハビリセンター Reha fit リハフィット 實 結樹
P-253	長下肢装具を用いた前型歩行の歩行自立改善効果の検証 －二木の分類による結果と実際の自立度との対比－	鶴岡協立リハビリテーション病院 理学療法科 高橋 智佳

座長	片山 脩（国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部） 乾 哲也（千里リハビリテーション病院 セラビー部）	
P-254	脳卒中患者1症例に対し、慢性期での理学療法介入が Pusher 現象及び ADL に及ぼす影響 について	平成扇病院 リハビリテーション科 鈴木 啓介
P-255	通所リハビリテーションを利用する生活期脳卒中者への座位時間減少を目的とした短期間 の介入効果	橋本リハビリテーションクリニック リハビリテーション部 澁谷 光敬
P-256	麻痺手に使用課題があった脳卒中後上肢麻痺を呈した一症例 - 通所リハビリテーションでの CI 療法の適用可能性 -	関西医科大学くずは病院 リハビリテーション科 横山 広樹
P-257	慢性脳血管脂質異常症患者に対する3週間の運動療法・食事療法・薬物療法の併用が血清 脂質値に与える影響	那智勝浦町立温泉病院 リハビリテーションセンター 奥地 昭悟
P-258	本態性振戦を呈した延髄出血症例に対するリハビリテーション実施経験	静岡リハビリテーション病院 理学療法科 田中 幸平
P-259	身体活動量が上肢活動量に与える影響 上肢活動量計測と主観的な使用頻度に乖離を認めた 脳出血後片麻痺の一例	川口脳神経外科リハビリクリニック リハビリテーション科 加藤 慶紀
P-260	運動麻痺と感覚障害を伴い病巣と対側に姿勢傾斜が出現した橋出血例に対する理学療法と その経過	大崎市民病院 リハビリテーション部 門脇 敬

座長	荒井 沙織（了徳寺大学 健康科学部理学療法学科） 谷野 元一（藤田医科大学岡崎医療センター リハビリテーション部）
P-289	仮想空間における後進歩行速度の知覚 弘前大学大学院 保健学研究科・弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 理学療法室 田口 惇
P-290	部分免荷式トレッドミル歩行練習が難渋した多系統萎縮症の一考察 佐藤第一病院 リハビリテーション部 藤原 愛作
P-291	失調症状の軽減により書字の再獲得に至った両側聴神経腫瘍症例 愛宕病院 リハビリテーション部 佐藤 誠
P-292	両側視床傍正中中部梗塞症候群の退院後の IADL 動作への影響 医療法人社団 仁明会 秋山脳神経外科病院 リハビリテーション科 江原 真人
P-293	年齢別による能動・受動的注意機能の比較 －若年者および高齢者を対象とした予備的横断研究－ 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 岸和田リハビリテーション病院 脳卒中リハビリテーション研究所・ 畿央大学大学院 健康科学研究科神経リハビリテーション研究室 緒方 練人

座長	松澤 雄太（都城リハビリテーション学院 教務部） 石黒 正樹（名古屋市総合リハビリテーションセンター 理学療法科）
P-294	歩行中の感覚運動不一致に関する研究 ー自己の観察視点に着目した予備実験の報告ー 畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター・ 藤井会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 林田 一輝
P-295	「三次元トレッドミル歩行分析を用いた下腿後面筋に対する複数回のボツリヌス治療の効果判定」 藤田医科大学病院 リハビリテーション部 伊藤 俊貴
P-296	左小脳梗塞により立位、歩行時の Lateropulsion が出現した症例 多摩丘陵病院 理学療法科 岸 将大
P-297	転倒歴のある脳卒中患者の歩行時における路面変化がつま先クリアランスと動的安定性制御に及ぼす影響 熊本保健科学大学 保健科学部・東北大学大学院 医学系研究科 本田 啓太
P-298	脳卒中片麻痺患者に対する体重免荷式歩行器を使用した歩行練習の効果 南砺市民病院 地域リハビリテーション科 越崎 弘朗
P-299	Trunk Solution とウォークエイドの併用による片麻痺歩行への効果 －大殿筋筋活動に着目した一症例での検討－ 善常会リハビリテーション病院 リハビリテーション部 西ヶ谷 嘉一
P-300	長下肢装具の足関節自由度が麻痺肢足圧中心及び筋活動に与える影響と関連する身体機能の特徴 関西医科大学附属病院 リハビリテーション科 小倉 歩武



座長	谷本 正智（国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部） 中野 英樹（京都橘大学 健康科学部理学療法学科）
P-320	脳卒中後遺症者の立ち上がり動作における失敗と下肢サポートモーメントとの関連性 人間総合科学大学 理学療法学専攻・東埼玉総合病院 リハビリテーション科 埴 大樹
P-321	IMU センサを用いた脳卒中患者の Sit-to-Walk 動作解析 - 身体機能と体幹加速度の関連 - 令和リハビリテーション病院 リハビリテーション科・慶應義塾大学大学院 医学研究科 伯川 聡志
P-322	ゴムバンドを用いた反復運動課題に関する脳機能画像分析 国際医療福祉大学 大田原保健医療学部 理学療法学科 伊藤 航輝
P-323	拡散テンソル画像および拡散テンソルトラクトグラフィの定量解析手法における検者間 信頼性の比較 岩砂病院・岩砂マタニティ リハビリテーション部 伊藤 兼
P-324	脳卒中後肩痛の特性は痛み部位の広がりによって異なる 協立病院 リハビリテーション科・畿央大学大学院 健康科学研究科 古賀 優之
P-325	脳卒中後の感覚運動障害が予測誤差と運動主体感の相関関係に及ぼす影響 仁寿会石川病院 リハビリテーション部 大谷 武史
P-326	脳卒中片麻痺患者における Hand-Held-Dynamometer を用いた筋力測定値の最小可検変化量 藤田医科大学病院 リハビリテーション部・ 藤田医科大学大学院 保健学研究科 医療科学専攻 博士後期課程 伊藤 翔太
P-327	脳卒中後に生じる肩手症候群と上下肢運動麻痺および疼痛調節機能との関連性 - 予備的横断研究による検討 - 岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター・ 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科 桂 祐一

座長	松居 和寛（大阪大学大学院 基礎工学研究科機能創成専攻） 島袋 公史（沖縄リハビリテーション福祉学院 理学療法学科）
P-328	理学療法以外の時間の長下肢装具を装着した立位リーチ練習が回復期脳卒中者の立位 リーチ距離に及ぼす影響 医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 回復期支援部 甲斐 匠
P-329	ウェルウォークを実施した脳卒中患者における基本動作・バランス能力改善と練習パラメー タの関連 医療法人珪山会 鶴飼リハビリテーション病院 リハビリテーション部 牧 芳昭
P-330	回復期脳卒中患者における身体活動の特徴と機能予後との関連 一下肢装具使用状況別の検討 西記念ポータアイランドリハビリテーション病院 リハビリテーション科 大坪 拓朗
P-331	理学療法士による AFO とショートタイプ AFO の選定に関する因子の探索； 回復期脳卒中片麻痺患者を対象に 近森リハビリテーション病院 理学療法科 安村 広之
P-332	ウェルウォーク WW-1000により立位バランスの向上を認めた急性期脳卒中患者の1症例 さくら会病院 リハビリテーション科 吉川 昌太
P-333	装具処方に難渋した小児脳腫瘍の1例 秋田大学医学部附属病院 リハビリテーション部 市川 兼之

座長	長谷川 直哉 (北海道大学大学院保健科学研究院) 大塚 圭 (藤田医科大学) 八坂 一彦 (高知医療学院) 呂 隆徳 (旭川医科大学病院)
eP-1	脳卒中者の歩行自立度に対する等尺性脚伸筋力と等尺性膝伸筋力の関連 新さっぽろ脳神経外科病院 リハビリテーション科 松田 涼
eP-2	回復期脳卒中片麻痺者における歩行速度と歩行定常性の縦断的变化および関連性 東北福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科・鹿児島大学 医学部保健学科 荒木 草太
eP-3	神経筋電気刺激を併用した介入により下肢筋活動と歩容に変化を認めた脳卒中後片麻痺を呈した一症例 医療法人社団新生会 南東北第二病院 リハビリテーション科 三瓶 あずさ
eP-4	電気刺激と短下肢装具の併用療法により発症3か月以降も歩行改善した脳卒中片麻痺者の一例 医療法人博康会 アクラス中央病院 副診療・リハビリテーション部・鹿児島大学大学院 保健学研究科 松浦 央憲
eP-5	脊髄梗塞の機能的予後の検討 社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 リハビリテーション科 西川 満
eP-6	学齢期の発達障がい児における手書きスキルと行動及び情緒の問題の関連 特定非営利活動法人 土佐の風 児童発達支援事業所とさっちくらぶ 岩崎 史明
eP-7	筋萎縮性側索硬化症の症例に対する有料老人ホームでの生活環境支援 - 症例報告 - 株式会社ハイメディック トラストガーデン荻窪 大和 諭志
eP-8	慢性期脳卒中患者の上肢痙縮に対するボツリヌス療法と Hybrid assistive limb® の併用： 症例集積研究 茨城県立医療大学付属病院 吉川 憲一
eP-9	脳卒中後片麻痺患者における非麻痺側膝関節固定下での歩行練習が下肢および体幹運動に及ぼす影響 - 症例報告 - 別府リハビリテーションセンター リハビリテーション部・大分大学大学院 福祉健康科学研究科 戸高 良祐
eP-10	脳卒中後の Pusher behavior の臨床的重症度に関連する因子 一般財団法人広南会広南病院 リハビリテーション科 板垣 莉央
eP-11	右被殻出血により左片麻痺と pusher 症候群を呈した患者の車椅子移乗への取り組みについて 聖マリア病院 リハビリテーション室 山下 卓哉
eP-12	脳卒中片麻痺者におけるバランス能力・麻痺側下肢機能・歩行能力の相互関係 都城リハビリテーション学院 教務部・鹿児島大学大学院 保健学研究科 松澤 雄太
eP-13	視床・被殻出血患者における、長下肢装具カットダウンへの移行時期を予測する身体機能の要因分析 上尾中央総合病院 診療技術部リハビリテーション技術科 小黒 修平
eP-14	長下肢装具の有無が脳卒中片麻痺者の体幹深部筋に与える影響の検討 - 予備的研究 - 草加松原リハビリテーション病院 リハビリテーション課 小野塚 雄一
eP-15	パーキンソン病における視床体積量変化と運動機能の関連 一般社団法人巨樹の会五反田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 橋本 拓也
eP-16	脳幹梗塞患者の Body lateropulsion による足圧中心の位置と速度は異なるバランス課題でどのように異なるか？ 福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部 松尾 英明
eP-17	脳卒中患者に対する足関節周囲筋への機能的電気刺激が下肢筋の同時収縮に与える影響 農協共済 別府リハビリテーションセンター リハビリテーション部 狩生 直哉
eP-18	視床出血例における、血腫の位置と回復期リハビリテーション病棟退院時の歩行自立度との関連 甲州リハビリテーション病院 リハビリテーション部 内田 武正

- eP-19 短下肢装具の作成場面で葛藤が見られた脳梗塞事例の振り返り  
－意思決定過程における関係性構築の重要性－  
恒生病院 リハビリテーション課 森屋 崇史
- eP-20 薬物療法と運動療法の併用がヒト T 細胞白血病ウイルス I 型関連脊髄症患者の運動耐容能  
の向上に寄与した症例  
医療法人社団苑田会 苑田第二病院 リハビリテーション科 鈴木 啓太
- eP-21 進行性核上性麻痺患者の歩行自立にはバランス機能が関連する  
新さっぽろ脳神経外科病院 リハビリテーション科 佐藤 佑太郎
- eP-22 脊髄小脳変性症に対する短期集中リハビリテーションにおける立位バランス戦略の経時的  
変化  
社会医療法人大道会森之宮病院 リハビリテーション部理学療法科 西尾 政春
- eP-23 半側空間無視と Pusher 現象を呈した症例に対する視覚情報と経皮的末梢神経電気刺激の併用  
札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 加藤 雄大
- eP-24 回復期脳卒中者の目標一致度に影響する要因の検討  
－重症度・ADL・心理的要因と面接状況に着目して－  
医療法人札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 宝田 光
- eP-25 運動観察介入における運動学習効果に寄与する未習熟な手本の要素  
東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 川崎 翼
- eP-26 被殻出血患者における機能回復過程について - 歩行自立度別にみた比較検討 -  
金沢医科大学病院 リハビリテーションセンター 池田 法子
- eP-27 重度失語症を呈した介入拒否のある右片麻痺患者に対し、自宅退院に向けて失禁対策に  
難渋した1症例  
袖ヶ浦さつき台病院 リハビリテーション部 赤池 優也
- eP-28 長下肢装具を用いた体重免荷式トレッドミル歩行が健常者の下肢筋活動に与える影響に  
ついて  
脳神経センター大田記念病院 急性期リハビリテーション課 村上 祐介
- eP-29 歩行自立度予測式を超えて歩行能力が改善し、日常生活自立に至った頸髄損傷術後の一症例  
徳山リハビリテーション病院 リハビリテーション部 西住 諒
- eP-30 転移性骨腫瘍により破裂骨折を認めた対麻痺患者に対する長下肢装具や免荷式歩行器を  
使用した歩行練習の効果  
ちゅうざん病院 リハビリテーション療法部 西大外 高暉
- eP-31 触覚性消去現象を認め歩行困難であったが長下肢装具を用いた歩行練習後より短期間で  
歩行獲得できた一例  
つがる西北五広域連合 つがる総合病院 リハビリテーション部 長谷 一基
- eP-32 長下肢装具装着での後方介助歩行練習における患者動作の臨床経験による差の検討  
～一症例での比較～  
一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院 総合リハビリテーションセンター 桑原 達徳
- eP-33 回復期脳卒中片麻痺患者における備品長下肢装具使用者の入院時特徴と長下肢装具使用  
日数の関係  
南東北第二病院 リハビリテーション科 春山 大輝
- eP-34 当院における脳卒中患者に対するウエルウォークの効果  
－傾向スコアマッチングによる検討－  
別府リハビリテーションセンター リハビリテーション部 梶山 哲
- eP-35 上肢ボタン押し課題における適応的学習能と転倒との関連性  
～ロジスティック回帰分析を用いて～  
医療法人明倫会 本山リハビリテーション病院 リハビリテーション科 森下 寛司
- eP-36 歩行非自立脳梗塞患者の自宅退院における Functional Independence Measure 項目の検討  
社会医療法人財団 白十字会 白十字病院 リハビリテーション部 井倉 俊平

- eP-37 重度 Pusher 現象と半側空間無視を呈した脳出血患者に対する臥位療法が座位保持改善に奏効した1症例  
東邦大学医療センター大森病院 リハビリテーション科 久保 隆希
- eP-38 被殻出血患者における血腫の進展方向と装具作製有無との関連性  
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 川上 翔三
- eP-39 脳幹梗塞を認めた患者に対する眼球運動制限の改善に向けたリハビリテーション  
ちゅうぞん病院 リハビリテーション療法部 中山 樹里
- eP-40 生活期脳卒中患者に対するウェルウォークの使用が歩行能力の改善に効果的であった一症例  
別府リハビリテーションセンター リハビリテーション部 伊東 祐輔
- eP-41 脳卒中後の足関節背屈トレーニングにおける Cross-education 効果  
- シングルケースデザインによる検討 -  
札幌麻生脳神経外科病院 リハビリテーション部 居橋 拳児
- eP-42 脳卒中片麻痺患者における体幹機能の回復と歩行自立度の関連  
- Trunk Impairment Scale の変化に着目した一例 -  
いわてリハビリテーションセンター 機能回復療法部・  
茨城県立医療大学大学院 保健医療科学研究科 博士前期課程 江口 舞人
- eP-43 当センターにおける脊髄梗塞患者の病態と予後についての後方視的調査  
いわてリハビリテーションセンター 機能回復療法部理学療法科 佐久山 希
- eP-44 脳卒中片麻痺患者の廃用性筋萎縮に関連する因子の検討  
医療法人社団苑田会 花はたりリハビリテーション病院 リハビリテーション科・  
東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 理学療法科学域 永井 公規

**■ブレックファーストセミナー・ランチョンセミナー**

アルケア株式会社  
オージー技研株式会社  
株式会社クレアクト  
株式会社 gene  
住友ファーマ株式会社  
株式会社 SENSTYLE  
株式会社テック技販  
パシフィックサプライ株式会社  
フィンガルリンク株式会社  
藤倉化成株式会社  
株式会社ホーマーイオン研究所  
株式会社メルティン MMI  
リハテックリンクス株式会社

**■企業展示**

株式会社 ATR-Promotions  
伊藤超短波株式会社  
インターリハ株式会社  
オージー技研株式会社  
株式会社クレアクト  
CYBERDYNE 株式会社  
酒井医療株式会社  
株式会社三笑堂  
シスネット株式会社  
市中在住脳卒中者への装具ボツリヌス併用運動療法研究会 (CORABOSS)  
住友ファーマ株式会社  
ゼロシーセブン株式会社  
帝人ファーマ株式会社  
株式会社テック技販  
パシフィックサプライ株式会社  
フィンガルリンク株式会社  
藤倉化成株式会社  
フランスベッド株式会社  
株式会社ホーマーイオン研究所  
マクセル株式会社  
ミナト医科学株式会社  
株式会社メルティン MMI  
株式会社リハサク

**■書籍展示**

医学書専門店 株式会社ガリバー

**■企業プレゼンテーション**

株式会社クレアクト  
シスネット株式会社  
住友ファーマ株式会社  
株式会社メルティン MMI



## ■広告（バナー・スポット）

インターリハ株式会社  
株式会社エクサウィザーズ  
株式会社える  
畿央大学  
株式会社協同医書出版社  
株式会社 gene  
株式会社新興医学出版社  
ゼロシーセブン株式会社  
株式会社 SENSTYLE  
トランクソリューション株式会社  
株式会社ひまわり  
藤倉化成株式会社  
補装具工房スタンス株式会社  
株式会社メジカルビュー社  
株式会社 LIFESCAPES  
リハテックリンクス株式会社  
リハビリ訪問看護ステーションココア

## ■広告（プログラム集・抄録集）

株式会社 医学書院  
医歯薬出版株式会社  
株式会社 今仙電機製作所  
株式会社運動と医学の出版社  
エムビージャパン株式会社  
オットーボック・ジャパン株式会社  
株式会社協同医書出版社  
株式会社杏林書院  
クオリア有限会社  
株式会社 COLABO  
ジャバンライム株式会社  
株式会社 SENSTYLE  
帝人ファーマ株式会社  
株式会社テック技販  
株式会社中山書店  
フィンガルリンク株式会社  
藤倉化成株式会社  
株式会社三輪書店  
株式会社メディカルプレス  
株式会社ユニメック  
株式会社羊土社  
株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団

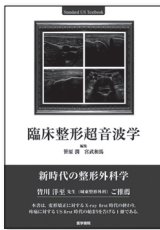
## ■協賛

株式会社アソシア  
株式会社 S&S  
オージー技研株式会社  
医療法人香庸会 川口脳神経外科リハビリクリニック  
島津サイエンス西日本株式会社  
丸善雄松堂株式会社 大阪支店  
株式会社ミユキ技研  
株式会社メルティン MMI  
履正社医療スポーツ専門学校  
特定非営利活動法人リハケア神戸  
リハテックリンクス株式会社

## ■プレコングレス

オージー技研株式会社  
株式会社ひまわり

(2022年9月30日現在)



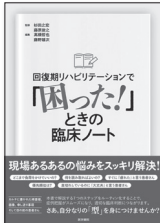
運動器超音波が切り開く新しい整形外科の教科書

## 臨床整形超音波学

編集 笹原潤・宮武和馬

●B5 2022年 頁392 定価:7,920円(本体7,200円+税) [ISBN978-4-260-04691-6]

詳しくはこちら



症例把握をルーティン化すれば、もう困らない。自分なりの「型」を身につけませんか？

## 回復期リハビリテーションで「困った!」ときの臨床ノート

監修 杉田之宏・藤原俊之 / 編集 高橋哲也・藤野雄次

●B5 2022年 頁256 定価:4,180円(本体3,800円+税) [ISBN978-4-260-04648-0]

詳しくはこちら



装具難民のミカタになるために、装具のミカタを身に付ける

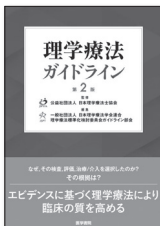
## 脳卒中の装具のミカタ [Web動画付]

Q&Aでひも解く57のダイジなコト

編集 松田雅弘・遠藤正英

●B5 2021年 頁296 定価4,620円(本体4,200円+税) [ISBN978-4-260-04323-6]

詳しくはこちら



なぜ、その検査を、評価を、治療/介入を選択したのか？ その根拠は？

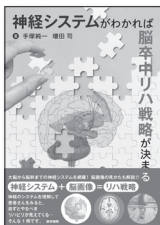
## 理学療法ガイドライン 第2版

監修 公益社団法人 日本理学療法士協会

編集 一般社団法人 日本理学療法学会連合 理学療法標準化検討委員会ガイドライン部会

●B5 2021年 頁648 定価:6,050円(本体5,500円+税) [ISBN978-4-260-04697-8]

詳しくはこちら



神経システム+脳画像=リハ戦略 自ずとやるべきリハが見えてくる……そんな1冊です

## 神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がわかる

手塚純一・増田司

●B5 2021年 頁224 定価:4,950円(本体4,500円+税) [ISBN978-4-260-03682-5]

詳しくはこちら



理学療法で必要となる評価を網羅。「この評価法が知りたかった」が必ずわかる!

## PT臨床評価ガイド

編集 畠昌史・藤野雄次・松田雅弘・田屋雅信

●A5 2022年 頁656 定価:6,820円(本体6,200円+税) [ISBN978-4-260-04295-6]

詳しくはこちら



この1冊で、「活動を育む」リハビリテーション医学・医療とは何か、がわかる

## リハビリテーション医学・医療コアテキスト

第2版

監修 一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構  
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

●B5 2022年 頁440 定価:4,400円(本体4,000円+税) [ISBN978-4-260-04959-7]

詳しくはこちら





目次&本文サンプルはこちらから!

こちらを読み取ると  
詳しい情報がご覧いただけます



# 脊髄損傷の リハビリテーション医学・医療

—最前線と未来への展望—

中村 健 編

B5判 128頁 定価3,080円(本体2,800円+税10%)

- 脊髄損傷のリハビリテーション領域は、新たな知見や治療法の開発により著しい進展を遂げており、電気刺激やロボット技術を利用した機能再建、ボトックスやITBによる痙縮治療、そして再生医療についても現実となりつつある。本書では、そうした脊髄損傷のリハビリテーション医学・医療の最新テーマへ焦点を当てるとともに、未来に向けた展望に至るまでを広く解説。
- 巻頭座談会として「パラアスリートの未来」と題し、その発端から脊髄損傷との関わりが深い障がい者スポーツについて、障がい者スポーツ協会・パラ陸連で活躍されている第一線の方々が熱い議論を展開!

わかりやすいWeb動画付きで理解が深まる!



目次&本文サンプルはこちらから!

こちらを読み取ると  
詳しい情報がご覧いただけます



PTマニュアル

# 脊髄損傷の理学療法

Web動画付

第3版

武田 功 編著

B5判 256頁 定価4,950円(本体4,500円+税10%)

ISBN978-4-263-21483-1

- 脊髄損傷の基礎知識から理学療法の実際までをコンパクトにまとめた定評あるマニュアルの第3版。本書のコンセプトは維持しつつ、最新情報のエッセンスを盛り込んで改訂。
- 長年脊髄損傷の理学療法に携わってきた筆者の経験をもとに脊髄損傷者の心理的適応について新たな章を追加。
- より理解を深めるため、座位評価、基本動作練習、立位・歩行練習、車いす練習(移乗動作、駆動)のわかりやすい動画をWebで掲載。

主な目次

第1章 脊髄損傷の基礎的知識  
第2章 理学療法評価  
第3章 呼吸理学療法  
第4章 理学療法(治療指導)  
第5章 車いす処方と練習

第6章 精神・心理的適応とアプローチ  
第7章 排尿・尿路障害  
第8章 性機能障害への援助  
第9章 脊髄損傷とスポーツ  
第10章 脊髄損傷と自動車運転



ASSISTING  
YOUR  
LIFE  
QUALITY

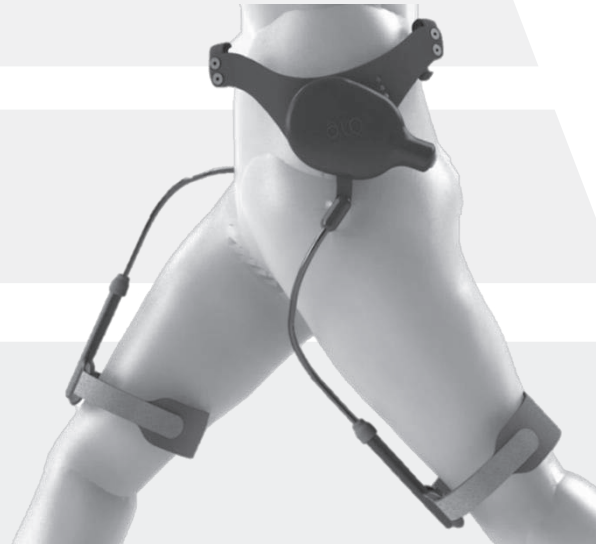
 **IMASEN**  
ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.

いつまでも自分の足で歩くために

無動力歩行アシスト機

あしQ

by ACSIVE



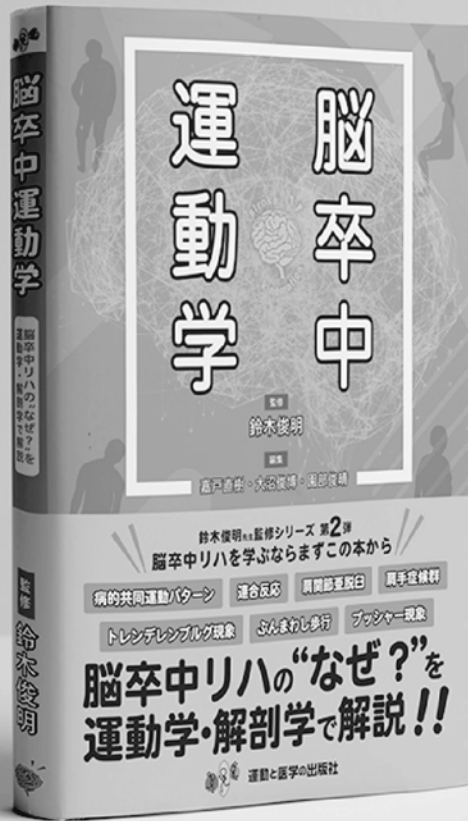
バネの力で脚の振り出しをアシスト

 株式会社 **今仙電機製作所**

本社：〒484-8507 愛知県犬山市字柿畑1番地  
TEL：0568-67-1211 FAX：0568-67-3418  
<https://www.imasen.co.jp>







鈴木俊明先生監修シリーズ 第2弾

脳卒中リハの“なぜ？”を運動学・解剖学で解説！！

# 脳卒中運動学

監修 鈴木俊明 編集 嘉戸直樹・大沼俊博・園部俊晴

## 第I部 運動と現象の運動学的解釈

### 第1章 なぜ今、片麻痺患者の運動学なのか？

1. 本書で一考したいこと
2. 片麻痺患者のリハビリテーションの経緯と現状
3. 数々の提言

### 第2章 病的共同運動パターンを運動学で考える

1. 病的共同運動パターンとは
2. 上肢の病的共同運動パターンを説明する
3. 下肢の病的共同運動パターンを説明する

### 第3章 適合反応を運動学で考える

1. 適合反応とは
2. 歩行時の上肢の適合反応
3. 歩行時の下肢の適合反応

### 第4章 両側面歪脱臼を運動学で考える

1. 両側面歪脱臼とは
2. 片麻痺患者の両側面歪脱臼を運動学的に考えてみよう！

### 第5章 両手足麻痺を運動学で考える

1. 両手足麻痺とは
2. 片麻痺患者の両手足麻痺を運動学的に考えてみよう！

### 第6章 トレンデレンブルグ現象を運動学で考える

1. トレンデレンブルグ現象とは
2. 片麻痺患者のトレンデレンブルグ現象を運動学的に考えてみよう！

### 第7章 ふんばり歩行を運動学で考える

1. ふんばり歩行とは
2. 片麻痺患者のふんばり歩行を運動学的に考えてみよう！

### 第8章 ブッシュャー現象を運動学で考える

1. ブッシュャー現象とは
2. ブッシュャー現象を運動学的に考えてみよう！

## 第II部 脳卒中運動学の臨床応用

### 第1章 脳卒中運動学を用いた評価・治療戦略

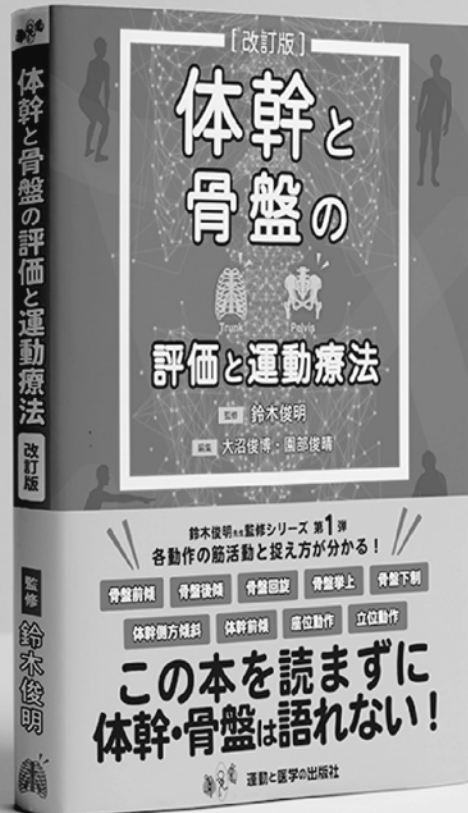
1. 立位姿勢に対する評価・治療戦略
2. 立ち上がり動作に対する評価・治療戦略

### 第2章 症例から学ぶ脳卒中運動学

1. 座位姿勢保持に対する理学療法と自主トレーニング
2. 立位姿勢に対する理学療法とトレーニング
3. 歩行動作に対する理学療法と自主トレーニング
4. 歩行時の下肢の振り出しに対する自主トレーニング
5. 不安定した姿勢を保持した選択動作に対する理学療法と自主トレーニング

脳卒中運動学

全国の書店＆ネットストアで発売！



鈴木俊明先生監修シリーズ 第1弾

この本を読まずに体幹・骨盤は語れない！

# 改訂版 体幹と骨盤の評価と運動療法

監修 鈴木俊明 編集 大沼俊博・園部俊晴

## 第1章 体幹の解剖運動学

## 第2章 体幹の構造と機能

## 第3章 運動と現象

## 第4章 座位における体幹・骨盤の機能と運動療法

## 第5章 立位における体幹・骨盤の機能と運動療法

体幹と骨盤の評価と運動療法 改訂版

全国の書店＆ネットストアで発売！





— 唾液マーカーで4つのパラメーターを素早く分析 —

## 唾液中ストレスマーカー分析装置

### SOMA Cube Reader

- ★ スポーツ選手のストレスチェック、  
コンディション評価に！
- ★ 企業におけるストレスチェック、  
メンタルヘルス対策に！
- ★ 免疫機能の追跡評価に！

英国より高性能低価格な小型 Lab が登場

★ サンプルの冷凍保存は必要ありません

現場で素早くリアルタイム測定！



4 種類のパラメーター分析

- ★ コルチゾール
- ★ sIgA (免疫グロブリン A)
- ★ sIgG (免疫グロブリン G)
- ★  $\alpha$ -アミラーゼ

\* 測定項目は増加予定です。

— ウェアラブル ストレス分析・バイオフィードバック装置 —

## トリプルセンサー eVu TPS



心拍変動 (HRV)

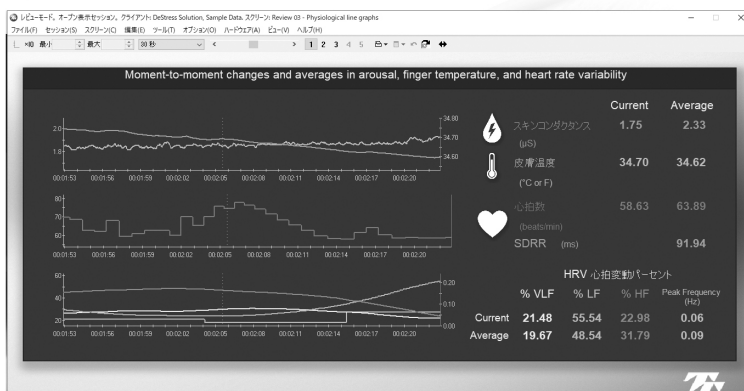


スキンコンダクタンス (汗)



皮膚温度

専用アプリ DeSterss SUITE にてリアルタイム解析機能付き



Contact:



エムピージャパン株式会社

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-1-15

TEL:03-3839-7557 FAX:03-3839-7655

www.mpjapan.co.jp e-mail: info@mpjapan.co.jp

ottobock.



完成用  
部品認可\*

## モジュラー足継手 ネクスギア タンゴ(17AD100)

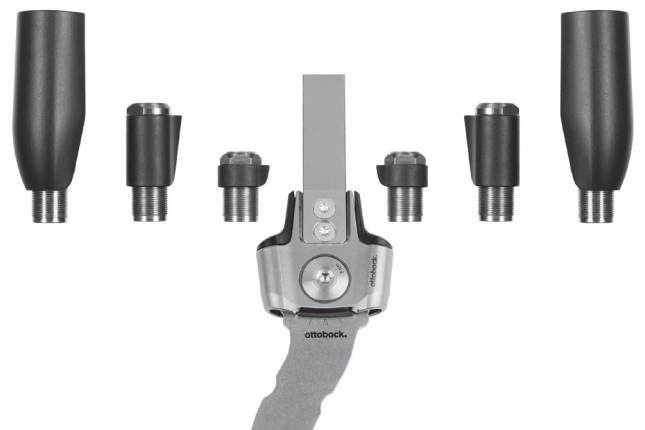
身体状況の変化やリハビリに合わせ  
ダイナミックにカスタマイズ

ネクスギア タンゴ足継手は、各パーツを選んで使用するモジュラー足継手です。底背屈方向の制限・制動に対しモジュールパーツを選択し、ユーザーに必要な機能を備えた装具にすることができます。リハビリにおける身体機能変化にも、パーツの交換・調整で合わせる事が可能です。

詳しくは、**WEB** ページをご覧ください。



\* 特定サイズ・種類に限る





ペルフェッティ・パースペクティブ [I]

# 認知神経リハビリテーションの 誕生

カルロ・ペルフェッティ・著  
小池美納・訳 宮本省三・編集

身体と精神をめぐる思索

必読書

『身体と精神』に次ぐ  
ペルフェッティの貴重な講義録

リハビリテーションは  
どこに向かうべきなのか

## その探求の軌跡をたどる

ペルフェッティは運動機能の回復を、身体-精神のシステムの回復と捉え直し、リハビリテーションにとって革命的ともいえる視点の転換をもたらしました。それは、訓練を通して、障害によって変質した神経メカニズムの再構築・認知過程の再組織化をはかることであり、そのことは同時に患者の意識経験（主観）の変容を伴うという考え方です。言い換えれば患者の意識経験の変化が中枢神経系を改変するということです。その視座は、運動学・神経生理学・神経心理学・脳科学・教育学・哲学など自然科学・人文科学を合体させた膨大な知の蓄積の中からリハビリテーション（病的状態における学習プロセス）の観点から役立つものを取捨選択するなかで得られたものです。

治療理論の確立のために理論的仮説を立て、常に訓練で検証し、理論をさらに「厳密な科学」へと発展させてきたその思索の軌跡を本書でたどることは、ペルフェッティが切り開いたリハビリテーションの方向を見据え、「未来のためのツール」を手にするにつな갑니다。



● B5変形・208頁  
定価 4,400円(本体4,000円+税10%)  
ISBN978-4-7639-1092-9

### 目次

#### 【第I部】思考の階段

- 講義1 認知神経リハビリテーションの歴史
- 講義2 身体化された自己、意識経験

#### 【第II部】脳は情報を構築する

- 講義3 片麻痺の情報性 [I]
- 講義4 片麻痺の情報性 [II]
- 講義5 「行為の知覚から意図の理解へ」を読む

#### 【第III部】手は「脳の鏡」である

- 講義6 手のリハビリテーションの特異性
- 講義7 手の情報メカニズムと訓練プロセス
- 講義8 手は精神である
- 講義9 手の回復、文化と自由のはざまで

#### 【第IV部】脳は行為を比較する

- 講義10 訓練と現実 [I]
- 講義11 訓練と現実 [II]
- 講義12 行為間比較への旅

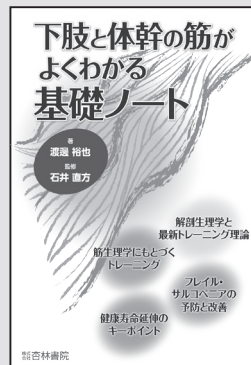


新刊

# 下肢と体幹の筋がよくわかる 基礎ノート

監修：石井直方 (東京大学名誉教授)  
著：渡邊裕也 (明治安田厚生事業団体力医学研究所)  
A5判・240頁、定価3,300円 (税込)

使える  
エビデンスが  
詰まった一冊!



- 本書は、第1章では骨格筋と健康寿命の関係について、特にサルコペニアとフレイルを中心に述べ、第2章では筋萎縮と増量の生理学的機序について最新の知見を交えて解説しています。第3章では体幹筋の機能と日常的な活動能力との関連性、第4章では加齢に伴う筋の質的变化とその評価法としての画像解析の可能性について述べ、さらに第5章では一般的な筋力トレーニングの効果、第6章では高齢者でも安全に行える新しいトレーニング法について筋発揮力維持スロー法 (スロートレーニング) を中心に解説しています。介護予防、フレイル、サルコペニア予防、つまり加齢の変化に対応しつつ「健康寿命」を延ばすためのトレーニングの観点と、誰もが筋力トレーニングを行うにあたって知っておきたい背景と最新情報を含めて、その基礎となる内容をトレーニング科学の観点から体系的にまとめています。
- 特に、加齢に伴う機能低下の著しい下肢と体幹の筋群、それらの生理学および機能解剖学的特徴に加え、エビデンスに基づく効果的なトレーニング法を詳説しています。筋肉に興味をお持ちの方々、あるいはトレーニングをされている方々にも知っていただきたい骨格筋と健康維持、増進の基礎的内容をまとめたものでもあります。筋肉を学術的な視点で深く理解することで、日々のトレーニングがより充実したものになり、長期的にトレーニングを続けていただけるのではないかと思います。
- サルコペニアやフレイルを研究対象とするリハビリテーション学、健康科学関連分野の研究者や学生はもとより、現場で活躍する高齢者のサポートを担っている方々、健康運動指導士、保健師、理学療法士、介護士、セラピスト、そしてトレーニング指導者、さらには一般の読者、すべての方々にとって、下肢・体幹筋の基礎、最新知見、トレーニング法を理解するためのガイドブックです。

# 脳とこころから考える ペインリハビリテーション ひとをみるという志向性

編著：森岡 周 (畿央大学大学院健康科学研究科教授、  
畿央大学ニューロリハビリテーション研究センターセンター長)

A5判・256頁、定価3,960円 (税込)



本書は、今後、増え続ける慢性疼痛への画一的なアプローチではなく、より深く、広く慢性疼痛を多角的にとらえ、対処していく方法を提示することを意図しています。ニューロリハビリテーションを中心に、運動イメージや心理的側面を含めた包括的なリハビリテーションにつなげていくエビデンスと方法を解説しています。多くのセラピストに、本書を通して、慢性疼痛の本質的理解からリハビリテーション現場への活用実践に役立つお薦めの1冊です。

- 第1章 本書のパースペクティブ
- 第2章 慢性疼痛の神経メカニズム
- 第3章 心理社会的モデルからみた慢性疼痛
- 第4章 恐怖情動と慢性疼痛の関係
- 第5章 身体イメージの変容からみた慢性疼痛
- 第6章 慢性疼痛の評価とリハビリテーションの概要
- 第7章 病態メカニズムから考える慢性疼痛のリハビリテーション
- 第8章 慢性疼痛に対する実際のアプローチ



株式会社 杏林書院

〒113-0034 東京都文京区湯島4-2-1  
Tel. 03-3811-4887 Fax. 03-3811-9148 <http://www.kyorin-shoin.co.jp>





# 認知キット



*Sussidi per Esercizio Terapeutico Conoscitivo*

Profetti教授監修、イタリア・fumagalli社製造  
認知神経リハビリテーション(認知運動療法)を実践するための道具の数々。

認知キット シリーズ1 100001



認知キット シリーズ4 100004



認知キット シリーズ2 100002



認知キット シリーズ5 100005



認知キット シリーズ3 100003



認知キット manoシリーズ 100006



製造元 Fumagalli Care & Reha s.r.l. (Italy)

クオリア株式会社 [www.qualia-jp.com](http://www.qualia-jp.com)

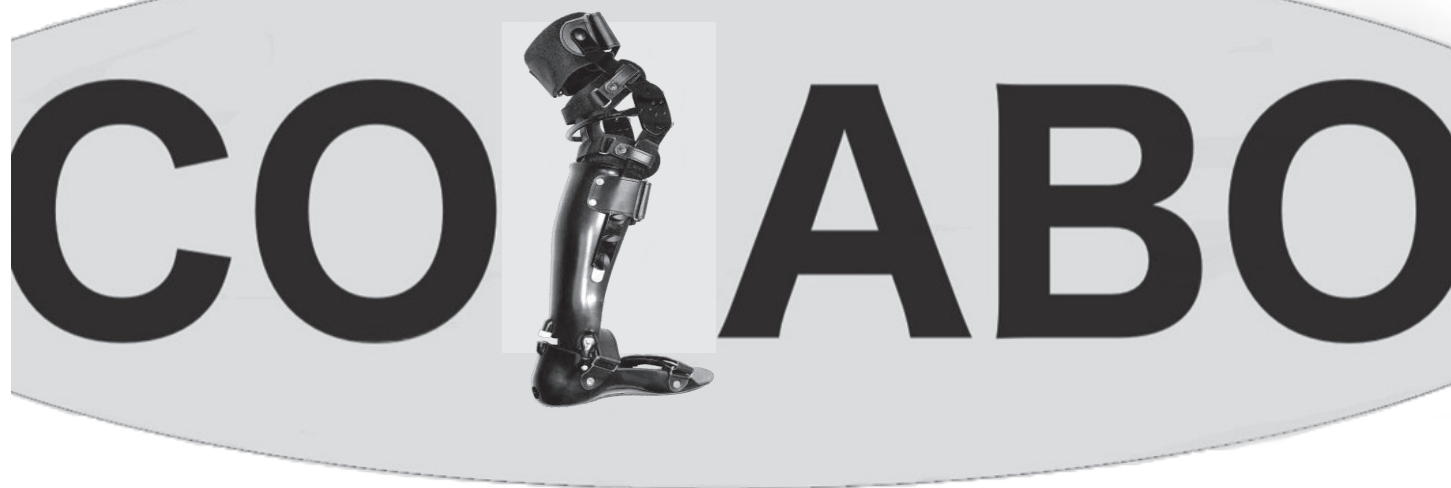
〒332-0021 埼玉県川口市西川口1-28-15 Tel:048-240-1516 Fax:048-240-1518



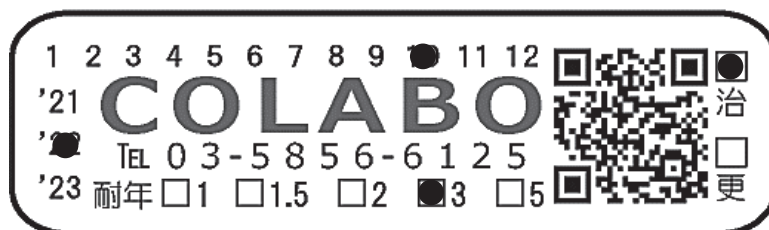
多職種連携がカタチになる

東京

足立



(株)COLABOの装具に貼る社名シールは装具の作製年月、治療用か更生用か、さらに耐用年数がわかります



QRコードを読み取って  
 てください

耐用年数表はコピーをしてご活用ください

耐用年数 ※1						使用年数 (18歳未満) ※2										
下肢装具	股装具	金属枠硬性	3	体幹装具	頸椎装具	金属枠	3	上肢装具	肩装具	3	0歳	4カ月				
		硬性				硬性	2		肘装具	両側支柱	1~2歳	6カ月				
		軟性	2			カラー			硬性		3~5歳	10カ月				
	膝装具	両側支柱	3		胸椎装具	金属枠	3		手関節背屈保持装具	軟性	2	6~14歳	1年			
		硬性				腰椎装具	硬性			2	側弯症装具 硬性・軟性	15~17歳	1年6カ月			
		スエーデン式	2			仙腸装具	軟性			1.5				完成用部品 足部	1年	
	長下肢装具	硬性支柱あり	3		側弯症装具	骨盤帯	2		MP 屈曲補助装具	3	MP 伸展補助装具	指装具	BFO			小部品 (消耗品)
		短下肢装具	硬性支柱なし			1.5	側弯症装具							ミルウォーカー	2	
	軟性		2		側弯症装具	金属枠	2									
	足底装具	靴型装具	硬性		1.5	側弯症装具	金属枠							1		
			軟性		2	側弯症装具	軟性							1		

※1 対応年数は、障害状況の変化等で身体に適合しなくなった場合や著しく破損し修理不能な場合は対応年数内でも再支給が可能です。  
 ※2 使用年数は、年齢による児童の特殊性を考慮して定めたものです。使用年数以内の故障に際しては、原則として小部品の取換えにより修理又は調整を行います。

私たちの作製する義肢装具は急性期、回復期から退院後の生活につながります  
 装具使用者、そしてサポートするすべての方に何が出来るか追及していきます  
 都内全域と足立区近隣の訪問先として「病院」「クリニック」を募集中です

代表取締役 久米亮一

長下肢装具の目的と役割を正しく理解する！

# 脳卒中片麻痺患者の 歩行トレーニングにおける

# 長下肢装具の 使い方

～歩行再建のための  
運動療法の基本的な進め方～



長下肢装具で患者の身体機能を  
最大限に引き出す！

近年、脳卒中片麻痺患者の歩行トレーニング・歩行再建において、脳卒中治療ガイドライン等で推奨されたこともあり長下肢装具(knee ankle foot orthosis:KAFO)を用いる機会が多くなってきています。

しかし、長下肢装具を用いた歩行練習には、なかなか難しい面も多くあります。そこで今回は、脳卒中片麻痺患者の歩行能力の特徴・問題点は何か？ということを整理した上で、長下肢装具を上手く使うために必要な理論的背景と歩行再建における長下肢装具の効果、そして、介助歩行の技術について実技を交えながら詳しく紹介します。

患者さんごとの個別性に対応して  
運動をデザインする！

解説 中谷 知生

NAKATANI Tomoki

- 宝塚リハビリテーション病院 療法部  
リハビリテーション研究開発部門長
- 理学療法士
- 一般社団法人日本神経理学療法学会 理事



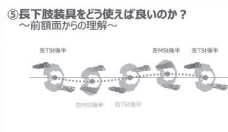
## CONTENTS

ME301-1

55min.

### 長下肢装具の使い方 <解説編>

- はじめに
- 脳卒中片麻痺者の歩行能力の特徴・問題点は何か？
- なぜ脳卒中片麻痺者の歩行速度は低下するのか？
- 歩行速度向上のために何を修正すべきか？
- 長下肢装具にはどんな効果が期待できるのか？
- 長下肢装具をどう使えば良いのか？



ME301-2

42min.

### 長下肢装具の使い方 <実技編>

- はじめに
- 介助歩行の技術:後方介助
- 介助歩行の技術:側方介助(T-Supportを装着)
- カットダウン(短下肢にして)
- まとめ

商品番号

ME301-S

販売価格

DVD2枚組 16,500円(税込)

サンプルムービー、  
商品詳細はコチラ



商品詳細・ご注文は通販サイトから… [www.japanlaim.co.jp/](http://www.japanlaim.co.jp/)

サンプルムービー配信中

JLC ジャパンライム株式会社

TEL.03(5840)9980 FAX.03(3818)6656

ジャパンライム ME301

検索

【お申込み・お支払い方法】○ご希望の商品番号を指定し、電話かリガキ、FAX、もしくはDVD通販サイトにてお申込みください。受注確認後3～6営業日後でお届けします。  
○送料は1回につき800円(税込)。○到着日指定で「代金引換(手数料無料)」の宅配便でお送りします。○カード(VISA、MASTER、AMEX、他)もご利用できます(分割も可)。

ME301  
2022.4



**TEIJIN**

## 上肢のリハビリテーションに 新たな選択を



能動型上肢用他動運動訓練装置 認証番号 226AHBZX00029000

上肢用ロボット型運動訓練装置

# ReoGo<sup>®</sup>-J

保険適用

New Model

**【禁忌・禁止】** 1. 適用対象(患者)

- ・ 訓練中の座位保持が不可能な患者には適用しないこと。[けがの原因となる。]
- ・ 訓練上肢への外力に対し激しい痛みを感じる患者には適用しないこと。[けがの原因となる。]

【使用目的又は効果】 1. 使用目的：関節の癒着・拘縮の予防及び関節可動域の改善を行うこと。

その他の使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

2021年12月改訂(第4版)

製造販売業者  
帝人ファーマ株式会社

製造業者  
村田機械株式会社

【お問い合わせ先】  
帝人ファーマ株式会社 リハビリ事業推進班

 **0120-113-687**

RGJ001-TB-2202  
2022年2月作成

# BASYS

for better standing balance



身長約160cm

## 重心動揺リアルタイムフィードバックシステム —新しい姿勢調節リハビリテーションの提案—

【医療機器製造販売業許可番号】 26B3X10012  
 【医療機器承認番号】 26B3X10012000001  
 診療報酬点数  
 ・重心動揺検査 (250点)  
 ・パワースペクトル分析 (200点)

### 重心動揺リアルタイムフィードバックシステム



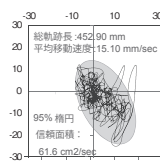
#### 姿勢障害の評価と改善を実現するための新しいリハビリテーション方法を提案します

リアルタイムに検知した立位姿勢時の重心動揺を本人の知覚にのぼらないレベルで「増幅／減衰」させることで、立位姿勢調節を最適化するための姿勢リハビリテーション用プラットフォームです

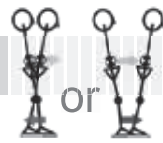
装置による床面の動揺範囲は実施者の知覚にのぼらない程度のごく僅か(重心動揺量の5~15%)なレベルです。

明確に知覚できる揺れ → 意図的な調節  
 知覚にのぼらない揺れ → 無意識的に調節

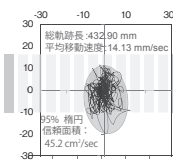
#### ①重心動揺計測 (姿勢調節能の評価)



#### ②リハビリ実施 (立位姿勢の調整的介入)



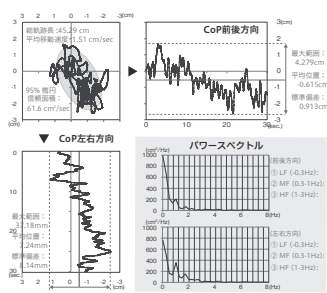
#### ③重心動揺計測 (リハビリ効果の定量化)



立位姿勢の最適化

※本装置は国立障害者リハビリテーションセンター研究所 河島則天 神経筋機能障害研究室長との共同開発品です。

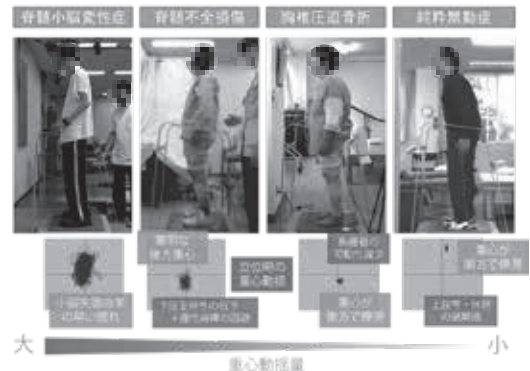
#### 立位姿勢を評価するための計測・解析ツール



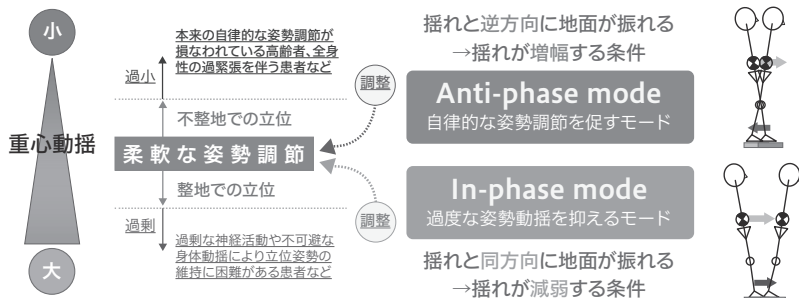
専用アプリケーションによる重心動揺計測によって立位姿勢調節能の定量的評価が可能となります。

第三种医療機器認可取得  
 診療報酬請求が可能  
 重心動揺基本計測: 250点  
 パワースペクトル分析: 200点

既に連携病院での請求実績があります



#### 立位姿勢調節を最適化させる2つのモード



- 立位姿勢を保っているときの揺れは足圧中心 (center of pressure: CoP) の計測によって捉えることができます
- 姿勢調節が正常に機能している場合にはCoPは適性定の範囲に収まり、絶えず微細な動きを繰り返します
- 加齢や障害により安定した立位姿勢の維持が難しくなった場合には正常範囲を大きく超えたり、逆に極端に狭小化するなどの特徴を示します

#### リハビリテーション場面でのBASYSの活用

立位姿勢時の重心動揺計測によって姿勢障害の特性を把握し、対象者の特性に応じてin/anti phaseのいずれかを選択、知覚にのぼらないレベルでの揺れを与えることで姿勢調節を最適化することを目指します。



# “基礎教育”現場の要望に応える 新“教科書シリーズ”!

# 15 Lecture

15レクチャー  
シリーズ

国家試験への  
合格だけでなく  
臨床につながる教育を  
可能にする

## 各教科の学習目標が一目瞭然

各教科の冒頭に「学習主題」「学習目標」「学習項目」を明記したシラバスを掲載。

## 多くの養成校で採用されているカリキュラム

“1レクチャー(90分)×15”にのっとった構成

効率的に質の高い講義を可能にするため1レクチャーの情報を吟味。

## レクチャーごとに到達目標と確認事項を明記し、 学生のモチベーションもアップ

学生があらかじめ何を学ぶべきかが明確にわかり、講義後の復習にも効果的。

A4判/並製/2色・4色刷  
各巻約170～240頁  
定価(本体2,400～2,600円+税)

## シリーズの構成と責任編集

### 理学療法テキスト

総編集 石川 朗

- |                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| ■ 理学療法概論                     | ◎ 浅香 満           |
| ■ 内部障害理学療法学 呼吸 <b>第3版</b>    | ◎ 玉木 彰           |
| ■ 内部障害理学療法学 循環・代謝 <b>第2版</b> | ◎ 木村雅彦           |
| ■ 義肢学 <b>第2版</b>             | ◎ 永富史子           |
| ■ 装具学 <b>第2版</b>             | ◎ 佐竹将宏           |
| ■ 運動器障害理学療法学 I <b>第2版</b>    | ◎ 河村廣幸           |
| ■ 運動器障害理学療法学 II <b>第2版</b>   | ◎ 河村廣幸           |
| ■ 神経障害理学療法学 I <b>第2版</b>     | ◎ 大畑光司           |
| ■ 神経障害理学療法学 II <b>第2版</b>    | ◎ 大畑光司           |
| ■ 理学療法評価学 I                  | ◎ 森山英樹           |
| ■ 理学療法評価学 II                 | ◎ 森山英樹           |
| ■ 物理療法学・実習                   | ◎ 日高正巳・玉木 彰      |
| ■ 運動療法学                      | ◎ 解良武士・玉木 彰      |
| ■ 理学療法管理学                    | ◎ 長野 聖           |
| ■ 地域理学療法学                    | ◎ 鈴木英樹           |
| ■ 小児理学療法学                    | ◎ 奥田憲一・松田雅弘・三浦利彦 |
| ■ 予防理学療法学                    | ◎ 木村雅彦           |

### 理学療法・作業療法テキスト

総編集 石川 朗・種村留美

- |          |             |
|----------|-------------|
| ■ 運動学    | ◎ 小島 悟      |
| ■ 臨床運動学  | ◎ 小林麻衣・小島 悟 |
| ■ 運動学実習  | ◎ 小島 悟・小林麻衣 |
| ■ ADL・実習 | ◎ 長尾 徹・長野 聖 |

### リハビリテーションテキスト

総編集 石川 朗・種村留美

- |                |             |
|----------------|-------------|
| ■ リハビリテーション統計学 | ◎ 対馬栄輝・木村雅彦 |
| ■ がんのリハビリテーション | ◎ 立松典篤・玉木 彰 |

### 作業療法テキスト

総編集 石川 朗・種村留美

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ■ 内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝 | ◎ 野田和恵      |
| ■ 高次脳機能障害・実習         | ◎ 酒井 宏・洲 雅子 |

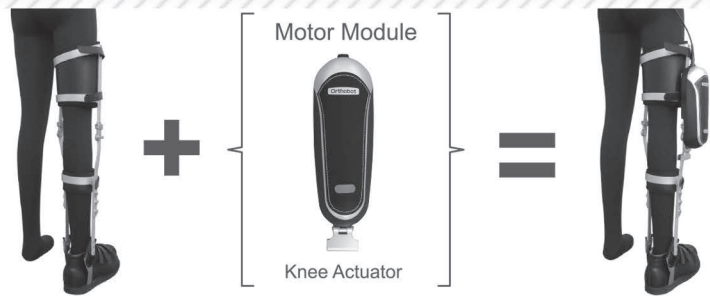


# 遊脚期の膝運動に着目した 歩行学習ロボット

歩行学習支援ロボット

## Orthobot

オルソボット



### 負担にならない軽量な構成

本体ユニット、腰ベルトユニットで構成されており、  
合計3kgと軽量

### 簡単かつすばやく着脱可能

装着時間は1分程度  
腰ベルト 取付 → 本体取付 → ケーブル接続の3ステップ

### 3ステップの簡単操作

左右切替 → プリセットモード選択 → 駆動ON  
この3ステップですぐに動作可能

### カスタム

利用者により合わせたタイミングと時間、トルクを設定可能

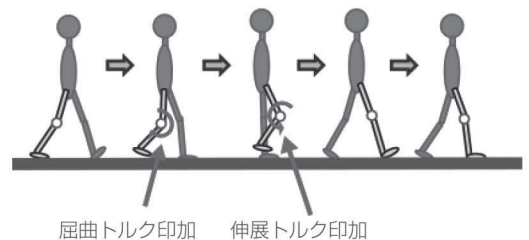
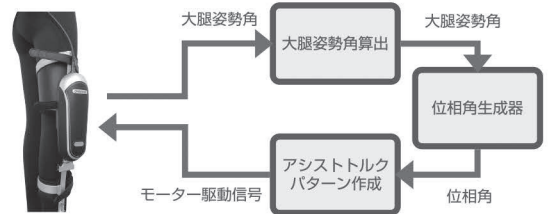


## 大腿姿勢角センサー

6軸姿勢角センサーが膝関節の  
屈曲・伸展運動を感知し、  
アシストトルクを発生させる

## 遊脚期の制御

膝屈曲アシストを加えて早期の抜重を促す  
接地するまでに膝を伸ばすように伸展荷重を促す  
遊脚期において、膝関節の屈曲・伸展を  
モーターでアシストする



製品のお問い合わせ・ご用命

総販売元

Life Science & System's  
**Finggal Link**

フィンガルリンク株式会社  
〒111-0041  
東京都台東区元浅草2-6-6 東京日産第当ビル5F  
TEL: 03-6802-7145 (代表) FAX: 03-6802-7156  
E-mail: info@finggal-link.com  
Web: www.finggal-link.com

開発製造元

Fine Precision, Nano Solution  
**SUNCALL** サンコール 株式会社  
〒615-8555 京都府京都市右京区梅津西浦町14



# リハビリテーションにおける 歩行練習デバイス

## GS Knee (ジーエスニー)

**RoboChemia® GSKnee®** はリハビリテーションでの歩行練習時に理学療法士が操作して使う機器です。

- ✓ 長下肢装具の使用でも立脚後期から遊脚期に膝が屈曲可能
- ✓ 優れた装着性と操作性
- ✓ 世界初の自社開発新素材により軽量・省電力を実現
- ✓ ロボット技術を取り入れた安全設計

WEB SITE >>>  
[gsknee.jp](http://gsknee.jp)



### RoboChemia

FUJIKURA KASEI CO., LTD.

RoboChemia® GS Knee® は藤倉化成が  
東京電機大学 三井和幸教授、  
国際医療福祉大学 山本澄子教授、  
川村義肢株式会社とアスラテック株式会社との産学共同開発と  
千里リハビリテーション病院の協力を得て  
開発したリハビリテーション機器です。

**RoboChemia®**(ロボケミア) は藤倉化成の新しいデバイスブランドです

■ 近年注目の「ニューロ・リハ」基礎と臨床の架け橋となる待望の一冊！

## イメージの科学

編集 森岡 周・松尾 篤



「身体の神経学的過程としての身体イメージ」「身体表象の神経基盤」「行動の神経学的過程としての運動イメージ」「運動イメージの神経基盤」などイメージを医療の領域に用いる際に重要な知見を、主に神経科学を用いて解説。「イメージとは何か」という基本的なことに躓いている初学者、臨床介入の実際および最先端の研究成果を待ち望んでいる臨床家にとって必携の書。

● 定価 3,960 円 (本体 3,600 円+税)  
A5 270頁 2012年 ISBN 978-4-89590-409-4



■ 理学療法と脳科学の接点とは？臨床での可能性と最新情報を伝える！

## 〈理学療法 MOOK〉16 脳科学と理学療法

シリーズ編集 黒川 幸雄・高橋 正明・鶴見 隆正 / 責任編集 大西 秀明・森岡 周



脳についての研究が進み、少しずつ謎が解明されてきているなか、理学療法にとっても脳組織がリハビリによってどのような影響を及ぼされるのか、検証する時代へと突入している。本書では、特に接点が高い「記憶」「学習」「可塑性」「運動」に関するトピックスや、脳機能イメージング装置の特徴や研究、臨床での病態の捉え方、介入成果などを最新の科学的知見をもとに平易に解説している。

● 定価 4,620 円 (本体 4,200 円+税)  
B5 260頁 2009年 ISBN 978-4-89590-325-7



■ ボツリヌス治療+リハビリテーション

適切な痙縮治療とさらなる機能改善を目指すための基礎～実践的な知識が詰まった一冊！

## エビデンスに基づくボツリヌス治療



監修 安保 雅博 / 編集 原 寛美・高橋 忠志  
ボツリヌスによる痙縮治療には、リハビリテーションを併用することが必須である。適切なリハビリテーションを行うには痙縮の病態と臨床症状を知り、ボツリヌスの作用機序等の基礎的な知識を持つことが必要である。本書はボツリヌス治療とリハビリテーションによる適切な上肢・下肢の痙縮治療と、さらなる機能改善を目指すために欠かせない理論と実践の知識が詰まった手引書である。

● 定価 5,280 円 (本体 4,800 円+税)  
B5 256頁 2022年 ISBN 978-4-89590-751-4



■ リハビリテーション医療における適切な介入戦略を選択・実践するうえで不可欠な「傷害の治癒」と「機能障害の発生」にかかわるメカニズムを整理

## 運動器の傷害と機能障害 その病態とメカニズム



編集 沖田 実・坂本 淳哉  
リハビリテーション医療における適切な介入戦略を選択・実践するうえで不可欠な「傷害の治癒」と「機能障害の発生」にかかわるメカニズムを整理し、「メカニズムを基盤としたリハビリテーション医療 (Mechanism-Based Rehabilitation)」の実現に必要な知識を集約した一冊である。また、学生の自己学習にも活用できるような多くの章に共通する基礎的事項やメカニズムに関する最新知見などはコラムとしてまとめている。

● 定価 4,620 円 (本体 4,200 円+税)  
B5 264頁 2021年 ISBN 978-4-89590-720-0



■ 思考を整理し アカデミックに書く！話す！  
あらゆるコミュニケーションに役立つ 伝えるための思考法

## 研究的思考法 想いを伝える技術



著 樋口 貴広  
研究上の作法を利用して自分の考えをクリアに伝える方法を解説した書。パラグラフ・ライティングの作法に基づき、「最初に意見・主張を示し、後に根拠を述べる」スタイルで伝える意義を解説。レポートや論文の文書作成などに対応できる思考法・表現技法を学ぶことができる。「自分の意見がなぜか人に伝わらない」と感じている人にとって、文章力・プレゼン力アップの第一歩を後押ししてくれる。

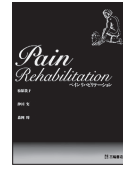
● 定価 3,300 円 (本体 3,000 円+税)  
A5 228頁 2019年 ISBN 978-4-89590-651-7



■ 「痛み」を訴えるヒトの前で、セラピストができる最良の治療とは何か？

## ペインリハビリテーション

編著 松原 貴子・沖田 実・森岡 周



痛みを苦しむ人に向き合うためには、正しい知見のもとに治療を行う必要がある。そこで、当代きっての若き研究者らが、それぞれの専門領域の立場からペインリハビリテーションの基礎と臨床に役立つ評価・治療について分かりやすく解説。初学者にとつての入門書として、また痛み治療に新しい道を模索する人にとって、知識のアップデートと治療の打開策を、同時に味わえる会心の一冊。

● 定価 4,620 円 (本体 4,200 円+税)  
A5 420頁 2011年 ISBN 978-4-89590-385-1



■ 知覚・認知の視点から、身体運動がもつ新たな一面を解き明かす

## 身体運動学 知覚・認知からのメッセージ

著 樋口 貴広・森岡 周



認知科学の発展に伴い、知覚・認知機能が運動制御や運動機能に密接に関連しているという事実が次々と明らかにされている。本書は、「実験心理学」と「リハビリテーション科学」の立場から研究成果を紹介しつうえて、知覚・認知機能が身体運動に対してどのような貢献をしているか、また知覚・認知の機能を理解することの臨床的重要性について、わかりやすく解説した秀逸な一冊。

● 定価 3,080 円 (本体 2,800 円+税)  
A5 250頁 2008年 ISBN 978-4-89590-319-6



■ 臨床が変わる！歩行のリハビリテーション決定版！

## 歩行再建 歩行の理解とトレーニング

著 大畑 光司



歩行運動を改善するためには「どのように歩くべきか」という歩き方そのものを指導する再教育が重要になる。そのためには、歩行とは「どのような運動であるか？」を熟知していなければ、効果的なトレーニングを提示することは困難である。本書では、歩行運動の意味やトレーニング手段を力学的背景と制御の考えに基づき、多数のビジュアルを用いて詳説。歩行の疑問をすっきり解決する一冊。

● 定価 4,400 円 (本体 4,000 円+税)  
B5 270頁 2017年 ISBN 978-4-89590-599-2



■ 安定した動作に必要な不可欠な要素「協調」とは何か？

## 姿勢と歩行 協調からひも解く

著 樋口 貴広・建内 宏重



安定した動作に不可欠な要素「協調」とは何か？姿勢と歩行の制御からその障害について、科学的な知見とデータから導き出された分析により、協調から生み出される動作と問題を解説。また、臨床家にとって有益と思われる個所には「クリニカルヒント」を設け、現場で役立つよう工夫。臨床家ならびに研究者、ヒトの動きの巧みに魅せられた全ての人々にとって発想の源となる希有な一冊。

● 定価 3,520 円 (本体 3,200 円+税)  
A5 320頁 2015年 ISBN 978-4-89590-517-6



■ 「痛み」の理解と的確なアプローチのために、おさえておきたいポイントと最新の動向をビギナーにもわかりやすく解説！

## ペインリハビリテーション入門

著 沖田 実・松原 貴子



「痛みの理解」では痛みの多面性と発生メカニズムを豊富なイラストで解説。末梢から神経系まで、「痛み」の基本が習得できる。「痛みの評価」では臨床現場でよく使用する評価票を取り上げ、痛みのリハビリテーション評価で押さえておくべきポイントが効率よく学べる。「痛み」の理解と的確なアプローチのために、おさえておきたいポイントと動向をビギナーにもわかりやすく解説した一冊。

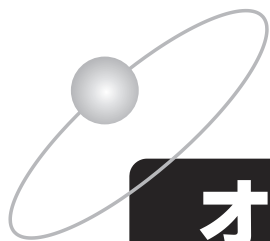
● 定価 3,850 円 (本体 3,500 円+税)  
B5 168頁 2019年 ISBN 978-4-89590-634-0



書名、価格等は2022年8月現在の情報です。変わることがございます。ご了承下さい。







# 『理学療法』

## オンライン版年間購読

- 一年分の購読料で10年以上の論文が読めます。(最新号は発行後、すぐアップ)
- 人気の品切れ号ももちろん読めます。
- 検索機能の向上により、論文検索の時間が大幅にスピードアップしました。
- 臨床実習、卒論作成にすぐお役立ていただけます。
- オンライン版をご注文いただきましたら、ID番号とパスワードをお届けいたします。(ご入金確認後、郵送)
- 32巻(2015年発行分)からプリントアウトが可能になりました。(パソコンのみ・各号5回)

### サービス概要

- ▶オンライン版は、ID番号とパスワードでご購読できます。PC、スマホ、タブレットなどから、いつでも、どこでも、読むことができます。画質は雑誌と同等で鮮明です。
- ▶検索はもちろん、**文章のコピー**、**マーカーや付箋**、**書き込み機能**を使い、自分専用の資料の感覚でご利用できます。

### 第39巻購読料(2022年発行分)

オンライン版での  
購読期間中は  
最新号から  
過去10年以上  
いつでも  
お読みいただけます

年決め購読 一般(税込み)			
オンラインのみ	19,800円(ID 1個)	23,100円(ID 2個)	41,800円(ID 5個)
冊子のみ	19,800円		
冊子+オンライン	23,100円(ID 1個)	26,400円(ID 2個)	41,800円(ID 5個)
年決め購読 学生(税込み)			
オンラインのみ	8,800円		
冊子のみ	11,000円		
冊子+オンライン	14,300円		

一般の方

※購読1件につきID2個を上限とさせていただきます。

※ID5個まとめてお申し込みの場合は、プラス22,000円(税込み)でお受けいたします。


学生の方

※対象は在校生のみです。卒業生は含まれません。

※IDは1個限定です。

※学生証を提示していただけます。(氏名と有効期限が確認できるもの)

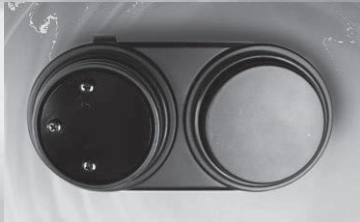
オンライン版のサンプルをホームページで公開中です!!

 **メディカルプレス**



〒179-0084 東京都練馬区氷川台 1-12-17  
TEL 03(3550)6400(代) FAX 03(3550)6260  
<https://www.medicalpress.co.jp/>  
振替口座 00170-7-169368 HPよりカード決済あり

## フ렌ツェル ウェアブルIRカメラ



UM-IRC

フレンツェル眼鏡に装着する事で、  
無線式赤外線フレンツェルカメラとして使えます。  
容易にピント調節が出来る為、鮮明な動画データを  
得られます

Windows搭載PC（無線LAN装備）と、iPhone・iPadの無償  
アプリを用意しています（詳細はお問合せください）  
軽量（125g）で測定し易く、ポケットサイズで  
持ち運びにも便利です。



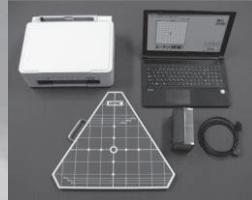
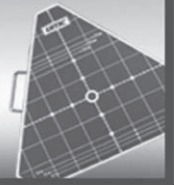
## めまい診療支援アプリ

Fushiki ETT Video

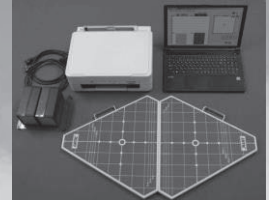
- iPhoneやiPadを使います
- デバイスを被験者の眼前に設置します
- 計測後、デバイスのカメラで  
撮影した映像を確認する事ができます



## 重心計 シリーズ



平衡機能計  
UM-BAR II



重心バランスシステム  
JK101 II

### ■ サンプルングレート100Hzの有用性

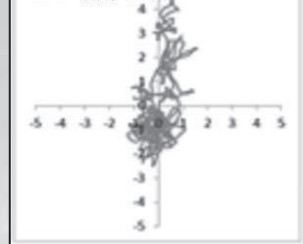
2013年の国際姿勢学会で提案された基準案で、  
重心計測は50Hz、又は100Hzが推奨されました

従来の20Hz計測データと比べ、データ数が多  
くなる100Hzの方が信頼性が高くなります。

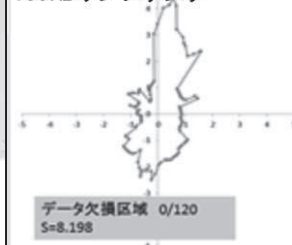
### ■ 診療報酬

標準検査	20点
重心動揺計	250点
パワー・ベクトル検査（加算）	200点
下肢加重検査	250点

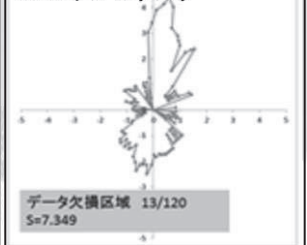
重心動揺図の例



100Hz サンプルング



20Hz サンプルング





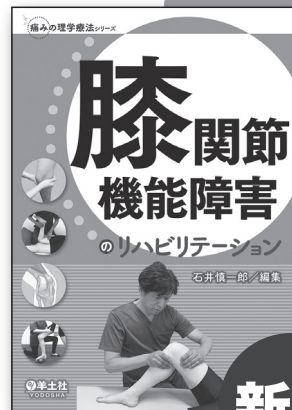
# 羊土社 オススメ書籍のご案内

痛みの理学療法シリーズ

## 膝関節機能障害 のリハビリテーション

石井慎一郎／編

□ 定価 5,940円 (本体 5,400円+税10%)  
□ B5判 □ 238頁 □ ISBN 978-4-7581-0254-4



新刊

膝周囲の解剖学的知識から、痛みや機能障害に対する理学療法の実際までをイラストと写真で解説。膝の痛みが起きるメカニズムの基本概念から治療法までがよくわかる!

好評シリーズ既刊

### 足部・足関節痛 のリハビリテーション



赤羽根良和／著

■ 定価 5,720円(本体 5,200円+税10%)  
■ B5判 ■ 232頁  
■ ISBN 978-4-7581-0246-9

### 非特異的腰痛 のリハビリテーション



赤坂清和, 竹林庸雄／監  
三木貴弘／編

■ 定価 5,720円(本体 5,200円+税10%)  
■ B5判 ■ 245頁  
■ ISBN 978-4-7581-0233-9

### 肩関節痛・頸部痛 のリハビリテーション



村木孝行／編  
三木貴弘／編集協力

■ 定価 5,720円(本体 5,200円+税10%)  
■ B5判 ■ 295頁  
■ ISBN 978-4-7581-0230-8

## PT・OT ビジュアルテキスト

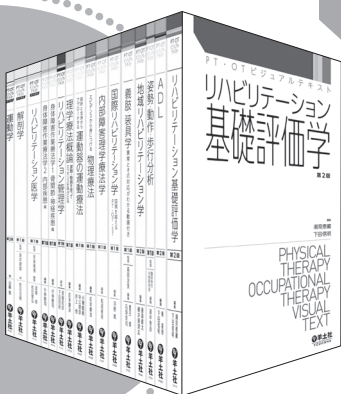
B5判

理学療法士・作業療法士を目指す学生のための

### 大好評教科書シリーズ!

シリーズラインナップ

- 精神医学
- ADL 第2版
- リハビリテーション基礎評価学 第2版
- 義肢・装具学 (2022年冬改訂予定)
- エビデンスから身につける物理療法 (2022年冬改訂予定)
- 運動学 第2版
- リハビリテーション管理学
- 地域リハビリテーション学 第2版
- 解剖学
- 姿勢・動作・歩行分析 (2022年冬改訂予定) ほか



発行 羊土社 YODOSHA

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-5-1  
TEL 03(5282)1211 FAX 03(5282)1212  
E-mail : eigyo@yodosha.co.jp  
URL : www.yodosha.co.jp/



セラピスト向けの  
Facebook ページ  
はじめました!



ご注文は最寄りの書店、または小社営業部まで